SONY PCV-MX3GK/MX3K

SONY

4-649-513-**01** (1)

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター
PCV-MX3GK/MX3K

i™ **S400**

© 2000 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

7〜14ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD-ROMドライブおよびMDドライブが搭載されています。

□ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
□ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
□ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
□ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

⚠警告・⚠注意 7
このマニュアルの使いかた 15
本機の使いかたがわからないときに 18
「サイバーサポート」ソフトウェアを使う 18
オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明） 19
Windows 2000のヘルプの使いかた 21
各ソフトウェアのヘルプを見る 23
各部の名称と働き 24

コンピュータの基本操作編

電源を入れる 42
電源を切る 43
再起動する 45
マウスを使う 46
ホイールボタンの使いかた 49
キーボードを使う 51
キーボードショートカット 55
文字を入力する 61
日本語入力のまえに 61
入力のしかたを選ぶ 63
文字入力を練習する 64
フロッピーディスクを使う 69
フロッピーディスクを入れる ... 69
フロッピーディスクのデータを使う 70
フロッピーディスクにデータをコピーする 71
フロッピーディスクを初期化する 72
データを書き込み禁止にする ... 73
使用できるフロッピーディスク 74

AV機能操作編

操作の前にお読みください
本機の動作モードについて 76
オーディオモードで電源を入れる ... 77
「MX Stage」について 78

再生する
ディスクを再生する 84
「Media Bar」ソフトウェアを使って再生する 84
オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って再生する 93
使用できるディスク 97
MDを再生する 100
「Media Bar」ソフトウェアを使って再生する 100
オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って再生する 104

MDに録音する
録音の前にお読みください 109
音楽CDを録音する 110
「Media Bar」ソフトウェアを使って録音する 110
オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って録音する 113
FMラジオを録音する 117
「Media Bar」ソフトウェアを使って録音する 117
オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って録音する 119

MDを編集する

MDを編集する前にお読みください 123

「Media Bar」ソフトウェアを使って編集する 124

FMラジオ

FMラジオを聞く 125

地域を指定してFM放送局を選ぶ（スーパーエリアコール） 125

プリセット局を選んで聞く 130

FM文字放送を見る 136

FM文字放送とは 136

「Media Bar」ソフトウェアを使って見る 137

前面パネルのボタンを使って見る 138

FM文字放送を保存する 140

よく見るFM文字放送番組を登録する（ブックマーク） 141

タイマーを使う

音楽を聞きながら眠る（スリープタイマー） 143

目覚ましとして使う（デイリータイマー） 144

FMラジオをMDへタイマー録音する 149

好みのソフトウェアを自動的に起動する

PPK（プログラマブルパワーキー）とは 153

ワンタッチでソフトウェアを起動する 154

プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる 154

テレビ／ビデオで楽しむ（PCV-MX3GKのみ）

テレビ番組やビデオを録画／再生する 157

テレビを操作する 159

動画／静止画で楽しむ

動画で楽しむ 161

i.LINK対応機器から動画を取り込む 161

動画を加工／編集する 163

動画を電子メールで送る 164

静止画で楽しむ 165

i.LINK対応機器から静止画を取り込む 165

静止画を電子メールで送る 166

パノラマ画像を作る 167

写真入りのラベルを作る 168

セットアップ編

音声・映像の設定を変更する

音質の設定を変更する 170

音楽にあった音を選ぶ（プリセットイコライザ） 170

音楽データやゲームの音質を変更する 174

DVDの設定を変更する 176

デジタル出力を切り換える 176

映像／音声出力を切り換える（PCV-MX3GKのみ） 178

年齢による視聴制限をする 179

光デジタル出力を切り換える 181

Windowsの設定を変更する

コントロールパネルとは 184

次のページにつづく

ディスプレイの設定を変更する ... 185
アクティブデスクトップを Windows 2000のデスクトップ画面からはずす 198
ウィンドウのデザインを変更する 199
省電力機能の設定を変更する 200
ユーザー制限の設定を変更する ... 204

拡張編

周辺機器を接続する

AV機器をつなぐ（PCV-MX3GKのみ）..... 208
ビデオ機器をつなぐ 209
テレビをつなぐ 212
ヘッドホンをつなぐ 213
i.LINK対応機器をつなぐ 214
「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする 216
i.LINKとは？ 216
i.LINKでの接続について 217
必要なi.LINKケーブル 219
本機と操作できるi.LINK対応機器 220
プリンタをつなぐ 221
USB機器をつなぐ 222
ネットワーク（LAN）を作る 223

本体を拡張する

拡張ボードを増設する 224
拡張ボードの種類..... 224
プラグアンドプレイについて 224
リソースについて..... 225
拡張ボード取り付けの流れ .. 226
拡張ボードを取り付ける 227
PCカードを使う 232
PCカードとは 232
PCカードを取り付ける..... 233
メモリを増設する 236

困ったときは

トラブルを解決するには..... 240
主なトラブルとその解決方法 242

その他

前面パネルのボタンを使ったその他の操作..... 260
コンピュータウイルスについて ... 266
リカバリ CDで本機を再セットアップする 269
パーティションサイズを変更する 274
使用上のご注意 278
MDのシステム上の制約 283
お手入れ 285
保証書とアフターサービス 287
モード別オーディオ／DVD用リモコン操作一覧 289
スーパーエリアコール周波数一覧 299
FM文字放送局一覧 303
表示窓メッセージ一覧 304
電話回線のコンセントの種類 306
動画系ソフトウェア入出力データ相関表 307
索引 310

⚠警告

火災　感電

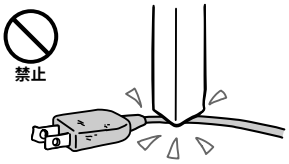
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

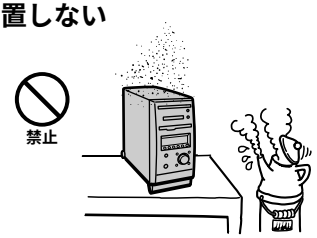
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。

むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたり、メモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

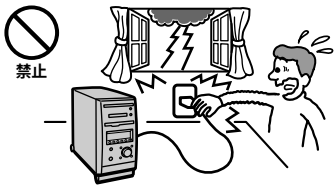
⚠警告

火災　感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

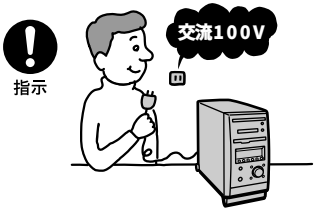
雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機の NETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

⚠警告 **下記の注意事項を守らないと、**
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。

指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

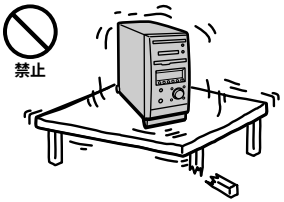
通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。

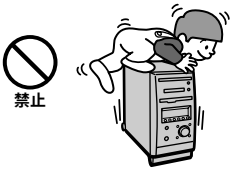


運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

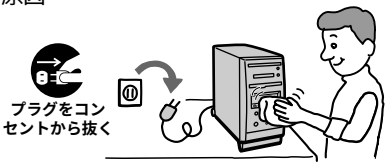
製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



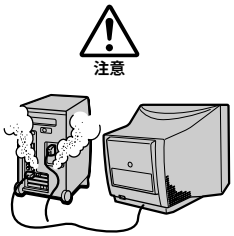
移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意 **下記の注意事項を守らないと<u>けが</u>をしたり周辺の<u>物品</u>に<u>損害</u>を与えたりすることがあります。**

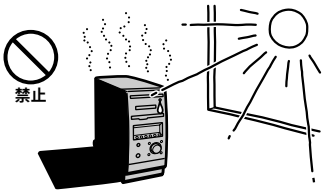
コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

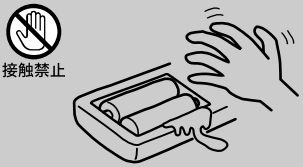
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



必ず次の処理をする

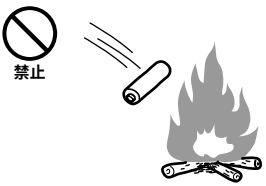
- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



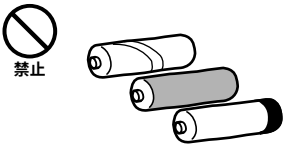
電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠注意

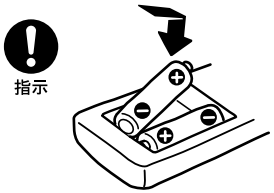
市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



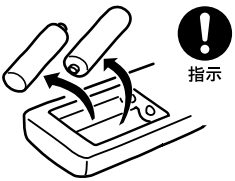
+と–の向きを正しく入れる

+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



このマニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機にどのようなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。

❑ コンピュータの基本操作編

ここでは、本機をコンピュータとして使うときの基本的な使いかたを説明しています。コンピュータの操作に慣れていない方はここからお読みください。特にコンピュータを初めてお使いになる方は「マウスを使う」（46ページ）や「キーボードを使う」（51ページ）、「文字を入力する」（61ページ）をお読みになり、コンピュータの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。

❑ AV機能操作編

ここでは、音楽CDやDVDビデオを再生したり、MDを編集したり、FM文字放送を受信したり、テレビ番組やビデオを録画／再生したり、静止画や動画を取り込むといった本機のAV機能の使いかたについて説明しています。

❑ セットアップ編

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、音声や映像の設定を変更したり、Microsoft® Windows® 2000 Professional（以降、Windows 2000と略します）の画面の設定を変更する方法を説明しています。

❑ 拡張編

ここでは、本機のAV機能をさらに快適で楽しくお使いいただくために、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンタなどの周辺機器をつないだり、また本機を拡張したりする方法について説明しています。

❑ 困ったときは

本機の操作がわからなかったり、本機がうまく動作しないときにお読みください。トラブルの解決方法を説明しています。

❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

次のページにつづく

本文中で使われている記号について

記号	意味
	知っていると便利な情報です。
	PCモードで使える機能です。
	オーディオモードで使える機能です。
	付属のオーディオ／DVD用リモコンを使って操作できる機能です。

、 および は「AV機能操作編」と「セットアップ編」のみで使われています。

PCモードとオーディオモードについて詳しくは、「本機の動作モードについて」（76ページ）をご覧ください。

本書に記載されている表示窓のイラストについて

本書で使われている本機前面の表示窓のイラストは実際のものと異なる場合があります。

本機でできること

本機でできることの一部をご紹介します。詳しくは、それぞれの項目の右側の参照先の説明をご覧ください。本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。インターネットの接続については、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
音楽CD、MDを聞きたい、DVDビデオを見たい	「再生する」（84ページ）
音楽CDやFMラジオをMDに録音したい	「MDに録音する」（109ページ）
MDを編集したい	「MDを編集する」（123ページ）
FMラジオを聞きたい	「FMラジオを聞く」（125ページ）
FM文字放送を見たい	「FM文字放送を見る」（136ページ）
タイマー再生／タイマー録音したい	「タイマーを使う」（143ページ）
テレビを本機につないでDVDビデオなどを迫力ある大画面で楽しみたい	「テレビをつなぐ」（212ページ）
テレビ番組やビデオを録画／再生したい	「テレビ番組やビデオを録画／再生する」（157ページ）
i.LINK対応機器から静止画や動画を取り込んで活用したい	「動画／静止画で楽しむ」（161ページ）
よく使うソフトウェアを自動的に起動したい	「好みのソフトウェアを自動的に起動する」（153ページ）

本機の使いかたがわからないときに

「サイバーサポート」ソフトウェアを使う

付属の「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの画面でトラブルや質問を入力することで、この取扱説明書の内容、本機に付属のソフトウェアの取扱説明書、BIOSセットアップメニューや内蔵モデムについての情報、Windows 2000のヘルプ、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）の中から、その解決方法を自動的に検索できます。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動するには

キーボードの (S6) キーを押す。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアが起動します。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 2000などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページでは、製品出荷後の最新情報を提供しています。VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」ソフトウェアで検索できる情報を更新してください。

更新するには、インターネットに接続した状態で、「サイバーサポート」ソフトウェアの画面左下の［最新のデータに更新］をクリックします。自動的に、情報が更新されます。最初に更新するときは、数十分時間がかかることがありますので、ご注意ください。

操作について詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

また、この機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）

この取扱説明書の内容など、以下の情報は、オンラインマニュアルとして本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。

デスクトップ画面とは

本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

オンラインマニュアルとは

本書やソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。PDF（ Portable Document Format ）のファイルで付属しています。

- オンラインマニュアル（この取扱説明書）
- BIOSセットアップマニュアル（BIOSセットアップメニューの情報）
- 内蔵モデムマニュアル（本機に内蔵のモデムの情報）
- 以下のソニー製のソフトウェアの使いかた
  - –「DVgate」ソフトウェア
  - –「Giga Pocket」ソフトウェア（PCV-MX3GKのみ）
  - –「Media Bar MX」ソフトウェア
  - –「MovieShaker」ソフトウェア
  - –「Navin' You」ソフトウェア
  - –「PictureGear」ソフトウェア
  - –「Smart Capture」ソフトウェア

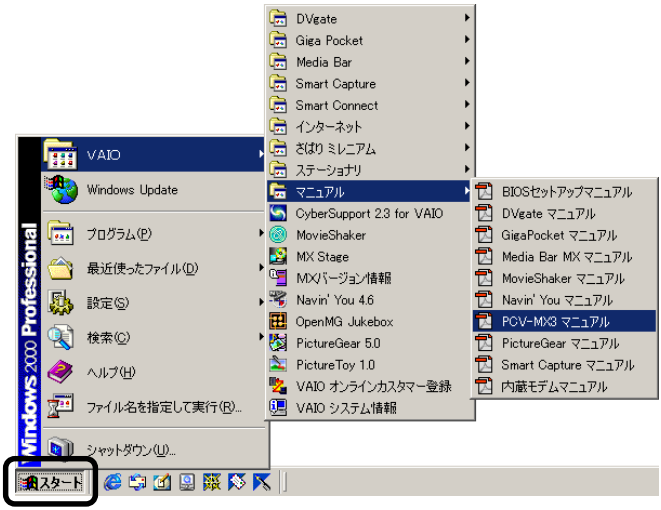
次のページにつづく

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、読みたいオンラインマニュアルをクリックする。

ここでは、この取扱説明書の内容を表示させてみます。



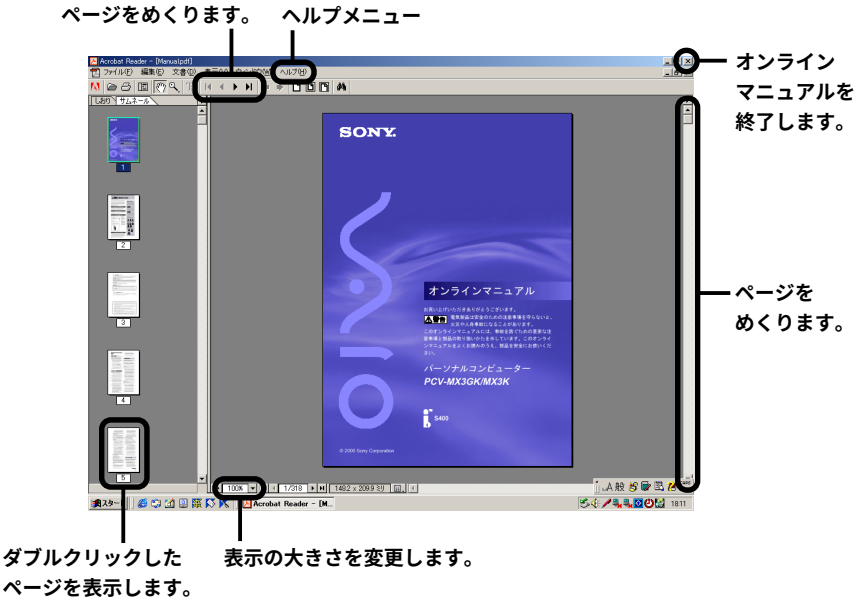
本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、この取扱説明書の内容が表示されます。

「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、同意する(A) をクリックしてください。

オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、 をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」の ヘルプ(H) をクリックしてヘルプをご覧ください。



Windows 2000のヘルプの使いかた

Windows 2000の操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows 2000のヘルプを見るには

Windows 2000のヘルプを見るには本機の電源が入っている状態で、次ページのように操作します。

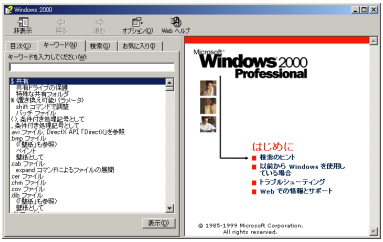
ヘルプとは

「ヘルプ」とはWindows 2000やソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

次のページにつづく

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする。

ヘルプが表示されます。



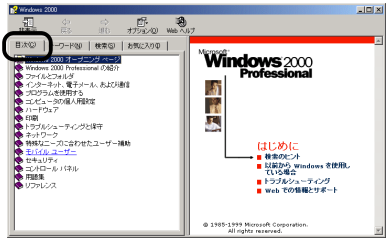
ヘルプの見かた

表示される「目次」、「キーワード」、「検索」のいずれかのタブをクリックして、知りたい情報を検索します。

「目次」で検索する

ヘルプの目次を通じて、知りたい情報を参照できます。

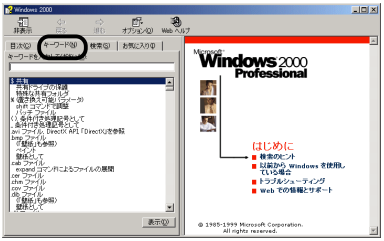
「目次」で検索するには、［目次］タブをクリックし、表示される項目にある をクリックして知りたい情報を表示させます。



「キーワード」で検索する

入力した語句に該当する項目を表示させます。

「キーワード」で検索するには、［キーワード］タブをクリックし、表示される入力欄に知りたい情報についてのキーワードを入力し、キーボードの Enter（エンター）キーを押します。



「検索」で検索する

特定の語句が含まれている項目について幅広く検索できます。

また、複数の語句を組み合わせることによりより効率良く検索することもできます。

「検索」で検索するには、［検索］タブをクリックし、表示される入力欄にキーワードを入力し、キーボードの Enter（エンター）キーを押します。

各ソフトウェアのヘルプを見る

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書またはオンラインマニュアルをご覧ください。

別冊の「ご確認ください」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

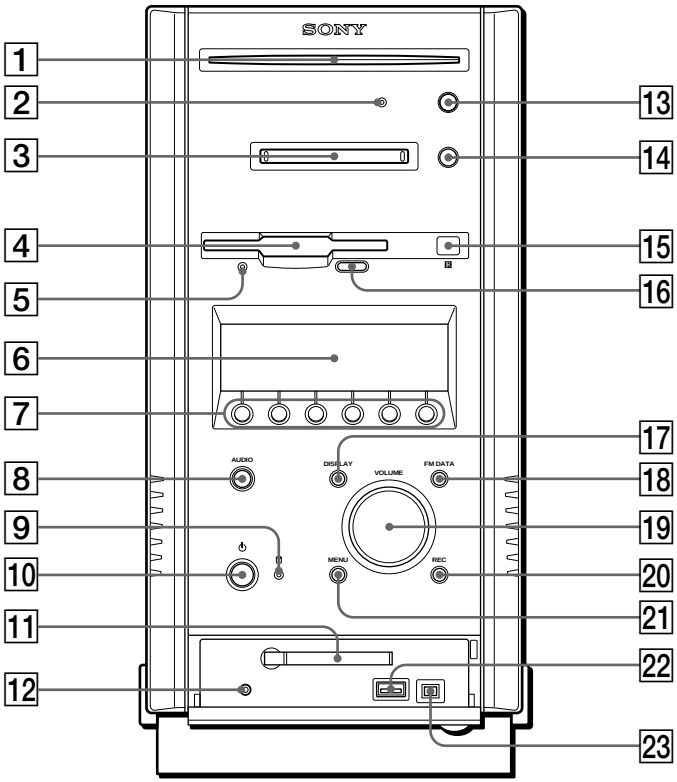
ヘルプとは

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 2000などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

各部の名称と働き

詳しい説明は、（ ）内のページをご覧ください。

前面



1 DVD-ROM**ドライブ**（85**ページ**）
DVDビデオ、音楽CDなどのディスクを再生したり、CD-ROMやDVD-ROMからデータを読み込んだりします。

2 DVD-ROM**ドライブアクセスランプ**（85、93**ページ**）
DVDビデオ、音楽CDなどのディスクを再生したり、CD-ROMやDVD-ROMからデータを読み込んでいるときにオレンジ色に点灯します。

3 MD**ドライブ**（100**ページ**）
MDを挿入します。

4 **フロッピーディスクドライブ**（69**ページ**）
3.5インチのフロッピーディスクのデータを読み込んだり、書き込んだりします。

5 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ**（69、70**ページ**）
フロッピーディスクのデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

6 **表示窓（30ページ）**
本機がオーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）のとき、音楽CDやMDの再生中や録音中に、再生や録音の状態、ディスク名や曲名などが表示されます。
FMラジオ受信中は、FM放送局名や周波数、FM文字放送の情報などが表示されます。

7 **マルチファンクションボタン（30ページ）**
本機がPCモード（Windows 2000が起動しているとき）のとき、「MX Stage」などのソフトウェアを起動するときに押します。
本機がオーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）のときは、音楽CDやMDを操作したり、FM放送局を選局するときに押します。

8 AUDIO **（オーディオモード電源）ボタン（77ページ）**
本機をオーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）で電源を入れるときに押します。

9 **（ハードディスクアクセス）ランプ**
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

10 **（電源）ボタンと電源ランプ（42ページ）**
本機の電源を入れるときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。
本機の動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入り、電源ランプが赤色に点灯します。

11 PC CARD **（PCカード）スロット（234ページ）**
メモリカードなどのPCカードからデータを読み込んだり、書き込んだりします。

12 HEADPHONES **（ヘッドホン）コネクタ（213ページ）**
市販のステレオヘッドホンをつなぎます。

13 ⏏ **（DVD-ROMイジェクト）ボタン（92ページ）**
DVD-ROMドライブからディスクを取り出すときに押します。

14 ⏏ **（MDイジェクト）ボタン（103ページ）**
MDを取り出すときに押します。

15 **（リモコン受光部）**
付属のリモコンを使うときは、ここに向けて操作します。

ご注意

リモコンを使うときは、（リモコン受光部）に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

次のページにつづく

16 **フロッピーディスクイジェクトボタン（70ページ）**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

17 DISPLAY**ボタン（96ページ）**
本機がオーディオモードのとき、表示窓に表示される情報を切り換えるときに押します。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

18 FM DATA**ボタン（133、138ページ）**
本機がオーディオモードでFM文字放送を実施しているFM放送局を受信しているときに、表示窓にFM文字放送を表示／非表示するときに押します。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

19 VOLUME**（音量）つまみ**
音量を大きくするときには右へ、小さくするときは左へ回します。

20 REC**（録音）ボタン（96、115、121ページ）**
オーディオモードで音楽CDやFMラジオをMDに録音するときに押します。押すと、MDは録音待機状態になります。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

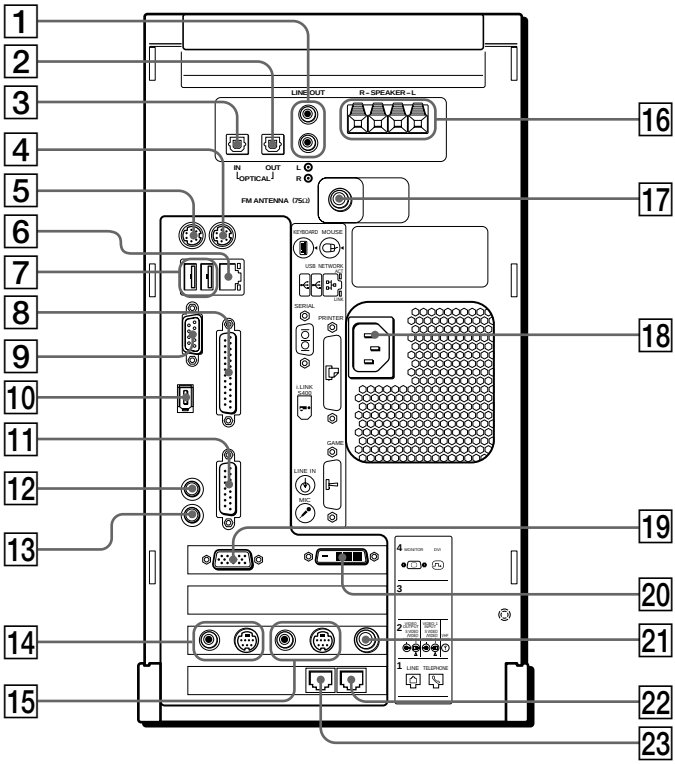
21 MENU**（メニュー）ボタン（260ページ）**
オーディオモードのときに表示窓にメニューを表示するときに押します。
このボタンは使える状態のときにオレンジ色に点灯します。

22 USB**コネクタ（222ページ）**
USB規格に対応した機器をつなぎます。

23 i.LINK S400**コネクタ（4ピン）（215ページ）**
デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器をつなぎます。

i.LINK<u>とは？</u>
i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。i.LINKについて詳しくは、216ページをご覧ください。

後面



1 LINE OUT L／R **（ライン出力）コネクタ**（181**ページ**）
オーディオ機器とつなぎます。

2 OPTICAL OUT **（光デジタル出力）コネクタ**（176、181**ページ**）
MDデッキなどのデジタル機器につなぎます。
本機で再生する音楽CDなどの音声をつないだデジタル機器に出力するときに使います。

3 OPTICAL IN **（光デジタル入力）コネクタ**（183**ページ**）
MDデッキなどのデジタル機器につなぎます。
つないだデジタル機器の音声を本機に入力するときに使います。

4 MOUSE **（マウス）コネクタ**
付属のマウスをつなぎます。

5 KEYBOARD **（キーボード）コネクタ**
付属のキーボードをつなぎます。

次のページにつづく

6 NETWORK（ネットワーク）コネクタ（223ページ）
ネットワーク（LAN）とつなぎます。

ご注意

NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。
お買い上げ時にはNETWORKコネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORKコネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。

7 USBコネクタ（222ページ）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

8 PRINTER（プリンタ）コネクタ（221ページ）
別売りのプリンタやスキャナなどをつなぎます。

9 SERIAL（シリアル）コネクタ
SERIALコネクタを持った機器をつなぎます。

10 i.LINK S400コネクタ（6ピン）（215ページ）
デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器をつなぎます。

11 GAME（ゲーム）コネクタ
ジョイスティックやMIDI機器をつなぎます。

12 LINE IN（ライン入力）コネクタ
オーディオ機器とつなぎます。

13 MIC（マイクロホン）コネクタ
市販のモノラルマイクをつなぎます。

14 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ（210ページ）（PCV-MX3GKのみ）
テレビ、ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。

⇨ S VIDEO／VIDEO（S映像／映像出力）:
テレビ、ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像入力コネクタとつなぎます。本機で再生した動画を、テレビに表示したり、ビデオデッキに録画できます。
付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像出力コネクタとして使用することもできます。

⇦AUDIO（音声出力）:
テレビ、ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声入力コネクタとつなぎます。

15 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ（210ページ）（PCV-MX3GKのみ）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。

⇦ S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力コネクタとつなぎます。
付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像入力コネクタとして使用することもできます。

→AUDIO（音声入力）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力コネクタとつなぎます。

16 SPEAKER L/R（スピーカー）コネクタ（181ページ）
付属のスピーカーをつなぎます。

17 FM ANTENNA（FMアンテナ）コネクタ
付属のFMアンテナをつなぎます。付属のアンテナでうまく受信できないときは、市販の外部アンテナをつないでください。

18 AC電源入力プラグ
付属の電源コードをつなぎ、電源コンセントにつなぎます。

19 MONITOR（モニタ）コネクタ
ディスプレイをつなぎます。

ご注意

MONITORコネクタにディスプレイをつなぐときは、DVIコネクタに15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD2をつながないでください。

20 DVIコネクタ
15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD2をつなぎます。

ご注意

DVIコネクタにPCVA-15XD2をつなぐときは、MONITORコネクタにディスプレイをつながないでください。

21 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ（PCV-MX3GKのみ）
アンテナをつなぎます。

22 TELEPHONE（電話機）ジャック
電話機をつなぎます。

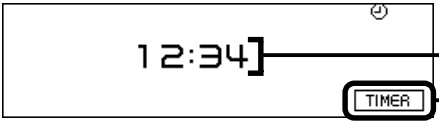
23 LINE（電話回線）ジャック
壁の電話回線とつなぎます。

次のページにつづく

表示窓

表示窓は、使用している機能によって、表示される内容が異なります。表示窓の下部には、マルチファンクションボタンへ割り当てられる機能がボタン名として表示されます。詳しくはそれぞれの参照ページをご覧ください。

❑ 電源切のとき



現在の時刻が表示されます。

タイマーが設定されているとき、タイマーの動作を入／切します。

❑ PCモード（Windows 2000が使える状態で電源が入っている）のとき

ちょっと一言

- 「TV」はPCV-MX3GKのみ表示されます。
- アニメーション設定をすることによりオーディオモード時を除き、表示窓の表示を変更することができます。デスクトップ画面上の［アニメーション設定］をダブルクリックして設定を変更します。

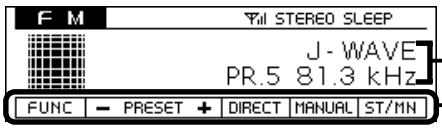
❑ オーディオモード（本機の簡単なオーディオ機能のみを使うとき）のとき

音楽CD／MD再生時（93、105ページ）

現在再生されている音楽CD／MDの情報が表示されます。

マルチファンクションボタンで再生／停止／早送りなどの操作をします。

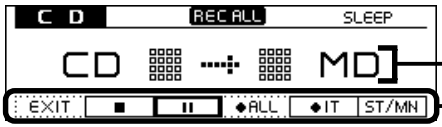
FMラジオ受信時（131ページ）



現在受信しているFMラジオの局名や周波数、またはFM文字放送の内容が表示されます。

マルチファンクションボタンでFM放送局の選択や音声切り換えなどの操作をします。

録音時（114、120ページ）



録音している音源の情報や録音状況が表示されます。

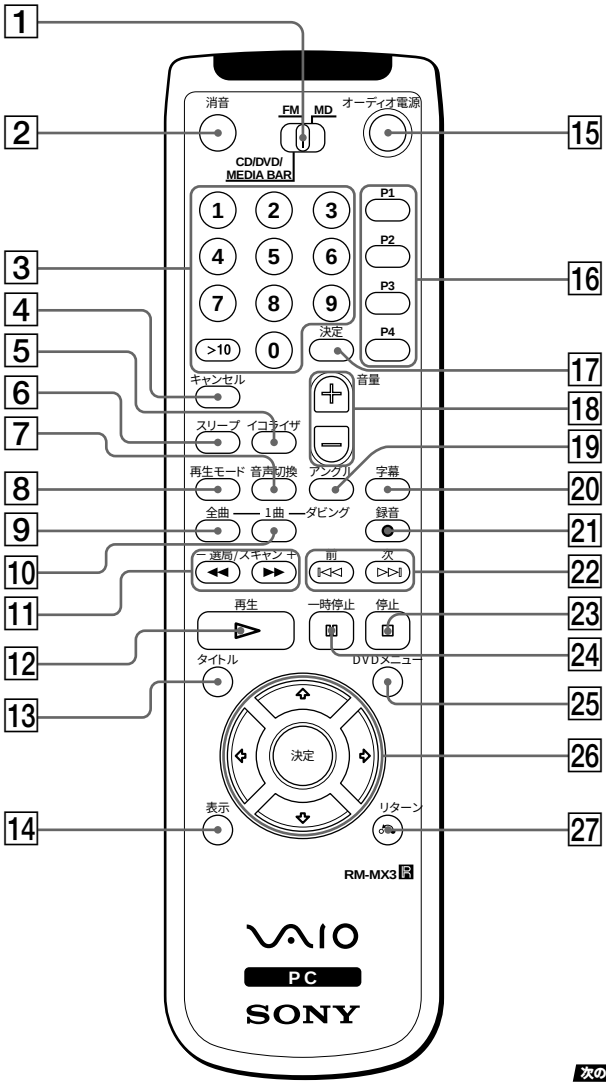
マルチファンクションボタンで録音の開始や停止などの操作ができます。

MENU (260ページ)

各種設定のアイコンや情報を表示します。

マルチファンクションボタンで表示させたい設定の項目を選択したり、設定を変更します。

オーディオ／DVD用リモコン



次のページにつづく

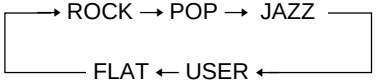
1 ファンクション切り換えスイッチ
オーディオ／DVD用リモコンで操作する音源を切り換えるときに使います。

2 消音ボタン
一時的に音声を消すときに押します。もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

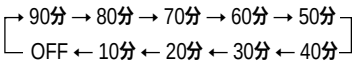
3 数字ボタン（102ページ）
音楽CDやMDの再生中に曲番を選んだり、DVDビデオの再生中に画面に表示されている項目を選んだり、FMラジオの受信中にFM放送局のプリセット番号を選ぶときなどに押します。

4 キャンセルボタン（102ページ）
数字ボタンで選んだ数字を取り消すときに押します。

5 イコライザボタン（172ページ）
音楽CDやMDのプリセットイコライザを切り換えるときに押します。このボタンを押すたびに次のようにイコライザが切り換わります。



6 スリープボタン（143ページ）
スリープタイマーを設定するときに押します。



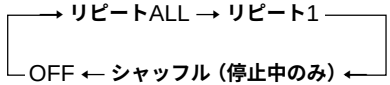
7 音声切換ボタン（90、118、131ページ）
再生中の音声を切り換えるときに押します。

FMラジオ受信時
ステレオ ↔ モノラル

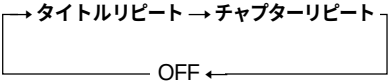
DVDビデオ再生時
再生中のディスクに用意された言語を選びます。選べる言語はディスクによって異なります。

8 再生モードボタン（90、91ページ）
音楽CDやDVDビデオの再生モードを切り換えるときに押します。このボタンを押すたびに次のように再生モードが切り換わります。

音楽CD再生時



DVDビデオ再生時



9 全曲ダビングボタン（114ページ）
PCモード時は、付属の「Media Bar」ソフトウェアで指定した曲すべてをMDに録音するときに押します。
PCモードで「Media Bar」ソフトウェアが起動していないとき、およびオーディオモード時は、DVD-ROMドライブに入れた音楽CDのすべての曲をMDに録音するときに押します。

10 1曲ダビングボタン（114ページ）
PCモード時は、付属の「Media Bar」ソフトウェアで指定した曲をMDに録音するときに押します。
オーディオモード時は、DVD-ROMドライブに入れた音楽CDを再生中に再生中の1曲をMDに録音するときに押します。

11 ◀◀／▶▶ 選局／スキャン ＋／－ボタン（94、102、129ページ）
DVDビデオ再生中に映像を見ながら場面を探したり、音楽CD再生中に曲を探すときに押します。
FMラジオ受信中は、短く押すと周波数が増減し、2秒以上押すと受信可能なFM放送局をスキャンします。

12 ▷**再生ボタン**（89、102、129、130**ページ**）
音楽CD、DVDビデオ、MDを再生するときに押します。
PCモード時は、ファンクション切り換えスイッチが「FM」のときに押すと「FM Tuner」ソフトウェアを起動したり、FM放送の消音を解除することもできます。

13 **タイトルボタン**（91**ページ**）
DVDビデオのタイトルメニューを表示させるときに押します。

14 **表示ボタン**（90、102**ページ**）
時間の表示を切り換えるときに押します。

15 **オーディオ電源ボタン**（77**ページ**）
本機の電源をオーディオモードで入／切 するときに押します。

16 P1〜P4**ボタン**（154**ページ**）
各ボタンに割り当てたソフトウェアを一発起動するときに押します。

17 **決定ボタン**（103**ページ**）
選んだ数字や項目を決定するときに押します。

18 **音量＋／－ボタン**
音量を調整するときに押します。

19 **アングルボタン**（91**ページ**）
マルチアングルが記録されているDVDビデオのアングルを切り換えるときに押します。

20 **字幕ボタン**（91**ページ**）
DVDビデオの字幕を切り換えるときに押します。

21 ● **録音ボタン**（114、118**ページ**）
PCモード時は、押すと付属の「MD Player」ソフトウェアが起動し、MDが録音待機状態になります。
「FM Tuner」ソフトウェアが起動しているときは、押すとFMラジオのMDへの録音が始まります。
オーディオモード時は、音楽CDやFMラジオをMDに録音するときに押すとMDが録音待機状態になります。

22 ⏮／⏭ **前／次（選曲／選局）ボタン**（89、102、129**ページ**）
DVDビデオ再生中は、前の場面に戻したり、次の場面に進めるときに押します。
音楽CDやMDを再生中は、前の曲に戻したり、次の曲に進めるときに押します。
FMラジオの受信中は、プリセットされたFM放送局を選ぶときに押します。

23 □ **停止ボタン**（89、102、119、130**ページ**）
音楽CD、DVDビデオ、MDの再生を停止するときに押します。
PCモードで「FM Tuner」ソフトウェアを起動しているときは、このボタンを押すと、MDへの録音を停止したり、FM放送を消音することができます。

24 ⏸ **一時停止ボタン**（89、102、121**ページ**）
音楽CD、DVDビデオ、MDの再生を一時停止するときに押します。

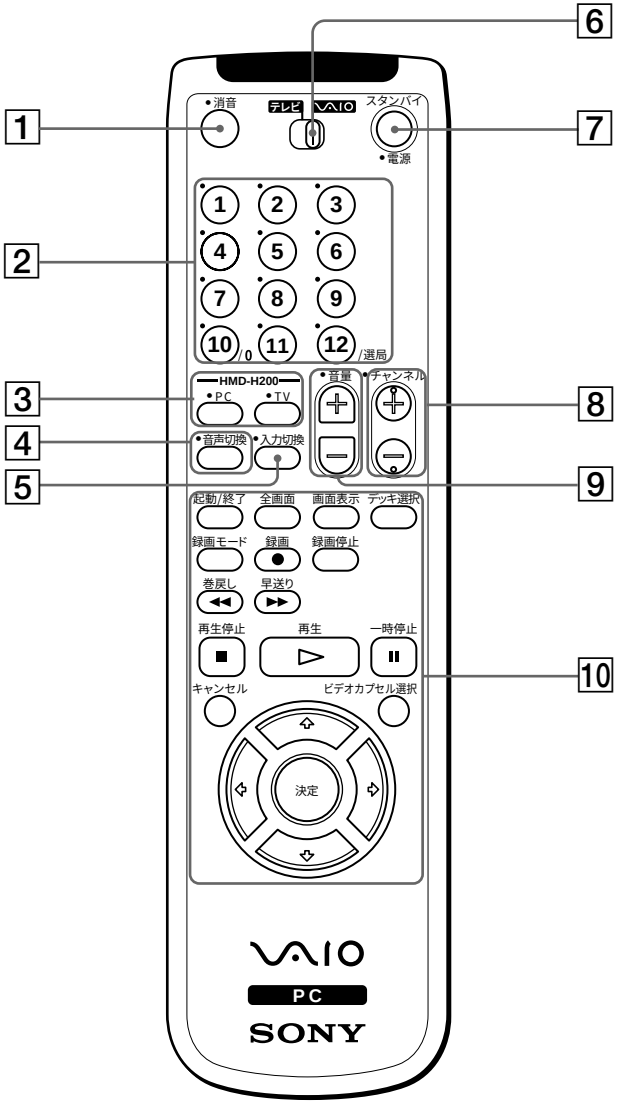
25 DVD**メニューボタン**（91**ページ**）
DVDビデオのDVDメニューを表示するときに押します。
PCモードで「FM Tuner」ソフトウェアを起動しているときは、FM放送メニューを表示させるときに押します。

26 ⇦／⇧／⇩／⇨／**決定ボタン**（90、91**ページ**）
DVDビデオ再生中に画面に表示されている項目を選んだり、PCモードでFM文字放送メニューを指定するときに押します。

27 **リターンボタン**（90**ページ**）
DVDビデオで、1つ前の選択画面に戻るときに押します。

次のページにつづく

Giga Pocket用リモコン（PCV-MX3GKのみ）



Giga Pocket用リモコンボタンのモード別機能一覧

Giga Pocket用リモコンで操作できるモードには、以下の2つがあります。

テレビモード：本機につないだHMD-H200またはテレビを操作するモード

VAIO**モード**：付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを操作するモード

テレビ／VAIO切り換えスイッチで、テレビモードとVAIOモードを切り換えた場合、それぞれのボタンの機能は以下の表のように変わります。

ちょっと一言

テレビモードで使えるボタンには、ボタン名の横に黄色い小さな丸がついています。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
1 **消音ボタン (160ページ)**	一時的に音を消します。もう一度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。	一時的に音を消します。もう一度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。
2 **チャンネル数字ボタン (159ページ)**	チャンネルを選択します。	チャンネルを選択します。
3 HMD-H200	本機にソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をつないだとき、HMD-H200の映像入力を切り換えます。 **ご注意** 3のボタンは、お買い上げ時はHMD-H200を操作できるように設定されています。ただし、リモコン信号がHMD-H200以外のテレビに設定されている（38ページ）と使えません。	使用できません。
•PC**ボタン**	コンピュータの画面を見るときに押します。	使用できません。
•TV**ボタン**	テレビを見るときに押します。	使用できません。
4 **音声切換ボタン (160ページ)**	二カ国語放送などの音声を切り換えるときに押します。	二カ国語放送などの音声を切り換えるときに押します。

次のページにつづく

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
5 **入力切換ボタン**（160**ページ**）	外部入力された映像に切り換えるときに押します。ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作する場合は、このボタンを押すと「VIDEO」に切り換わります。	映像入力を切り換えるときに押します。 MONITOR**または**TV ↕ VIDEO INPUT
6 **テレビ**／VAIO **切り換えスイッチ**	Giga Pocket用リモコンの操作モードをVAIOモードに切り換えます。	Giga Pocket用リモコンの操作モードをテレビモードに切り換えます。
7 **電源／スタンバイボタン**（44、160**ページ**）	テレビの電源を入／切します。	本機の電源を入れるときに押します。 本機の動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入ります。詳しくは、44ページおよび「省電力機能の設定を変更する」（200ページ）をご覧ください。
8 **チャンネルボタン**（159**ページ**）	テレビのチャンネルを選択します。	テレビのチャンネルを選択します。
9 **音量ボタン**（159**ページ**）	テレビの音量を調整します。	音量を調整します。
10 「Giga Pocket」**ソフトウェアボタン**		
• **起動/終了ボタン**	使用できません。	「Gigaビデオレコーダー」を起動します。もう一度押すと、「Gigaビデオレコーダー」が終了します。
• **全画面ボタン**	使用できません。	「Gigaビデオレコーダー」を全画面表示します。もう一度押すと、全画面表示が終了し、「Gigaビデオレコーダー」が元の大きさで表示されます。
• **画面表示ボタン**	使用できません。	全画面表示のときに、テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキを表示します。もう一度押すと、テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキの映像が消えます。
• **デッキ選択ボタン**	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキを切り換えます。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
•録画モードボタン	使用できません。	以下のように録画モードを切り換えます。 **ビデオCD** → **標準** → **高画質** → **ビデオCD**
•録画ボタン	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキで見ているテレビ番組を録画します。
•録画停止ボタン	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキで見ているテレビ番組の録画を停止します。
•巻戻しボタン	使用できません。	ビデオカプセルを再生しながら巻き戻しをします。
•早送りボタン	使用できません。	ビデオカプセルを再生しながら早送りをします。
•再生停止ボタン	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルの再生を停止します。
•再生ボタン	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルを再生します。
•一時停止ボタン	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルの一時停止をします。
•キャンセルボタン	使用できません。	エラーメッセージなどが表示された画面を閉じます。全画面表示しているときは元の大きさに戻ります。
•ビデオカプセル選択ボタン	使用できません。	ビデオカプセル選択画面を表示します。もう一度押すと選択画面は消えます。
•上下左右ボタン（↑／↓／←／→）	使用できません。	ビデオカプセル選択画面で、キャビネットやビデオカプセルを上下左右に選びます。
•決定ボタン	数字ボタンと組み合わせて使うと、リモコン信号を各社の設定に変更できます。（38ページ）	ビデオカプセルを選びます。

次のページにつづく

ちょっと一言

⑩「Giga Pocket」ソフトウェア専用ボタンの使いかたについて詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

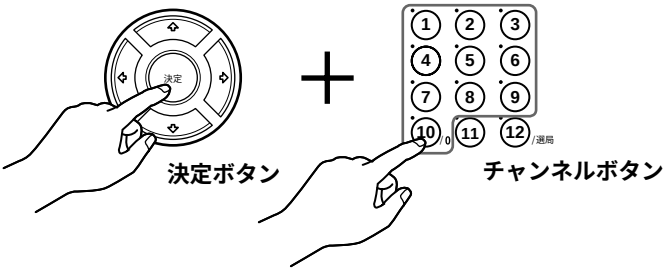
Giga Pocket用リモコンで各社のテレビを操作するには

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のGiga Pocket用リモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。お買い上げ時は、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作できるよう設定されています。

設定するには、Giga Pocket用リモコンの決定ボタンを押しながら、チャンネル数字ボタンを押します。

例：テレビのメーカーを「ソニー（01）」に合わせる場合

決定ボタンを押しながら ⑩。ボタンと ① ボタンを順番に押します。



ご注意

⑪ ボタンと ⑫ ボタンは設定に使うことはできません。「12」と入れるときには、決定ボタンを押しながら、① ボタンと ② ボタンを押します。

テレビのメーカー番号は次の表の通りです。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー（Ⓡマーク付き）	01
松下電器1*	02
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機1*	07
シャープ1*	08
NEC	09
パイオニア**	10
富士通ゼネラル	11
ソニー（Ⓡマーク無し）**	12
松下電器2*	13
フナイ(PRECIOUS)	14
三洋電機2*	15
シャープ2*	16
アイワ	17
三星(SAMSUNG)	18
HMD-H200	19（お買い上げ時の設定）

＊　メーカー番号（02、07、08）で操作できないときは同じメーカーのもう1つの番号（13、15、16）にしてください。

＊＊ 入力切換ボタンは使えません。

ご注意

- テレビによっては、メーカー番号を合わせても操作できなかったり、一部のボタンが使えないことがあります。
- Giga Pocket用リモコンの乾電池を交換したときは、Giga Pocket用リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「テレビ」に切り換え、テレビのメーカー番号を合わせ直してください。

コンピュータの基本操作編

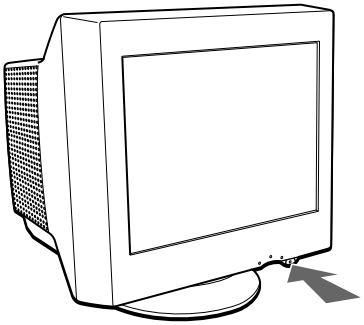
電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。（70ページ）

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

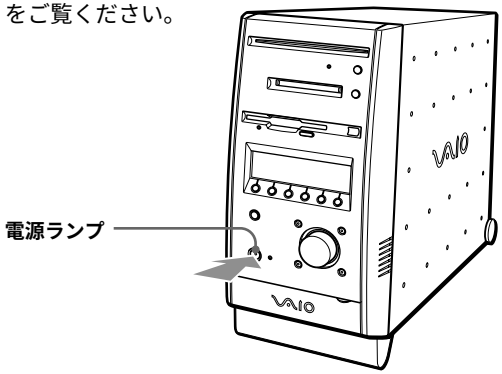
1 ディスプレイの電源ボタンを押す。



2 本機の ⏻（電源）ボタンを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが緑色に点灯し、表示窓が点灯し、Windows 2000が起動します（PCモード、76ページ参照）。

初めてPCモードで電源を入れたときは、Windows 2000のセットアップ画面が表示されます。Windows 2000のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」をご覧ください。



本機の簡単なオーディオ機能のみを使うときは

本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押します。本機がオーディオモードで電源が入ります。PCモードとオーディオモードについて詳しくは、「本機の動作モードについて」（76ページ）をご覧ください。

電源を切る

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windowsのシャットダウン」画面が表示されます。

次のページにつづく

3 **▼をクリックして、一覧の中から「シャットダウン」を選び、OKをクリックする。**

しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、電源ランプが消灯します。

ご注意

- 本機の電源を切った後、10秒間は電源を入れないでください。
- PCV-MX3GKでは、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画中など、プログラム実行中に、本機の電源を切ろうとして電源がうまく切れなかった場合、本機前面の表示窓の表示がPCモード時または電源切のときの表示になり、Giga Pocket用リモコンや本機前面のVOLUMEつまみが使えなくなることがあります。この場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［MX Stage］をクリックして「MX Stage」ソフトウェアを起動してください。

「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んでも電源が切れないときは

以下の操作を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出すには」（235ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは、取りはずす。
  それでも電源が切れないときは、「困ったときは」の「電源」（243ページ）をご覧ください。

一時的に作業を中断するときは

次の操作で、一時的にシステム全体の動作を停止することができます（スタンバイモード）。このとき、本機前面の電源ランプは赤色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。

- キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押す。
- Giga Pocket用リモコンの電源／スタンバイボタンを押す（PCV-MX3GKのみ）。
- 本機前面の ⏻（電源）ボタンを押す。
- 「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んで表示される「Windowsのシャットダウン」画面で ▼ をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。

通常の動作モードに戻すには、本機前面の ⏻（電源）ボタンを押します。
本機には2つのスタンバイモードが用意されています。モードの切り換え操作について詳しくは、「省電力機能の設定を変更する」（200ページ）をご覧ください。

ご注意

- スタンバイモードは本機の電源が切れた状態ではなく、本機の電源の消費をおさえている状態です。スタンバイモードのときに、電源コードをコンセントから抜かないでください。作業を中断する前の状態に戻れなくなります。また、本機の故障の原因となることがあります。
- 本機がスタンバイモードに入っているときは、通信ソフトウェアを使ってファックスを送受信することはできません。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要がある場合があります。

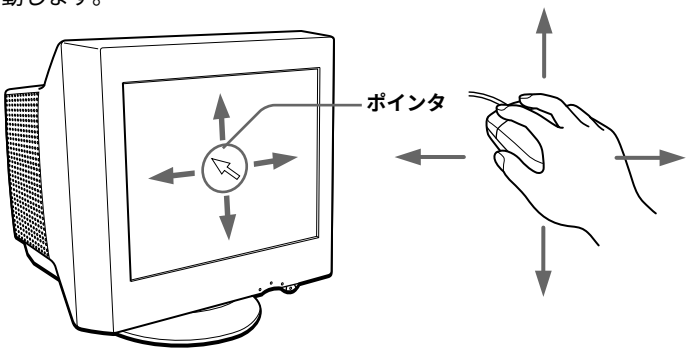
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［シャットダウン］をクリックする。
「Windowsのシャットダウン」画面が表示されます。

3 をクリックして、一覧の中から「再起動」を選び、 OK をクリックする。
「お待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

マウスを使う

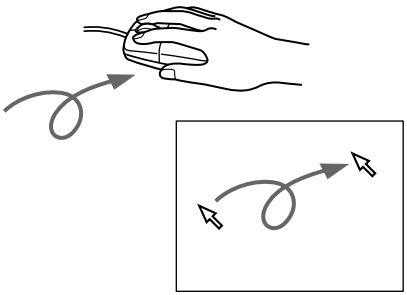
ここではマウスの使いかたを説明します。
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン／右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

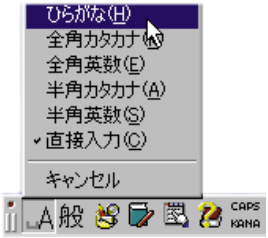
マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



ポイントする

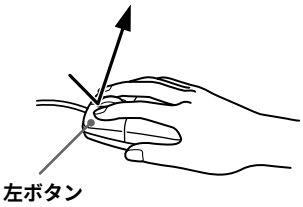
（ポインタ）を希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。



クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

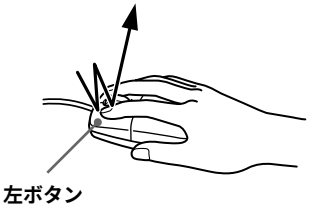
OK や キャンセル などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

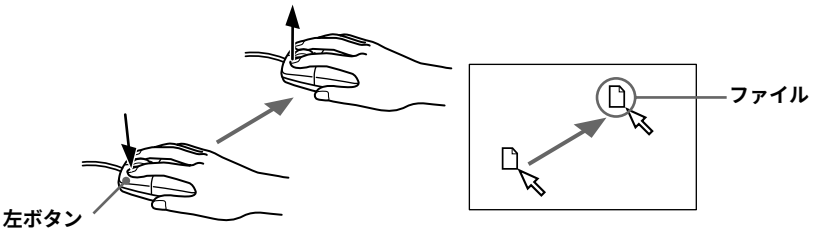
ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



次のページにつづく

ドラッグする

左ボタンを押したまま、希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

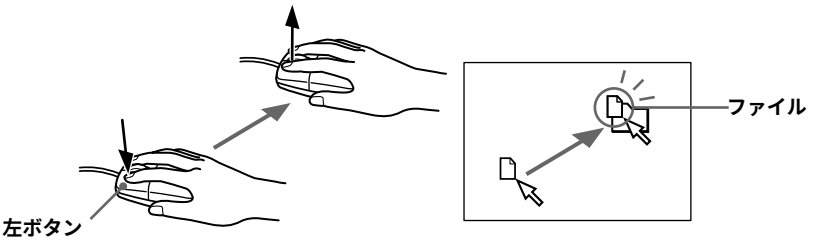


ドラッグアンドドロップする

ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。

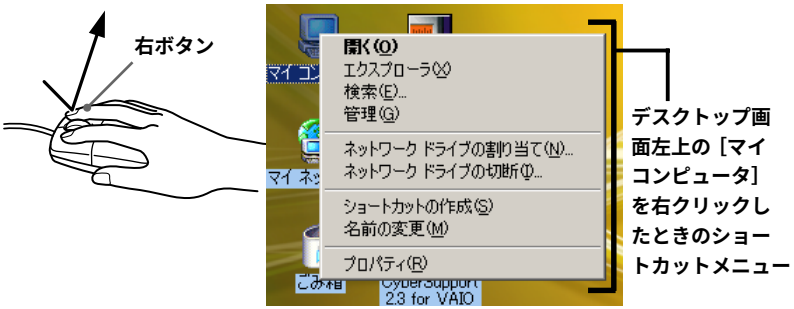
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。

ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



ホイールボタンの使いかた

ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

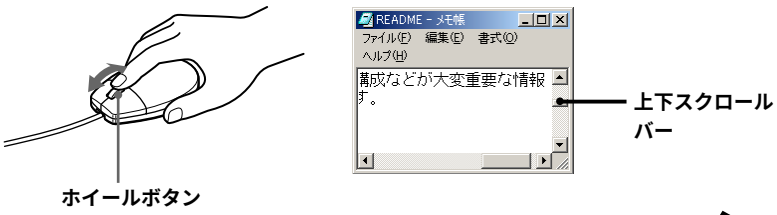
ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がすと、画面が上下して表示されていない情報を見ることができます。

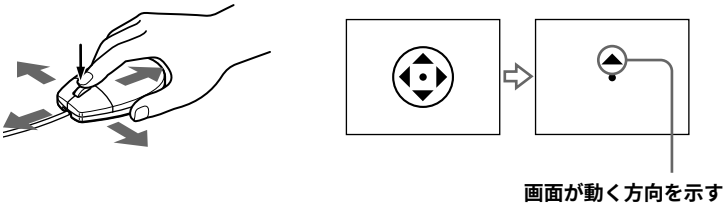
また、上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。



次のページにつづく

パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。



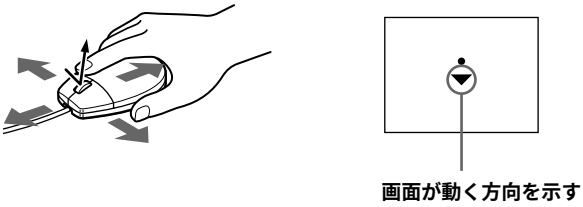
ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。

カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。



ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

ズーム／データズームする

ズームする

キーボードの Ctrl （コントロール）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

キーボードの Shift （シフト）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り換えることです。

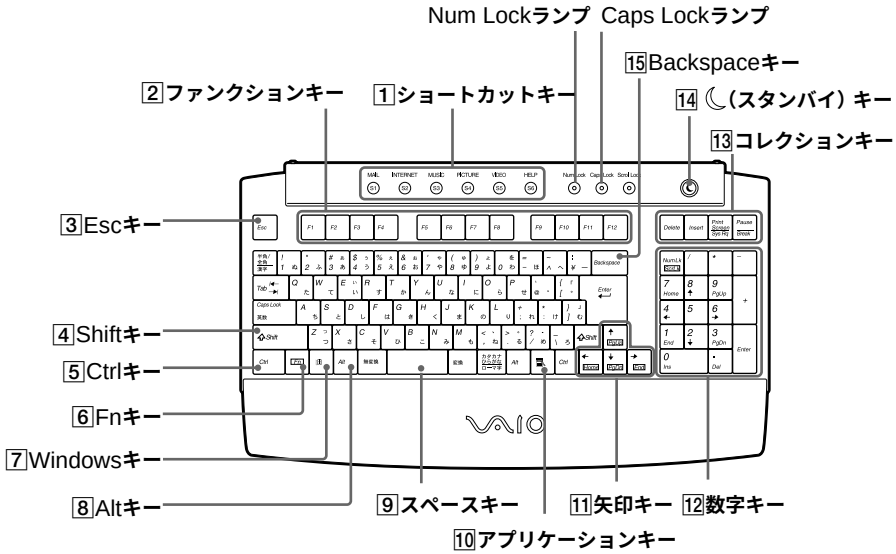
ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（61ページ）をご覧ください。



なまえ	機能
1 ショートカットキー S1 S2 S3 S4 S5 S6	各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。各キーに割り当てられたソフトウェアについて詳しくは「ショートカットキーの機能」（55ページ）をご覧ください。
2 ファンクションキー F1 〜 F12	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属の各ソフトウェアの取扱説明書またはWindows 2000のヘルプをご覧ください。
3 Esc（エスケープ）キー Esc	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

次のページにつづく

なまえ	機能
4Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。キーボード右上のCaps Lock（キャプス・ロック）ランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
5Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属の各ソフトウェアの取扱説明書またはWindows 2000のヘルプをご覧ください。 例） Ctrl キーを押しながら、S と キーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
6Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で□で囲まれている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 詳しくは「Fnキーとの組み合わせと機能」（59ページ）をご覧ください。
7Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 2000の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（60ページ）およびWindows 2000のヘルプをご覧ください。

なまえ	機能
8 Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは付属の各ソフトウェアの取扱説明書またはWindows 2000のヘルプをご覧ください。
9 スペースキー	文字を入力しているとき、このキーを押すと、スペースを挿入できます。
10 アプリケーションキー	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
11 矢印キー	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Fn（エフエヌ）キーと組み合わせて使うと、PgUp（ページアップ）キーやPgDn（ページダウン）キーなどとして使えます。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせと機能」（59ページ）をご覧ください。
12 数字キー	Num Lk Scr Lk（ナム・ロック）キーを押し、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーなど、キーの表面下側に印刷されている機能と同じ働きをします。

次のページにつづく

なまえ	機能
13コレクションキー	キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Delete（デリート）キー Delete	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Insert（インサート）キー Insert	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。
• Print Screen／Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー Print Screen Sys Rq	デスクトップ画面全体を画像として本機に取り込みます。Alt（オルト）キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブなウィンドウを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。
• Pause／Break（ポーズ／ブレイク）キー Pause Break	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 Ctrl（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
14スタンバイキー ☾	本機のシステム全体の動きを一時的に停止します（スタンバイモード）。
15Backspace（バックスペース）キー Backspace	画面上のカーソルキーの左の文字を消すときに押します。

アクティブなウィンドウとは

デスクトップ画面上で表示されているウィンドウの中で最前面に表示されているウィンドウはタイトルバー（ウィンドウの上の部分）が青い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

キーボードショートカット

メニューを開かなくても、キーボードから各種コマンドを実行できます。

ショートカットキーの機能

各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。
各キーに割り当てられているソフトウェアは以下のとおりです。

なまえ		機能
S 1キー（MAIL）	(S1)	「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。
S 2キー（INTERNET）	(S2)	「Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。
S 3キー（MUSIC）	(S3)	「Media Bar」ソフトウェアを起動します。初めて押したときは「AV再生の設定」画面が表示されます。詳しくは「ディスクを再生する」（84ページ）をご覧ください。
S 4キー（PICTURE）	(S4)	「PictureGear」ソフトウェアを起動します。
S 5キー（VIDEO）	(S5)	「Giga Pocket」ソフトウェアの「Gigaビデオレコーダー」を起動します。（PCV-MX3GK）「DVgate Motion」ソフトウェアを起動します。（PCV-MX3K）
S 6キー（HELP）	(S6)	「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動します。使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

次のページにつづく

ご注意

S1キーとS2キーを使うには、インターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」および別冊の「はじめてのインターネット!」をご覧ください。

オーディオ／DVD用リモコンでソフトウェアを起動する

付属のオーディオ／DVD用リモコンのプログラマブルパワーキー（PPK）でソフトウェアを起動することもできます。詳しくは「好みのソフトウェアを自動的に起動する」（153ページ）をご覧ください。

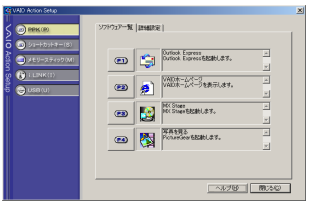
ショートカットキーへ割り当てられているソフトウェアを変更するには

お買い上げ時にショートカットキーに割り当てられているソフトウェアを、付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、好みのソフトウェアが起動するように変更できます。

ここでは、S1 キーを押すと「オンラインマニュアル」（この取扱説明書の内容）が起動するようにしてみます。

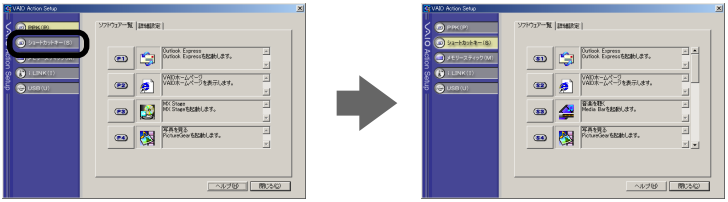
1 デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

プログラマブルパワーキー（PPK）の「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。



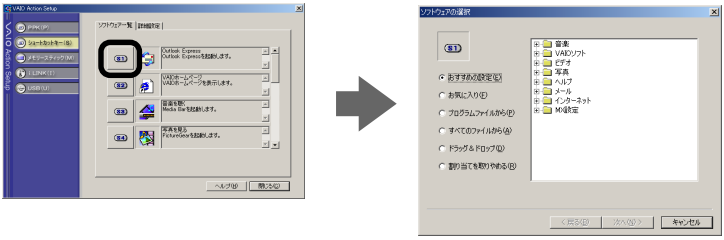
2 をクリックする。

ショートカットキーの「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。



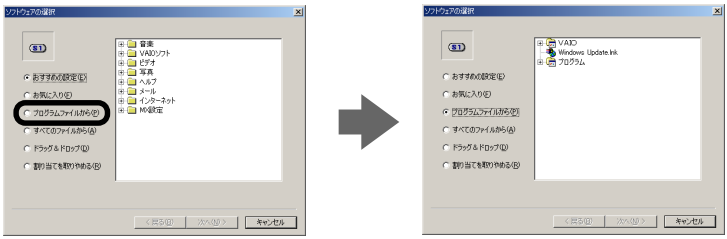
3 [S1] をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。



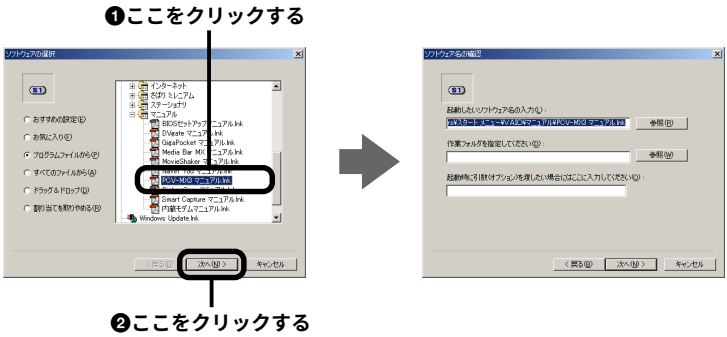
4 [プログラムファイルから] をクリックする。

本機に付属しているソフトウェアなどのリストが右側に表示されます。



5 [VAIO]、[マニュアル] の順にダブルクリックし、[PCV-MX3 マニュアル.lnk] をクリックしてから [次へ(N) >] をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。



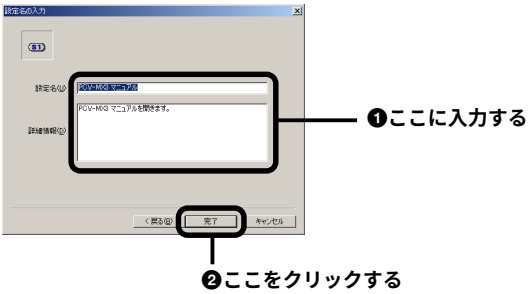
次のページにつづく

6 次へ(N) > **をクリックする。**

「設定名の入力」画面が表示されます。

7 **「設定名」と「詳細情報」を入力してから** 完了(F) **をクリックする。**

これで設定は完了です。キーボードの (S1) キーを押すと「オンラインマニュアル」が起動します。

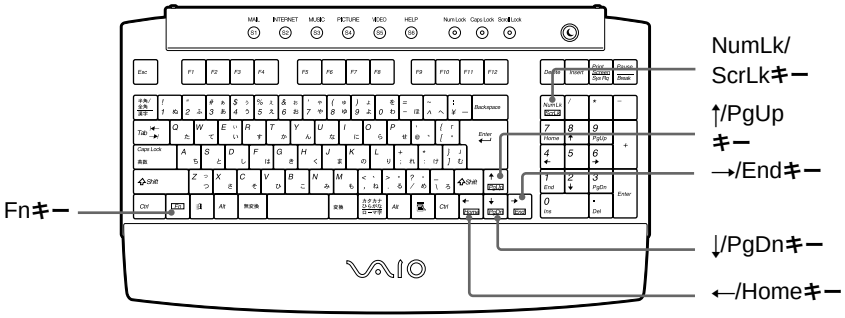


「VAIO Action Setup」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

ちょっと一言

ショートカットキーへのソフトウェアの割り当てを変更したときのために、本機にはショートカットキー用のテンプレートが付属しています。新しく割り当てたソフトウェア名をペンでテンプレートに記入し、ショートカットキーの上に置くと、新しい割り当てを忘れずにすみます。

Fnキーとの組み合わせと機能



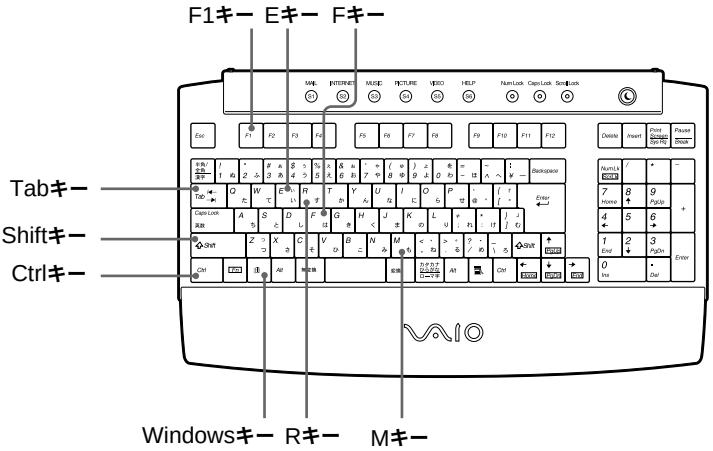
キー操作の表記

例：Fn＋NumLk ➡ Fnキーを押しながらNumLkキーを押す。

組み合わせ	機能
Fn＋NumLk ➡ ScrLk （スクロール・ロック）キー Fn ＋ NumLk ScrLk	ScrLk（スクロール・ロック）キーとして働きます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn＋↑ ➡ PgUp （ページアップ）キー Fn ＋ PgUp	PgUp（ページアップ）キーとして働きます。 現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn＋→ ➡ End （エンド）キー Fn ＋ End	End（エンド）キーとして働きます。 行の最後にカーソルを移動します。
Fn＋↓ ➡ PgDn （ページダウン）キー Fn ＋ PgDn	PgDn（ページダウン）キーとして働きます。 現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn＋← ➡ Home （ホーム）キー Fn ＋ Home	Home（ホーム）キーとして働きます。 行の先頭にカーソルを移動します。

次のページにつづく

Windows**キーとの主な組み合わせと機能**



キー操作の表記

例：⊞+F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	**機能**
⊞ +F1	Windows 2000のヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞ +E	エクスプローラ*を表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべての画面を最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化されているすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。

* コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。
文字の入力は、MDの中の曲にタイトルを付けるときなどに必要です。
文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

ちょっと一言

キーボード上の特殊なキーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（51ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

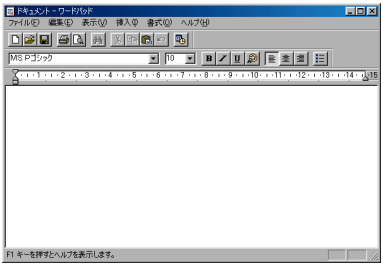
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。

次のページにつづく

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパッド」ソフトウェアの画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IME」のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

MS-IME**ツールバー**

1 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［␣A］をクリックする。

文字入力選択メニューが表示されます。

2 メニューの［ひらがな］をクリックする。

ツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。

［␣A］から［あ］に変わる。

MS-IMEツールバーが表示されていないときは

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をクリックし、表示されたメニューの中から［ツールバーを表示］をクリックします。

MS-IMEツールバーについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

タスクトレイとは

デスクトップ画面右下の部分のことです。本機をPCモードで起動したときに自動的に使えるようになったWindows 2000の機能がここに表示されています。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換えるには

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock 英数（キャプス・ロック）キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力

KANAの文字が
押された状態

［KANA］をクリックするか、
Ctrl（コントロール）キーを押しながら、
Caps Lock 英数（キャプス・ロック）キーを押す。

ローマ字入力

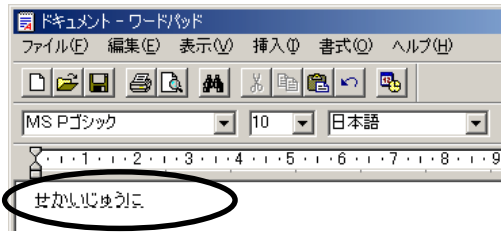
KANAの文字が
押されていない状態

文字入力を練習する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

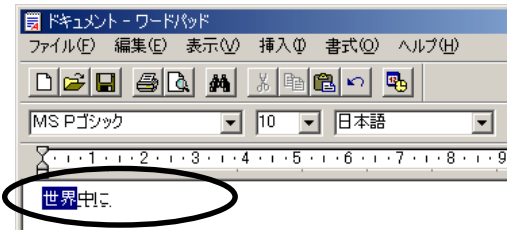
かな入力の場合

せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shift（シフト）キーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「｜」のこと）が文字の入力位置に動きます。

2 （スペース）キーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、（スペース）キーを押します。

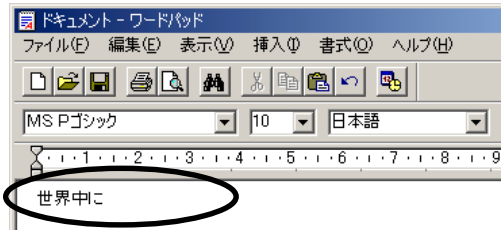


ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまで（スペース）キーを押しつづけます。

3 Enter（エンター）キーを押す。

変換が確定します。



間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

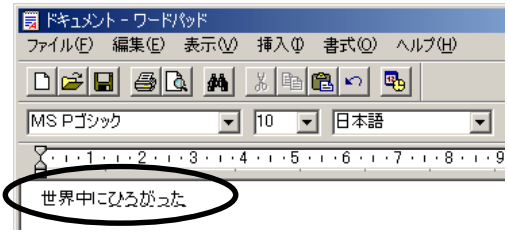
Backspace **（バックスペース）キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete **（デリート）キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc **（エスケープ）キー**：確定していない文字をすべて消します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

ちょっと一言

小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であれば Tキーを2回押します。

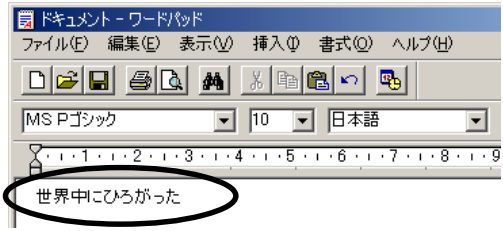
かな入力の場合

ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shift（シフト）キーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

2 **（エンター）キーを押す。**



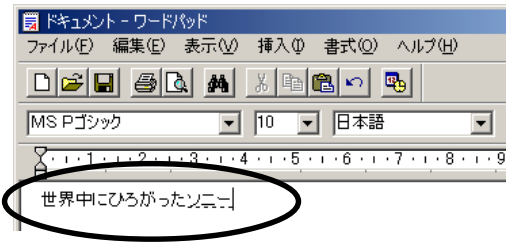
変換する必要がないので、［　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

3 カタカナを入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。**

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

2 **「ソニー」の読みを入力する。**



ローマ字入力の場合

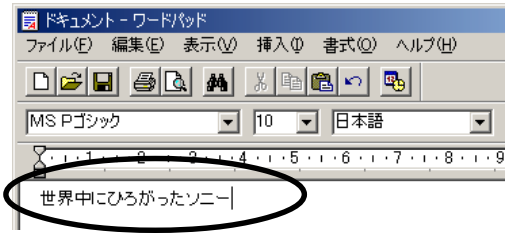
S、O、N、I、-（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合

そ、に、ー の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 **（エンター）キーを押す。**



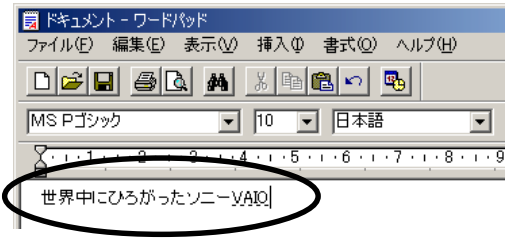
変換する必要がないので、［　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

4 英字を入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［半角英数］をクリックする。**

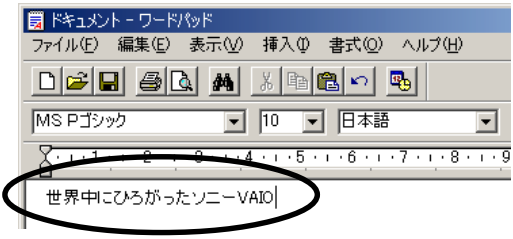
ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 **Shift （シフト）キーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**



次のページにつづく

3 Enter（エンター）キーを押す。



変換する必要がないので、（スペース）キーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shift（シフト）キーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

「～」や「~」を入力するには

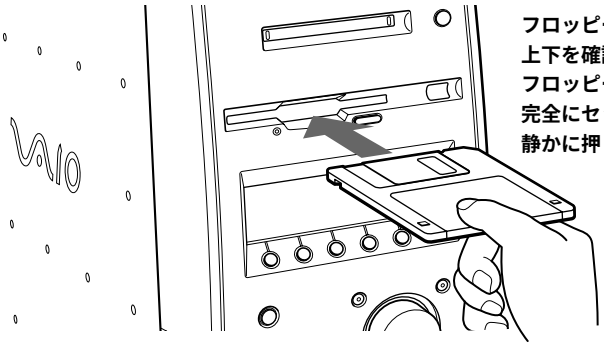
- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（62ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで（スペース）キーを押すか、Shift（シフト）キーを押しながら ~ キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」（67ページ）を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~ キーを押します。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書や本機に取り込んだ静止画などのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



フロッピーディスクの上下を確認し、フロッピーディスクが完全にセットされるまで静かに押し込む。

ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めるとフロッピーディスクドライブアクセスランプが緑色に点灯します。

本機では、市販されている「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。
本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（74ページ）をご覧ください。
「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクをご購入いただくと、初期化する手間が省けます。
初期化とは何かについては、「フロッピーディスクを初期化する」（72ページ）をご覧ください。

ご注意

MDをフロッピーディスクドライブに入れないようにご注意ください。

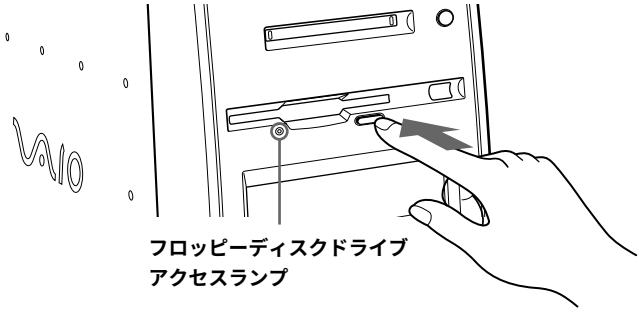
次のページにつづく

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。

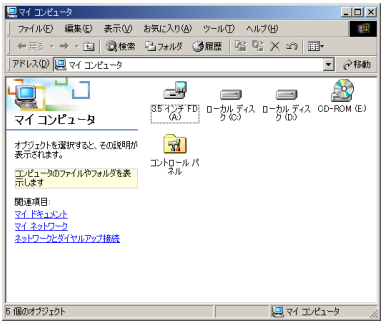


フロッピーディスクのデータを使う

ここではフロッピーディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

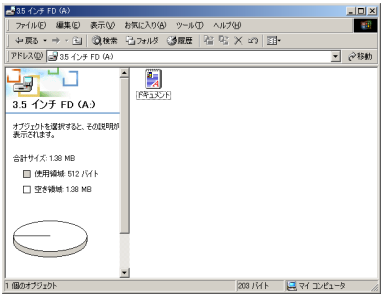
1 デスクトップ画面左上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする。

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。



2 **(3.5インチFD (A:)) をダブルクリックする。**

フロッピーディスクの内容が表示されます。



3 **目的に応じて操作する。**

フロッピーディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

詳しくは「Windows 2000のヘルプの使いかた」(21ページ)をご覧ください。

フロッピーディスクにデータをコピーする

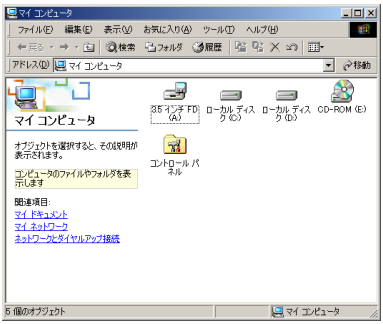
作成した文書などのデータをフロッピーディスクにコピーするには、以下の手順に従ってください。

1 **フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。**

入れかたについては69ページをご覧ください。

2 **デスクトップ画面上の (マイ コンピュータ) をダブルクリックする。**

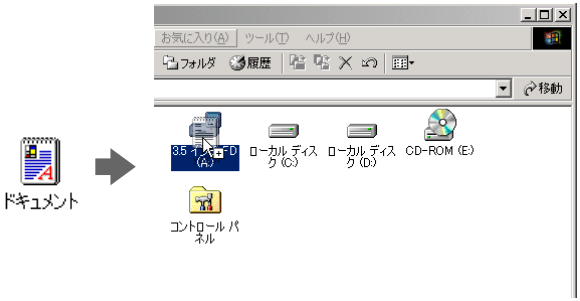
「マイ コンピュータ」画面が表示されます。



次のページにつづく

3 **コピーするデータのアイコンをクリックし、 (3.5インチFD (A:)) に重なるようにドラッグする。**

(3.5インチFD (A:)) が反転表示されます。



4 **マウスのボタンを離す。**

データがフロッピーディスクにコピーされます。

フロッピーディスクを初期化する

「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクは、そのまま本機のフロッピーディスクドライブに入れてすぐにお使いになれますが、以下の場合は「初期化」(または「フォーマット」ともいう) という作業が必要です。

- 「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されていないフロッピーディスクを初めて使うとき
- フロッピーディスクの中のデータがいっぱいになり、そのデータを一度に消し、初期状態に戻したいとき

「初期化」とは、お使いのコンピュータでフロッピーディスクにデータを読み書きできるようにフロッピーディスクの記録方法を決めることです。
初期化するとフロッピーディスクは、区画に分けられ番地が付けられ、どの区画にどんな情報が書き込まれているかを記録し、管理する部分が作られます。
本機でフロッピーディスクを初期化するには、以下の手順に従ってください。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 **初期化したいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。**

入れかたについては69ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面左上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする。

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

3 (3.5インチFD (A:)) を右クリックし、表示されるメニューから［フォーマット］をクリックする。

フォーマットの画面が表示されます。

4 開始(S) をクリックする。

フロッピーディスクが初期化されます。

5 閉じる をクリックする。

フォーマットの画面が閉じます。

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと書かれた、すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

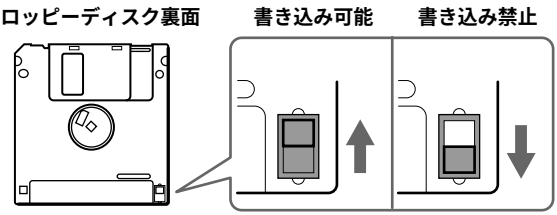
❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないときは、書き込み禁止にしておきます。



使用できるフロッピーディスク

本機では、パッケージに「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。また、3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイトの2種類に分けることができます。本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のコンピュータとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいコンピュータのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

AV機能操作編

操作の前にお読みください 76
再生する 84
MDに録音する 109
MDを編集する 123
FMラジオ 125
タイマーを使う 143
好みのソフトウェアを自動的に起動する 153
テレビ／ビデオで楽しむ（PCV-MX3GKのみ） 157
動画／静止画で楽しむ 161

本機の動作モードについて

本機には2つの動作モードがあり、各モードで以下のようなことができます。目的に合わせて、どちらかの動作モードを選んでお使いください。

PCモード

Windows 2000が起動し、すべての機能が使用可能な状態のことです。

このモードでできること

- Windows 2000を使って通常のコンピュータとしてお使いいただけます。
- キーボードを使ってMDの曲名を入力したり、マウス操作でMDを編集することができます。
- 「DVD Player」ソフトウェアを使ってDVDビデオを見ることができます。
- 「MX Stage」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブやMDドライブの中のディスクや本機に接続した機器を操作するなど、オーディオモードでできることだけでなく、オーディオ機能をフルに活用いただけます。
- PCV-MX3GKでは「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビ番組やビデオを録画／再生できます。

電源を入／切するには…

「電源を入れる」（42ページ）をご覧ください。

操作のしかたは…

主にディスプレイ画面上で、マウスとキーボードを使って操作します。オーディオ機能のほとんどはオーディオ／DVD用リモコンを使って操作することもできます。

モードの見分けかたは…

PCモードのときは、ディスプレイ画面にWindows 2000のデスクトップが表示され、本機前面の表示窓が赤色に点灯しています。

オーディオモード

Windows 2000が起動していない状態、システムサスペンドモード（200ページ）、休止状態（200ページ）のいずれかのときに、本機のオーディオ機能の一部を簡単に使える状態のことです。

このモードでできること

- 音楽CDやMDの再生ができます。
- 音楽CDからMDへのダビングができます。
- FMラジオを聞いたり、FM文字放送を見ることができます。
- FMラジオをMDに録音することができます。
- 音楽を聞きながら眠ることができます。

電源を入／切するには…

「オーディオモードで電源を入れる」（77ページ）をご覧ください。

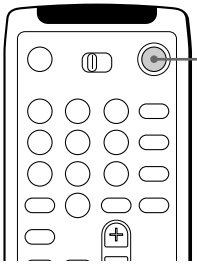
操作のしかたは…

主にオーディオ／DVD用リモコンまたは本機前面パネルのボタンと表示窓を使って操作します。

モードの見分けかたは…

オーディオモードのときは、ディスプレイ画面には何も表示されず、本機前面の表示窓が赤色に点灯しています。

オーディオモードで電源を入れる



本機の電源が切れている状態、システムサスペンドモード、休止状態のいずれかのときに、付属のオーディオ／DVD用リモコンを本機の（リモコン受光部）に向け、オーディオ電源ボタンを押す。

本機の電源がオーディオモードで入り、表示窓が点灯します。

システムサスペンドモードおよび休止状態について詳しくは、「省電力機能の設定を変更する」（200ページ）をご覧ください。

本機前面パネルのボタンで電源を入れることもできます

本機の電源が切れている状態、システムサスペンドモード、休止状態のいずれかのときに、本機前面パネルのAUDIOボタンを押してもオーディオモードで電源が入ります。

ご注意

- 本機がシステムアイドルモード（200ページ）または休止状態以外のPCモードのとき、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押しても、オーディオモードへ切り換えることはできません。「電源を切る」（43ページ）の手順に従っていったん電源を切るか、システムサスペンドモードまたは休止状態に入ってから、上記の手順に従ってオーディオモードで電源を入れてください。
- オーディオモードで使えるさまざまな機能の一部は、事前にPCモードで設定をしておく必要があるため、本機を初めてお使いになるとき、それらの機能がすぐにはお使いいただけないことがあります。
- オーディオモードで本機の電源が入っているとき（デイリータイマーとタイマー録音時を除く）は、「Giga Pocket」ソフトウェアの予約録画は実行されません。この場合、本機前面の表示窓に、本機をPCモードで起動するように促すメッセージが表示されます。

オーディオモードで電源を切るには

オーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押します。

本機前面パネルのボタンでも電源を切れます

本機前面パネルのAUDIOボタンを押してもオーディオモードで電源を切れます。

「MX Stage」について PC

PCモードでは、付属の「MX Stage」を使って、本機のDVD-ROMドライブやMDドライブ内のディスクやFMラジオ、本機に接続したスピーカーやAV機器の操作など、本機の多彩なオーディオ機能をデスクトップ画面上で見渡すことができ、アイコンの操作で簡単に使うことができます。また、音楽CD、MD、FMラジオの目覚まし再生などのタイマー予約設定も「MX Stage」で行うことができます。

「MX Stage」はWindows 2000が起動するのと同時に起動し、通常はいつでも使える状態になっています（画面が表示されています）。
画面が表示されていないときは、デスクトップ画面右下のタスクトレイの アイコンをダブルクリックすると、「MX Stage」画面が表示されます。

オーディオ／DVD用リモコンやマルチファンクションボタンでも「MX Stage」を起動できます

オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンは、お買い上げ時の設定で「MX Stage」を起動するように設定されています。
PCモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンを押すことにより「MX Stage」画面が表示されます。オーディオモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンを押すことにより、本機がオーディオモードからPCモードに移行し、「MX Stage」画面が表示されます。本機の電源が切れているときは、オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンを押すことにより、本機がPCモードで電源が入り、「MX Stage」画面が表示されます。
オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンに他のソフトウェアを割り当てることもできます。詳しくは、「プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる」（154ページ）をご覧ください。
また、PCモード時に、「MX Stage」画面が表示されていないときに本機の前面パネルのFC3ボタンを押すと、「MX Stage」画面が表示されます。

ご注意

オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンを押して、本機をオーディオモードからPCモードに移行させて「MX Stage」画面を表示させるとき、Windowsのログオンのユーザー名とパスワードを設定している場合は、「Windowsのログオン」画面でパスワードを入力するまで本機がPCモードで起動せず、「MX Stage」画面は表示されません。

「MX Stage」は下図のように各デバイス（音源やコネクタ、スピーカーなど）の状態を表示する「デバイスビュー」とタイマー予約設定を行う「タイマービュー」の2つのビューがあります。

各ビューの下の コンパクト をクリックすると「MX Stage」画面がコンパクトサイズで表示されます。他のソフトウェアを使いながら「MX Stage」を操作したいときに表示させると便利です。

操作のしかた

「MX Stage」では、アイコンのダブルクリック（47ページ）やドラッグアンドドロップ（48ページ）といった操作で、ディスクの再生や音楽CDからMDへのダビング、タイマー予約設定など、さまざまな機能を簡単に使えます。

アイコンについて

- **各デバイスの現在の状態を示します。デバイスビューでは、さらに詳細な状態を示します。関連する各デバイスのアイコンが画面上に表示されます。**
- **アイコンをダブルクリックすると、そのデバイスに関連するソフトウェアを起動したり、画面を表示できます。**
- **アイコンを右クリック（49ページ）すると、ショートカットメニューが表示され、そのデバイスを設定する画面を表示できます。**
- **CDアイコンをMDアイコンへドラッグアンドドロップして、音楽CDの曲を全曲MDへダビングできます（デバイスビューのときのみ）。**

次のページにつづく

「MX Stage」の各アイコンで実行される動作は以下のとおりです。

CD／DVD

デバイスビューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	DVD-ROMドライブに入っているディスクによって、「Media Bar」または「DVD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まる。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［DVD設定］を選ぶ。	「DVD設定」画面が表示される（177ページ）。 この画面については［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。
アイコンを「MD」アイコンへドラッグアンドドロップする。	CDからMDへ全曲ダビングするための待機状態となる（録音は開始されない）（111ページ）。

ご注意

以下の場合はアイコンをドラッグアンドドロップできません。
ー MDドライブにMDが入っていないとき
ー MDを再生中または録音中のとき
ー MDが誤消去防止状態のとき
ー DVD-ROMドライブにDVDビデオやDVD-ROMが入っているとき

タイマービューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	DVD-ROMドライブに入っているディスクによって、「Media Bar」または「DVD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まる。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［DVD設定］を選ぶ。	「DVD設定」画面が表示される（177ページ）。 この画面については［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	音楽CDの再生がドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（145ページ）。

MD

デバイスビューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「MD Player」ソフトウェアが起動し、MDの再生が始まる（100ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［MD設定］を選ぶ。	「MD設定」画面が表示される。 この画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプをご覧ください。

タイマービューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「MD Player」ソフトウェアが起動し、MDの再生が始まる（100ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［MD設定］を選ぶ。	「MD設定」画面が表示される。 この画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプをご覧ください。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	MDの再生がドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（144ページ）。

FM

デバイスビューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「FM Tuner」ソフトウェアが起動する（117、126ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［プリセットの設定］を選ぶ。	「プリセットの設定」画面が表示される（128ページ）。
「FM Tuner」起動中にアイコンを「MD」アイコンへドラッグアンドドロップする。	FMラジオのMDへの録音が始まる（117ページ）。

次のページにつづく

タイマービューのとき

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「FM Tuner」ソフトウェアが起動する（117、126ページ）。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［プリセットの設定］を選ぶ。	「プリセットの設定」画面が表示される（128ページ）。
アイコンをカレンダーへドラッグアンドドロップする。	FMラジオの受信がドラッグアンドドロップした日付にタイマー設定される（144ページ）。

SOUND（サウンドチップ）

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「Volume Control」画面が表示される。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［ヤマハAC-XG］または［オーディオイコライザ］を選ぶ。	「ヤマハAC-XG」または「オーディオイコライザ」画面が表示される。「オーディオイコライザ」画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。

OPT IN（光デジタル入力）

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックまたは右クリックして表示されるメニューから［光デジタルサウンド切替］を選ぶ。	「光デジタルサウンド切替」画面が表示される（181ページ）。

OPT OUT（光デジタル出力）

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックまたは右クリックして表示されるメニューから［光デジタルサウンド切替］を選ぶ。	「光デジタルサウンド切替」画面が表示される（181ページ）。

SPEAKER

デバイスビューのときのみ

こうすると	こうなる
アイコンをダブルクリックする。	「Volume Control」画面が表示される。
アイコンを右クリックして表示されるメニューから［オーディオイコライザ］または［光デジタルサウンド切替］を選ぶ。	「オーディオイコライザ」または「光デジタルサウンド切替」画面が表示される（170ページ）。 「オーディオイコライザ」画面について詳しくは［ヘルプ］をクリックしてヘルプもご覧ください。

「MX Stage」を使わないときは

各ビューの下の タスクトレイへ をクリックすると、「MX Stage」の画面が最小化され、デスクトップ画面右下のタスクトレイに戻ります。

「MX Stage」を自分の好みに合わせることができます

「MX Stage」の画面の背景を変えたり、アイコンの色を変えたりなど、「MX Stage」を使いやすいように変更することができます。詳しくは、「MX Stage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ディスクを再生する

音楽CDやDVDビデオを再生して楽しむことができます。

8cmのディスクも再生できます

8cmのディスクを再生するときは、「8cmディスクを入れるときは」（87ページ）をご覧になり、8cmCDシングルアダプタを取り付けてから再生してください。

ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアや付属のオーディオ／DVD用リモコンを使って再生する方法を説明します。

「Media Bar」ソフトウェアを使って再生する

PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアを起動し、音楽CDやDVDビデオを再生できます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます（一部のソフトウェアを除く）。

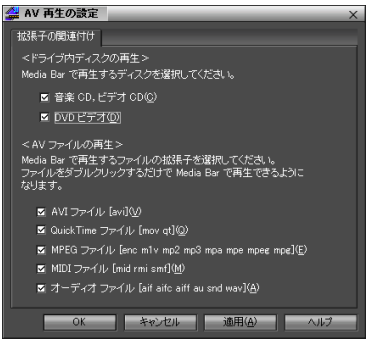
ご注意

DVDを再生するときは、必ず「Media Bar」ソフトウェアをお使いください。その他のソフトウェアで再生すると、本機の故障の原因となります。

1 **本機がPCモードになっていることを確認する（76ページ）。**

2 **初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときはデスクトップ画面上の （AV再生の設定）をダブルクリックする。**

「AV再生の設定」画面が表示されます。



3 画面の指示に従って各チェックボックスをクリックしてから、OK をクリックする。

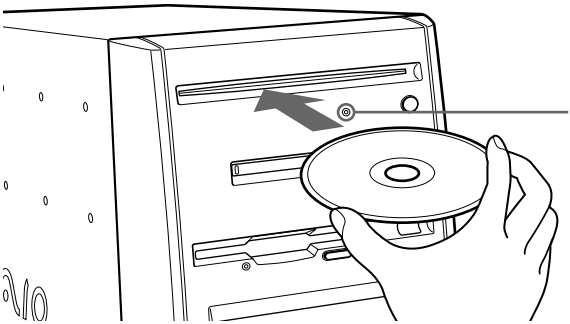
4 再生したい面を下にして、ディスクをDVD-ROMドライブに入れる。

音楽CDのときは、レーベル面（文字が書いてある面）を上にして入れます。

両面にデータが記録されているDVDビデオのときは、再生したい面を下にして入れます。反対側の面を再生するときはディスクを一度取り出し、裏返して入れてください。A面（表面）／B面（裏面）の区別は、ディスク内周のラベルに記載されています。

ディスクの信号面（文字が印刷されていない面）には触れないようにご注意ください。

8cmディスクを再生するときは、「8cmディスクを入れるときは」（87ページ）をご覧ください。



ディスクが吸い込まれるようにして自動的にDVD-ROMドライブに入ります。

ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

音楽CDを入れた場合は、「Media Bar」ソフトウェアが起動し、再生が始まります。

次のページにつづく

DVDビデオを入れた場合は、「DVD Player」ソフトウェアが起動し、再生が始まります。

頭出しや早送り／早戻し、リピート／シャッフルなど、いろいろな再生のしかたについて詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

再生を止めるには

「Media Bar」または「DVD Player」ソフトウェアの ■（停止）をクリックします。

DVDビデオをより快適にお楽しみいただくために

本機ではソフトウェアを用いてDVDビデオを再生しています。このため、ディスクによっては以下の操作を行うことにより、より滑らかな再生映像をご覧いただけます。

- DVDビデオを再生する「DVD Player」ソフトウェア以外のソフトウェアをすべて終了する。
- 「MX Stage」画面の タスクトレイへ をクリックし、「MX Stage」をデスクトップ画面右下のタスクトレイに収納する。

DVDビデオを再生したあと、「MX Stage」をデスクトップ画面に表示させるときは、以下のいずれかの操作を行ってください。

- タスクトレイの をダブルクリックする。
- オーディオ／DVD用リモコンのP3ボタンを押す。
- 本機前面パネルのFC3（MX）ボタンを押す。

ちょっと一言

- 手順4で音楽CDをDVD-ROMドライブに入れたあと、「Media Bar」へのパッケージ登録をうながすダイアログボックスが表示されることがあります。この場合は、別冊の「Media Bar」取扱説明書またはヘルプをご覧になり、操作してください。
- DVDによってはタイトルメニューやDVDメニューが表示される場合があります。詳しくは「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- PCV-MX3GKでは、テレビをつなぎ、DVDビデオの映像をテレビで見ることができます。詳しくは「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

- DVDビデオを再生しているときは、画面の解像度は変更しないでください。変更すると、DVDビデオが正しく再生されなかったり、画面にノイズが出ることがあります。
- PCV-MX3GKでは、ディスプレイとテレビの両方を接続していてもDVDビデオの映像は両方同時に表示できません。

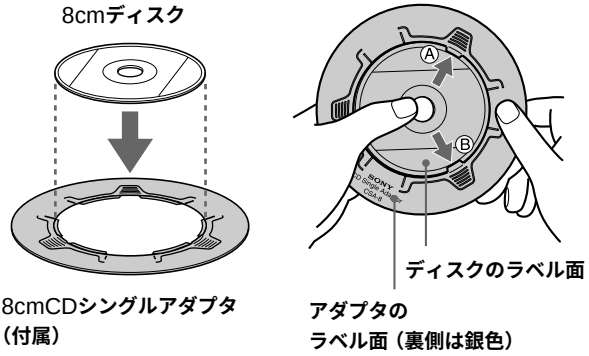
8cmディスクを入れるときは

8cmディスクに付属の8cmCDシングルアダプタを取り付けたあと、DVD-ROMドライブに入れます。

ご注意

必ず8cmディスクに8cmCDシングルアダプタを取り付けてからDVD-ROMドライブに入れてください。

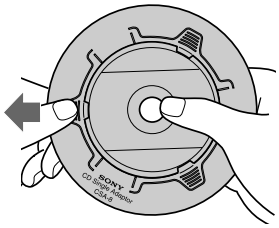
❶ Ⓐ、Ⓑ の順に2つのツメにディスクを差し込む。



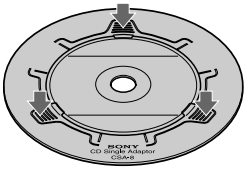
ちょっと一言

両面にデータが記録されているDVDにアダプタを取り付けるときは、再生したい面の反対側の面をアダプタのラベル面に合わせます。

❷ 3つめのツメを外側に引いて、ディスクをはめる。



❸ 押してみて、平らであることを確認する。
すべてのツメについて確認してください。



次のページにつづく

8cmCD**シングルアダプタ取り付け時のご注意**

- ツメが浮いている場合は平らになるように指で押し込んでください。
  ツメが浮いていると異音が発生したり、動作しないことがあります。
- 取り付けた後で必ず、ディスクが3つのツメのみぞに正しくはまっているかを確認してください。

ご注意

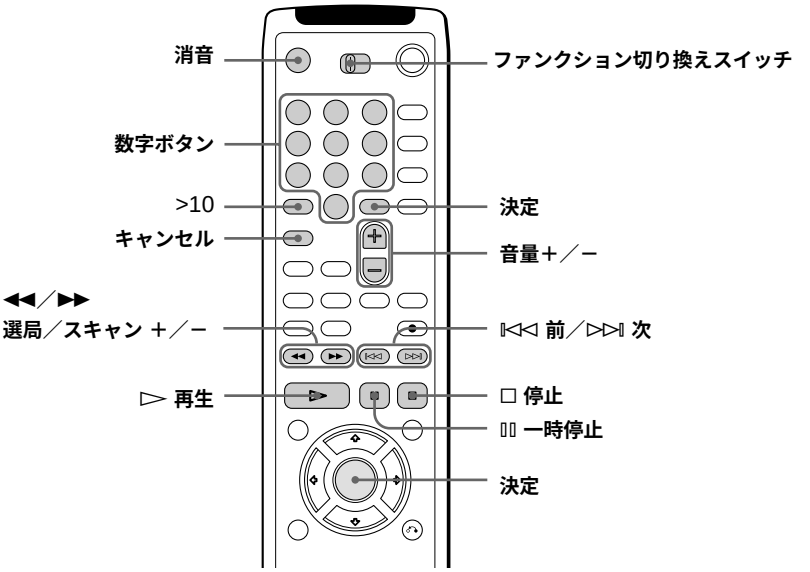
- ディスクを入れたまま、本機の電源を切らないでください。
- ディスクをDVD-ROMドライブに入れるときは、まっすぐにゆっくりと挿入してください。斜めに挿入すると、DVD-ROMドライブの故障の原因となります。
- 8cmCDシングルアダプタを8cmCDに取り付けずにDVD-ROMドライブに入れると取り出せなくなることがありますのでご注意ください。また、本機の故障の原因となります。

オーディオ／DVD用リモコンで操作するには

付属のオーディオ／DVD用リモコンを使って音楽CDやDVDビデオを操作することもできます。

ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」ソフトウェアが起動していなくても、オーディオ／DVD用リモコンを操作することにより自動的に「Media Bar」ソフトウェアが起動し、音楽CDやDVDビデオが再生されます。



1 オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

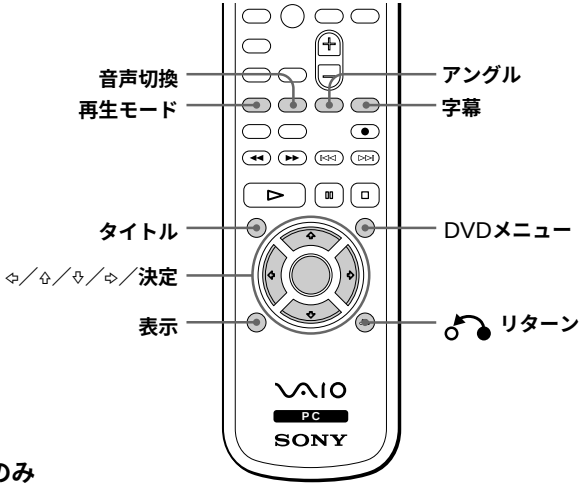
2 目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。

音楽CD／DVDビデオ共通

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
再生中にチャプター[1)] や映像、曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に画面を見ながら（音を聞きながら）探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量 ＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。

[1)] DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（99ページ）をご覧ください。

次のページにつづく



音楽CDのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、 または が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）	再生モードボタンを、「SHUF」が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
再生するトラック[2)] を選ぶ	数字ボタンで再生したいトラックの番号を押す。10トラック目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す（99トラックまで）。 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
時間表示を切り換える	表示ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り換わります。 →コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 パッケージ残り時間 ←パッケージ経過時間←

[2)] 音楽CDに記録されている曲の区切り（1曲分）のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（99ページ）をご覧ください。

DVDビデオのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、タイトル または チャプター が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
字幕を表示する	再生中、字幕ボタンを、好みの字幕が表示されるまで押す。
アングルを切り換える	再生中、アングルボタンを、好みのアングルが表示されるまで押す。
音声を切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
タイトル[3] メニューで好きなタイトルを選ぶ	1 タイトルボタンを押してタイトルメニューを表示させる。 2 再生したいタイトルを←／↑／↓／→ボタンで選び、決定ボタンを押す。

こんなときは	操作のしかた
DVDメニューで好きな項目を選ぶ	1 DVDメニューボタンを押してDVDメニューを表示させる。 2 再生したい項目を←／↑／↓／→ボタンで選び、決定ボタンを押す。
時間表示を切り換える	表示ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り換わります。 **タイトル経過時間** ↕ **タイトル残り時間**

[3] DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（99ページ）をご覧ください。

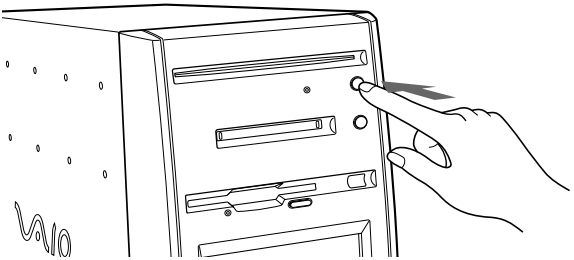
ご注意

再生するDVDビデオによっては、動作しない機能があります。

次のページにつづく

ディスクを取り出すには

DVD-ROMドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンを押します。



ご注意

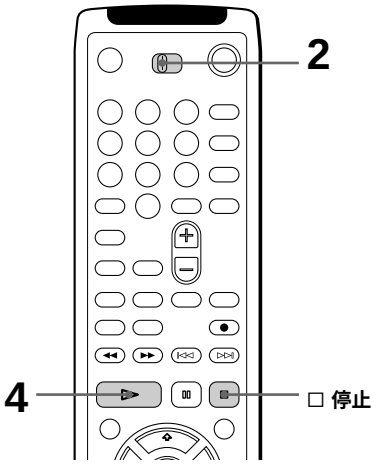
⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンは、本機がPCモードまたはオーディオモードで電源が入っていないと動作しません。また、PCモードでも本機がスタンバイモードまたは休止状態に入っているときは動作しません。この場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを押して、本機を通常の動作モードに戻してから、⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンを押してください。

ディスクが取り出せないときは

「主なトラブルとその解決方法」の「再生」（254ページ）をご覧ください。

オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って再生する Audio

オーディオモードでは、付属のオーディオ／DVD用リモコンや本機前面パネルのボタンやつまみを使って、音楽CDを再生することができます。



1 本機がオーディオモードになっていることを確認する（76ページ）。

2 オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」に設定する。

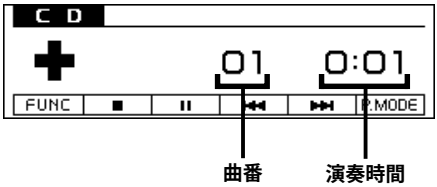
3 レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、ディスクをDVD-ROMドライブに入れる。

ディスクの入れかたについて詳しくは、85ページの手順4をご覧ください。

ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

4 オーディオ／DVD用リモコンの ▷ 再生を押す。

音楽CDの再生が始まり、表示窓に曲番と演奏時間が表示されます。

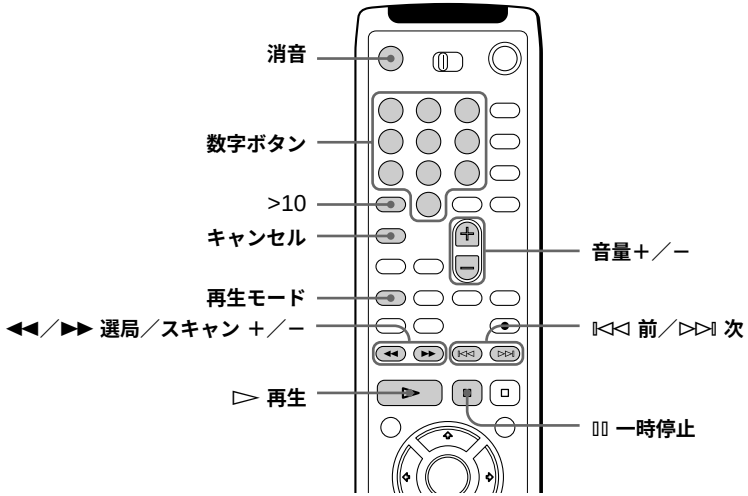


再生を停止するには

オーディオ／DVD用リモコンの □ 停止を押します。

次のページにつづく

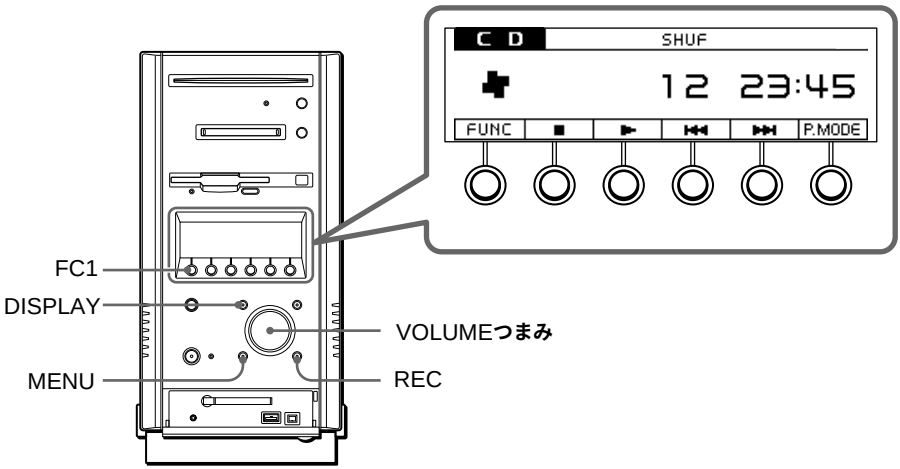
その他のオーディオ／DVD用リモコンの操作



こんなときは	操作のしかた
一時停止する	⏸ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
再生中に曲を進める	⏭ 次を押す。
再生中に曲を戻す	⏮ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量 ＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す。（99曲まで） 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、↻ または ↻1 が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	再生モードボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

前面パネルのボタンで操作するには



1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する（76ページ）。**

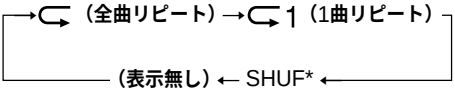
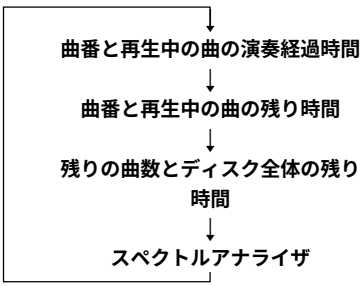
2 **レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについて詳しくは85ページの手順4をご覧ください。
ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

3 **FC1ボタンを C D が前面パネルの画面に表示されるまで押す。**

4 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

次のページにつづく

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをFMラジオへ切り換える。再生中に押すと、再生が停止する。
FC2（■）	再生を停止する。
FC3（►／❚❚）	再生する。再生中に押すと、一時停止する。
FC4（I◄◄／◄◄）	短く押すと、1曲ごとに前の曲に戻る。 長く押すと、押している間曲を早戻しする。
FC5（►►／►►I）	短く押すと、1曲ごとに次の曲へとぶ。 長く押すと、押している間曲を早送りする。
FC6（P.MODE）	押すごとに再生モードが以下のように切り換わります。  *「SHUF」は再生が停止中のみ
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （173、260ページ）
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	停止中に押すと、音楽CDの全曲をMDへ録音する。 再生中、または一時停止中に押すと、現在再生または一時停止中の曲のみをMDへ録音する。

使用できるディスク

本機のDVD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。
8cmディスクは付属の8cmCDシングルアダプタに取り付けて使用します。

ディスクの種類	マーク	再生できるモード
DVD-ROM		PCモードのみ
DVDビデオ		PCモードのみ
音楽CD		PCモード オーディオモード
CD Extra		PCモード[2)] オーディオモード[3)]
CD-ROM		PCモード[2)] オーディオモード[4)]
CD TEXT		PCモード オーディオモード[3)]
CD-R[1)]		PCモード[2)] オーディオモード[4)]
CD-RW[1)]		PCモード[2)] オーディオモード[4)]

[1)] 本機では、何も書き込まれていないディスク、書き込みに失敗したディスク、データ書き込み後にDVD-ROMドライブでデータを読み込めるように設定していないディスクはお使いになれません。

[2)] PCモードでは、映像および音声を再生できます。

[3)] オーディオモードでは、音声のみ再生できます。

[4)] オーディオモードでは、一部の音声ファイルでのみ音声を再生できます。

次のページにつづく

ご注意

- DVDビデオを再生するときは、必ず付属の「Media Bar」ソフトウェアをお使いください。その他のソフトウェアで再生すると、本機の故障の原因となります。
- 「Media Bar」ではCD-ROMの音声を再生する動作については保証していません。
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- 破損したディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- 音楽CDの再生中は本機に触れないでください。音飛びすることがあります。

再生可能なDVDの地域番号（リージョンコード）について

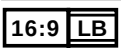
DVDには のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーやドライブの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と「DVD Player」ソフトウェアの画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

DVD再生時の操作上のご注意

DVDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

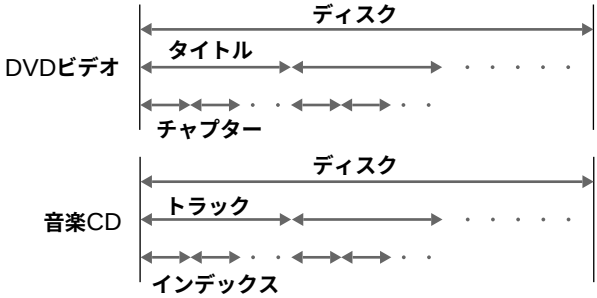
DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。それぞれのマークはそのディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。
ただしそれらの機能が使えても、以下のマークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
	音声のトラック数を表します。
	字幕の数を表します。
	アングル数を表します。
	選択可能な画像アスペクト比を表します。
	再生可能な地域番号を表します。

ディスクに関する用語の説明

- **タイトル**
  DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（あるいは1曲）にあたります。それぞれのタイトル順に付けられた番号をタイトル番号といいます。
- **チャプター**
  DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。
- **トラック**
  音楽CDに記録されている曲の区切り（1曲分）をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。



- **インデックス（音楽CD）**
  音楽CDで、再生したい部分を見つけやすいように1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。

PCV-MX3GKは、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

MDを再生する

MD（ミニディスク）を再生して楽しむことができます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアや付属のオーディオ／DVD用リモコンを使っての再生のしかたを説明します。

ご注意

本機のMDドライブはMDclipには対応していません。MDclip情報が入っているMDを再生するときは、誤消去防止つまみの孔を開き、録音できない状態にしてください。（110ページ）

「Media Bar」ソフトウェアを使って再生する PC

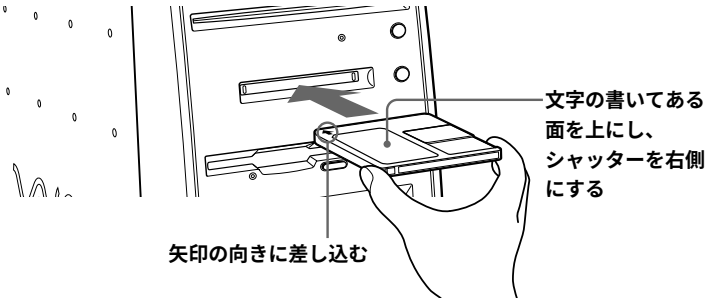
PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」を起動し、MDを再生できます。MDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます（一部のソフトウェアを除く）。

1 本機がPCモードになっていることを確認する（76ページ）。

2 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときは「Media Bar」の設定を行う。

詳しくは84〜85ページの手順2〜3をご覧ください。

3 文字が書いてある面を上にして、MDをMDドライブに入れる。



ご注意

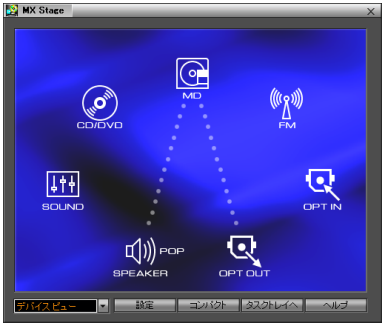
- ラベルがはみ出したり、正しい位置にラベルを貼っていないMDはお使いにならないでください。本機の故障の原因となることがあります。
- MDをフロッピーディスクドライブに入れないようにご注意ください。

4 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

5 **画面左下の をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

「デバイスビュー」が表示されます。



6 **「MX Stage」の (MD) をダブルクリックする。**

「MD Player」が起動し、再生が始まります。

頭出しや早送り／早戻しなどの操作について詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

再生を止めるには

「MD Player」の (停止) をクリックします。

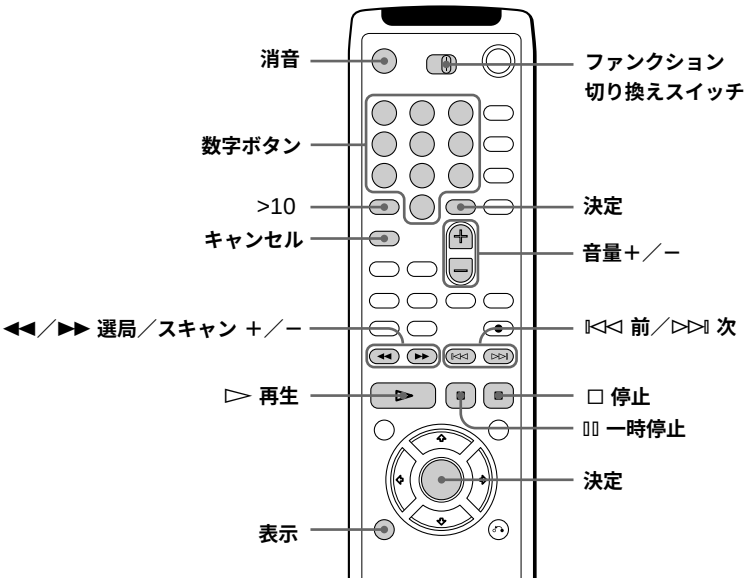
オーディオ／DVD用リモコンで操作するには

付属のオーディオ／DVD用リモコンを使ってMDを操作することもできます。

ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」が起動していなくても、オーディオ／DVD用リモコンを操作することにより自動的に「MD Player」が起動し、MDが「MD Player」を使って再生されます。

次のページにつづく



1 オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「MD」にする。

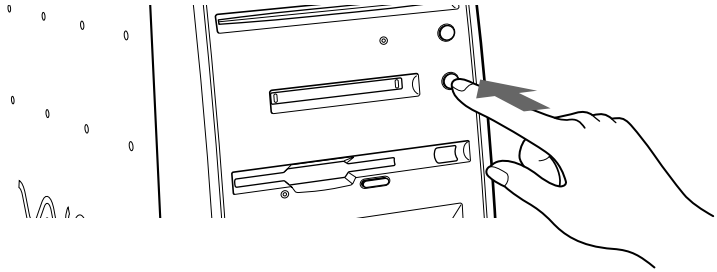
2 目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	⏸ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
曲を進める	⏭ 次を押す。
曲を戻す	⏮ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を聞きたいところまで押し続ける
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。

こんなときは	操作のしかた
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10トラック目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、決定ボタンを押す。 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
音量を調節する	音量 ＋／－ボタンを押す。
時間表示を切り換える	表示ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り換わります。 → コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 パッケージ残り時間←パッケージ経過時間←

MDを取り出すには

⏏（MDイジェクト）ボタンを押します。



ご注意

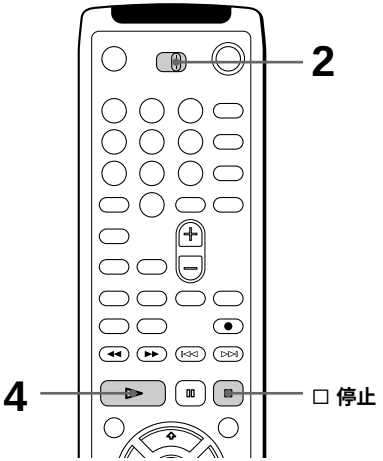
⏏（MDイジェクト）ボタンは、本機がPCモードまたはオーディオモードで電源が入っていないと動作しません。また、PCモードでも本機がスタンバイモードまたは休止状態に入っているときは動作しません。この場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを押して、本機を通常の動作モードに戻してから、⏏（MDイジェクト）ボタンを押してください。

MDが取り出せないときは

上記の「MDを取り出すには」の操作を行ってもMDが取り出せないときは、いったん本機の電源を切り、再度電源を入れてください。そのあと、⏏（MDイジェクト）ボタンを押してください。

オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って再生する

オーディオモードでは、付属のオーディオ／DVD用リモコンや本機前面パネルのボタンやつまみを使って、MDを再生することができます。



1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する（76ページ）。**

2 **オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「MD」に設定する。**

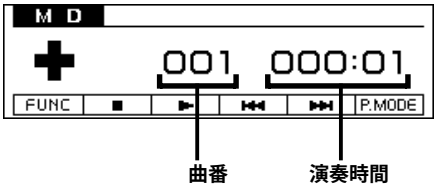
3 **文字が書いてある面を上にして、MDをMDドライブに入れる。**
MDの入れかたについて詳しくは、100ページの手順3をご覧ください。

ご注意

オーディオモードでMDをMDドライブに入れるときは、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押してからしばらくお待ちになり、本機前面の表示窓がオーディオモードの表示になってから、MDを入れてください。表示窓にVAIOロゴまたは時刻が表示されているときにMDを入れようとすると、MDは排出され、TOC（109ページ）などが正しく認識されなくなります。このような状態になったときは、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押して、いったんオーディオモードの電源を切り、再度、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押して、オーディオモードで電源を入れてください。

4 オーディオ／DVD用リモコンの ▷ 再生を押す。

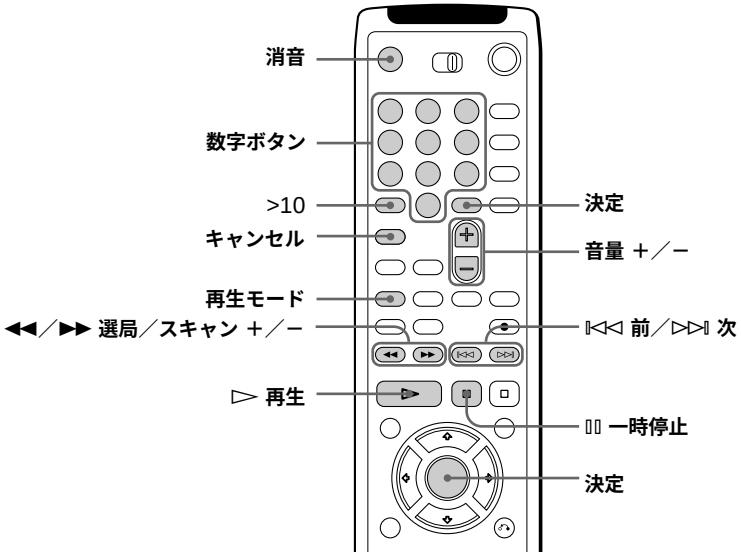
MDの再生が始まり、表示窓に曲番と演奏時間が表示されます。



再生を停止するには

オーディオ／DVD用リモコンの □ 停止を押します。

その他のオーディオ／DVD用リモコンの操作

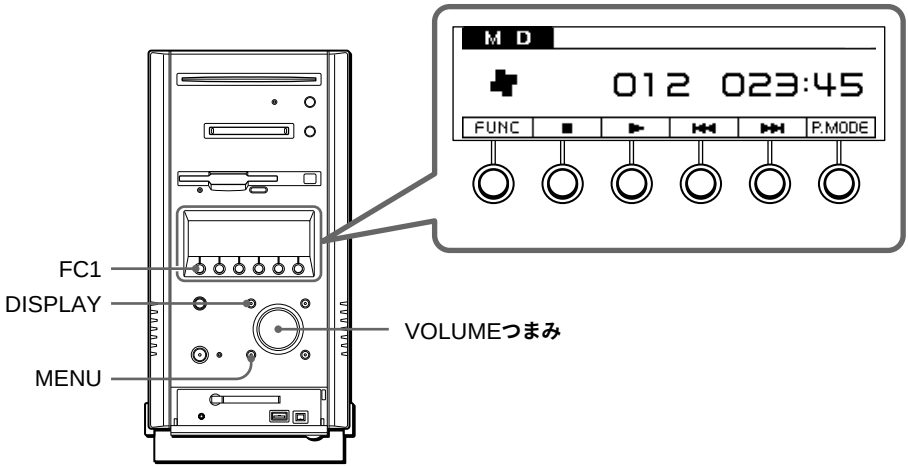


こんなときは	操作のしかた
一時停止する	⏸ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
曲を進める	▷▷⏭ 次を押す。
曲を戻す	⏮◁◁ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。

次のページにつづく

こんなときは	操作のしかた
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、決定ボタンを押す。選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、🔁 または 🔁1 が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	再生モードボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

前面パネルのボタンで操作するには



1 本機がオーディオモードになっていることを確認する（76ページ）。

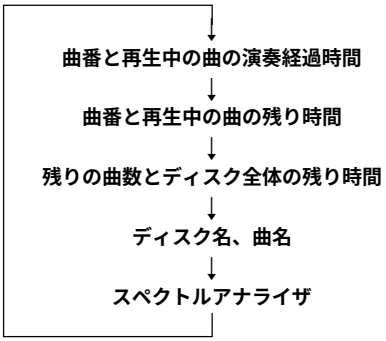
2 文字が書いてある面を上にして、MDをMDドライブに入れる。
MDの入れかたについて詳しくは100ページの手順3をご覧ください。

3 FC1ボタンを MD が前面パネルの画面に表示されるまで押す。

4 前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをOPT INへ切り換える。 各種設定メニューの「OPT IN」で「OPT IN FUNCTION」を「OFF」に設定したときはCDに切り換える。 再生中に押すと、再生が停止する。
FC2（■）	再生を停止する。
FC3（►／II）	再生する。再生中に押すと、一時停止する。
FC4（I◄◄／◄◄）	短く押すと、1曲ごとに前の曲に戻る。 長く押すと、押している間曲を早戻しする。
FC5（►►／►►I）	短く押すと、1曲ごとに次の曲へとぶ。 長く押すと、押している間曲を早送りする。
FC6（P.MODE）	押すごとに再生モードが以下のように切り換わります。 → **(全曲リピート)** → **1(1曲リピート)** → ← **(表示無し)** ← SHUF* ← *「SHUF」は再生が停止中のみ

次のページにつづく

DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **再生中／再生一時停止中** 
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （173、260ページ）
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。

録音の前にお読みください

MDは、音質劣化の少ない「デジタル方式」で録音、再生を行います。また、音楽CDにあるような曲番を付けることで、すばやい曲の頭出しや、録音した曲の編集を実現しています。
本機では音源によって、次のように録音を行い、曲番を付けます。

本機のDVD-ROMドライブから録音するとき

- デジタル録音をします*1。
- 曲番は自動的に音楽CDと同じように付きます。

OPTICAL INコネクタにつないだCS／BSチューナーなどのデジタル機器から録音するとき

- デジタル録音をします*1。
- 曲番の付きかたは録音する音源によって異なります。

本機のFMラジオや、LINE INコネクタにつないだ別売りの機器（カセットデッキなど）から録音するとき

- アナログ録音をします*2。
- 曲番は録音開始点にしか付きません。

*1 デジタル録音には制約があります（283ページ）。

*2 デジタル機器をつないでいても、デジタル接続ケーブルを使ってOPTICAL INコネクタにつないでいないときは、アナログ録音されます。

MDの曲番について（TOC）

MDでは、曲番（曲順）や曲の開始／終了点などの情報を「TOC*3」と呼ばれる領域で、音楽とは別に管理しています。「TOC」の情報を書き換えるだけで曲の編集がすばやくできます。

*3 Table of Contentsの略（目次の意味）。

録音したあとは

MDイジェクトボタンを押してMDを取り出す。

「TOC」が点灯または点滅し始め、録音の情報がMDへ書き込まれ、録音が完了します。

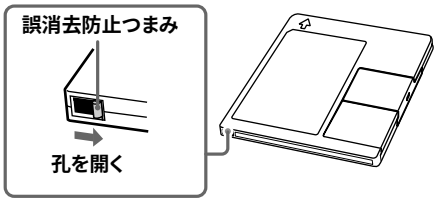
次のページにつづく

電源コンセントを抜く前に

MDへの録音は録音情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すと行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点灯または点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。録音情報が正しく記録されません。

MDの録音内容を消したくないときは

- 誤消去防止つまみをずらして孔を開きます。再び録音するときは、つまみを元の位置に戻します。



- MDが誤消去防止状態になっていると、表示窓に「PROTECTED」と表示され、録音できません。誤消去防止つまみを元の位置に戻して、孔をふさいでください。

音楽CDを録音する

音楽CDをMDへ録音できます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアや付属のオーディオ／DVD用リモコンを使って音楽CDからMDへ録音する方法を説明します。

「Media Bar」ソフトウェアを使って録音する PC

PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」を起動し、音楽CDをMDへ録音できます。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。

2 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときは「Media Bar」の設定を行う。
詳しくは84～85ページの手順2～3をご覧ください。

3 録音したい音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。
ディスクの入れかたについては、85ページの手順4をご覧ください。

4 録音用のMDをMDドライブに入れる。

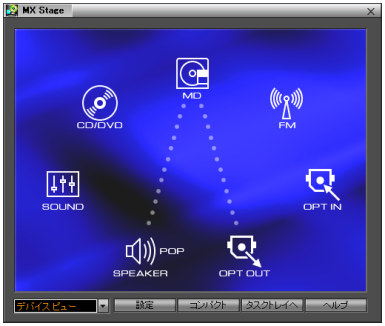
MDの入れかたについては、100ページの手順3をご覧ください。

5 デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

6 画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。



7 「MX Stage」の (CD／DVD) を (MD) へドラッグアンドドロップする。

「Media Bar」と「MD Player」が自動的に起動し、音楽CDの中の曲名が「MD Player」の画面にコピーされます（録音待機状態）。

次のページにつづく

8 **「MD Player」の (録音) または「Media Bar」の (再生) ボタンをクリックする。**

音楽CDが1曲目から再生され、MDへの録音が始まります。

録音を停止するには

「MD Player」の (停止) ボタンをクリックします。

ちょっと一言

- 途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから録音されます。
- DVD-ROMドライブに音楽CDを入れると、「Media Bar」ソフトウェアが自動的に起動し、再生が始まることがありますが「MX Stage」から同様に録音の操作ができます。

ご注意

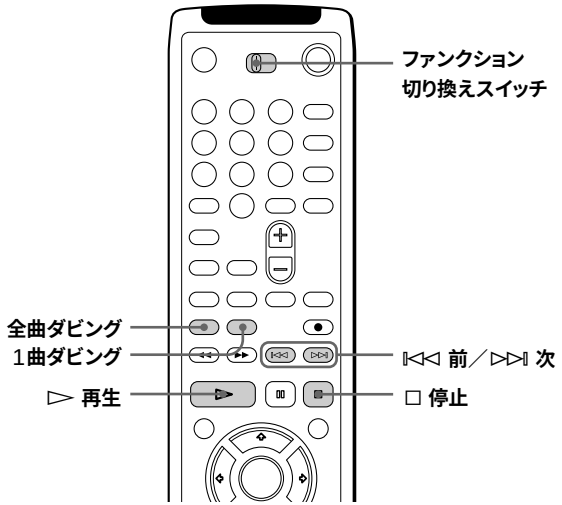
- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」(110ページ) をご覧ください。
- 音楽CDから録音しようとする曲の合計演奏時間がMDの空き時間を超える場合は、録音ができません。

オーディオ／DVD用リモコンで操作するには

付属のオーディオ／DVD用リモコンを使って操作することもできます。

ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」や「MD Player」が起動していなくても、オーディオ／DVD用リモコンを操作することにより自動的に「Media Bar」と「MD Player」が起動し、音楽CDからMDへの録音をすることができます。



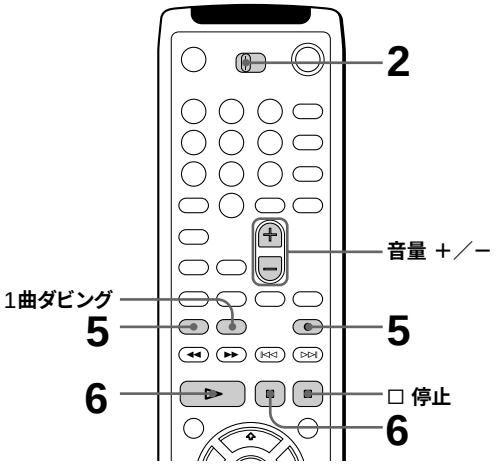
1 オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

2 目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。

こんなときは	操作のしかた
「Media Bar」ソフトウェアで再生中の音楽CDのすべての曲をMDに録音する	全曲ダビングボタンを押し、▷ 再生を押す。
「Media Bar」ソフトウェアで再生中の音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ 前または⏭ 次ボタンで録音したい曲を選んでから1曲ダビングボタンを押し、▷ 再生を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。

オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って録音する Audio

オーディオモードでは、付属のオーディオ／DVD用リモコンや本機前面のボタンやつまみを使って、音楽CDをMDに録音することができます。



1 本機がオーディオモードになっているかを確認する（76ページ）。

2 ファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

次のページにつづく

3 **録音したい音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。**

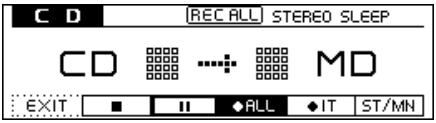
ディスクの入れかたについては、85ページの手順4をご覧ください。

4 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについては、100ページの手順3をご覧ください。

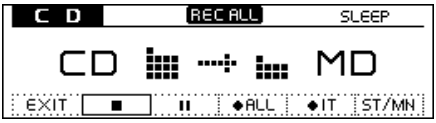
5 **オーディオ／DVD用リモコンの ● 録音または全曲ダビングボタンを押す。**

録音待機状態になります。



6 **オーディオ／DVD用リモコンの II 一時停止または ▷ 再生を押す。**

音楽CDが1曲目から再生され、MDへの録音が始まります。



好きな1曲だけを録音するには

録音したい曲の再生中に1曲ダビングボタンを押してから、II 一時停止または ▷ 再生を押します。指定した曲の先頭から、MDへの録音が始まります。

録音を停止するには

オーディオ／DVD用リモコンの □ 停止ボタンを押します。

音量を調節するには

オーディオ／DVD用リモコンの音量＋／－ボタンを押します。

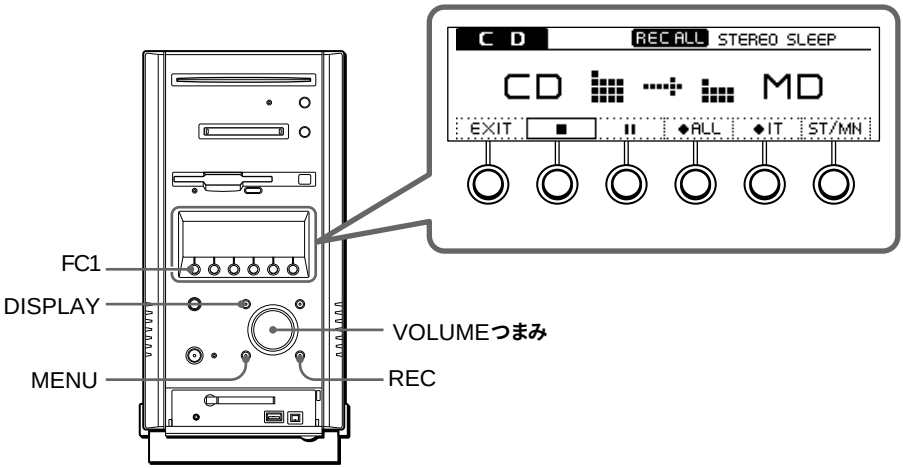
ちょっと一言

途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから録音されます。

ご注意

- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」（110ページ）をご覧ください。
- 音楽CDから録音しようとする曲の合計演奏時間がMDの空き時間を超える場合は、録音ができません。

前面パネルのボタンを使って操作するには



1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する（76ページ）。**

2 **レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、音楽CDをDVD-ROMドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについて詳しくは85ページの手順4をご覧ください。

ディスクの内容が読み込まれ始めると、DVD-ROMアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

3 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**

MDの入れかたについては100ページの手順3をご覧ください。

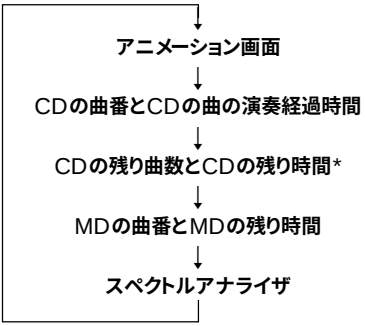
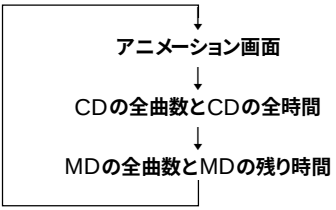
4 **FC1ボタンを C D が前面パネルの画面に表示されるまで押す。**

5 **RECボタンを押す。**

前面パネル画面に上記のような画面が表示されます。

6 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

ボタン		機能
マルチファンクションボタン		
	FC1（EXIT）	停止中に押すと、音楽CDの再生へ戻る。
	FC2（■）	録音を停止する。
	FC3（II）	録音一時停止中に押すと、録音を開始する。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC4（●ALL）	音楽CDの全曲を録音するモードへ移行する。
FC5（●IT）	音楽CDの中の1曲を録音するモードに移行する。
FC6（ST/MN）	押すごとにMDの録音モードが次のように切り換わります。 STEREO ↔ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **録音中、録音一時停止中**  **アニメーション画面** **CDの曲番とCDの曲の演奏経過時間** **CDの残り曲数とCDの残り時間*** **MDの曲番とMDの残り時間** **スペクトルアナライザ** * 音楽CDの全曲録音中。1曲録音中は、CDの曲番とCDの曲の残り時間が表示される。 **停止中**  **アニメーション画面** **CDの全曲数とCDの全時間** **MDの全曲数とMDの残り時間**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （173、260ページ）
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。

FMラジオを録音する

FMラジオをMDへ録音できます。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」や付属のオーディオ／DVD用リモコンを使ってFMラジオからMDへ録音する方法を説明します。

「Media Bar」ソフトウェアを使って録音する

PCモードでは「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」を起動し、FMラジオをMDへ録音できます。

1 **本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**
「MX Stage」が表示されます。

3 **画面左下の をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**
「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の （FM）をダブルクリックする。**
「FM Tuner」が起動し、前回受信したFM放送局が受信されます。

初めて「FM Tuner」を起動したときは「プリセットの設定」画面が表示されます。FMラジオをお聞きになる地域を選んでください。詳しくは125ページをご覧ください。

次のページにつづく

5 **録音したいFM放送局を選ぶ。**

FMラジオの選局のしかたについては、125ページをご覧ください。

6 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**

MDの入れかたについては、100ページの手順3をご覧ください。

7 **（録音）をクリックする。**

ボタンをクリックした時点より、FMラジオからMDへの録音が始まります。

録音を停止するには

「FM Tuner」の （停止）ボタンをクリックします。

ちょっと一言

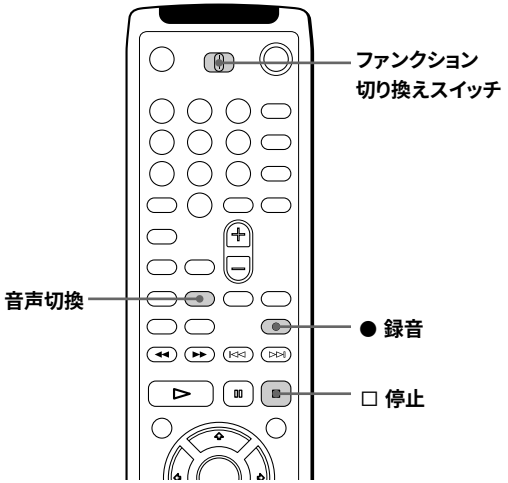
途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから新しいトラックとして録音されます。

ご注意

- FMラジオの受信状態が悪いときは、テレビ、電話、蛍光灯などが雑音の原因となっていることがありますので、FMアンテナをなるべく離してお使いください。
- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」（110ページ）をご覧ください。

オーディオ／DVD用リモコンで操作するには

付属のオーディオ／DVD用リモコンを使って操作することもできます。



1 **「FM Tuner」が起動して、録音したいFM放送局を受信していることを確認する。**

2 **オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。**

3 **目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。**

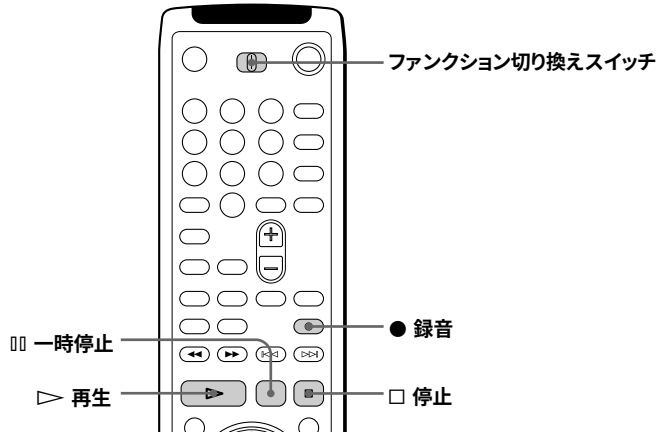
こんなときは	操作のしかた
録音する	● 録音を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り換える	音声切換ボタンを好みの音声が選択されるまで押す。

オーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンを使って録音する

オーディオモードでは、付属のオーディオ／DVD用リモコンや本機前面パネルのボタンやつまみを使って、FMラジオをMDに録音することができます。

ご注意

- FM文字放送を保存することはできません。
- 録音するための操作は、PCモードで「FM Tuner」ソフトウェアを使うときの操作と異なります。オーディオ／DVD用リモコンの●録音ボタンや前面パネルのRECボタンを押しても録音は始まらず、録音待機状態になります。



1 **本機がオーディオモードになっているかを確認する（76ページ）。**

2 **オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。**

次のページにつづく

3 **録音したいFM放送局を選ぶ。**

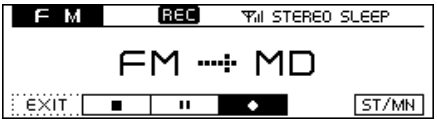
FMラジオの選局のしかたについては、「プリセット局を選んで聞く」（130ページ）をご覧ください。

4 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**

ディスクの入れかたについては、100ページの手順3をご覧ください。

5 **オーディオ／DVD用リモコンの ● 録音を押す。**

録音待機状態になります。



6 **オーディオ／DVD用リモコンの ⏯ 一時停止または▷ 再生ボタンを押す。**

FMラジオからMDへの録音が始まります。

録音を停止するには

オーディオ／DVD用リモコンの □ 停止ボタンを押します。

音量を調節するには

オーディオ／DVD用リモコンの音量 ＋／－ボタンを押します。

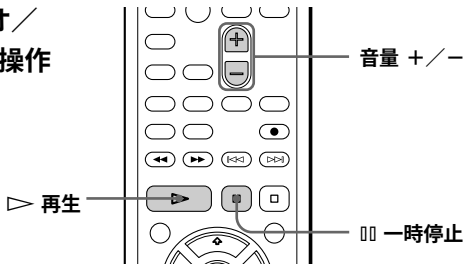
ちょっと一言

途中まで録音済みのMDに録音した場合は、録音済みの曲のあとから録音されます。

ご注意

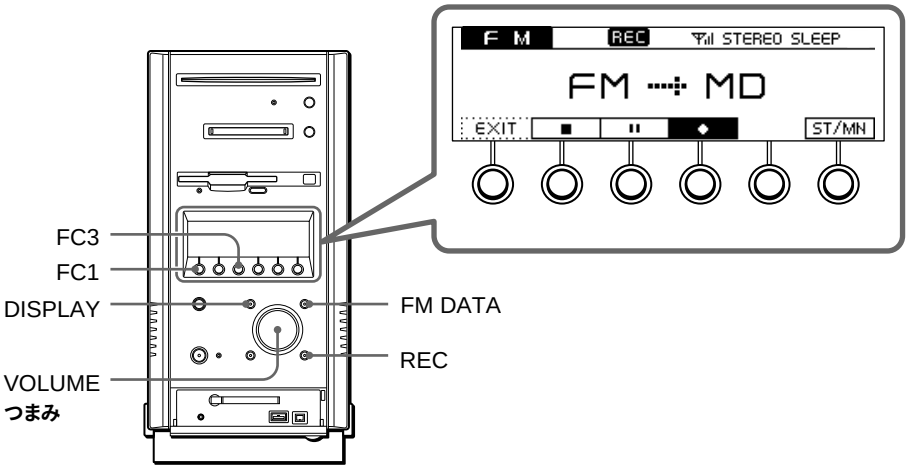
- 録音中にFMラジオの受信状態が悪いときは、テレビ、電話、蛍光灯などが雑音の原因となっていることがありますので、FMアンテナをなるべく離してお使いください。
- MDが誤消去防止状態になっていると録音できません。MDイジェクトボタンを押してMDを取り出し、誤消去防止つまみを動かして、孔をふさいでください。詳しくは、「MDの録音内容を消したくないときは」（110ページ）をご覧ください。

その他のオーディオ／DVD用リモコンの操作



こんなときは	操作のしかた
録音を一時停止する	⏸ 一時停止を押す。
一時停止したあと、録音を再開する	⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
音量を調節する	音量 ＋／－ボタンを押す。

前面パネルのボタンを使って操作するには



1 **本機がオーディオモードになっているかを確認する（76ページ）。**

2 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**
MDの入れかたについては、100ページの手順3をご覧ください。

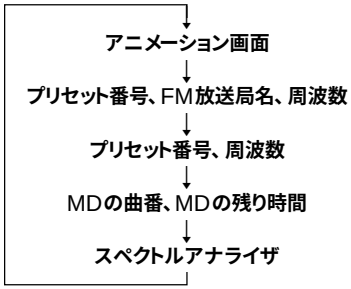
3 **FC1ボタンを前面パネルの画面に F M が表示されるまで押す。**

4 **RECボタンを押す。**
録音待機状態になります。

5 **FC3（⏸）ボタンを押す。**
FMラジオからMDへの録音が始まります。

6 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

次のページにつづく

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	停止中に押すと、FMラジオ放送へ戻る（録音状態を解除する）。
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音一時停止中に押すと、録音を開始する。 録音中に押すと、録音が一時停止状態になる。
FC4（●）	停止中に押すと、録音待機状態になる。
FC6（ST/MN）	押すごとにMDの録音モードが次のように切り換わります。 STEREO ↔ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送（ライブ）を表示する。

MDを編集する前にお読みください

録音済みの1枚のMD上で、曲の移動や削除などの編集作業が行えます。編集を行うことで、MD間でのダビングをせずに、オリジナルMDアルバムの作成をお楽しみいただけます。
MDの編集をするには、MDが書き込み可能な状態になっている必要があります。

編集をはじめる前に、MDが誤消去防止状態になっていないか確認してください。
誤消去防止状態になっているときは、つまみを動かして孔をふさぎます。MDが誤消去防止状態になっているときは、編集作業はできません。

本機のMDドライブはMDclipには対応していません。
本機でMDclip情報が入ったMDを編集すると、MDclip情報が表示できなくなったり、正しいタイミングで表示できなくなることがあります。

編集機能について

- Name（ネーム） — **名前を付ける**
  ディスク名と曲名を記録できます。
  入力できる文字は漢字、カタカナ、アルファベット（大文字、小文字）、数字、記号の一部です。
- Erase（イレース） — **曲を削除する**
  不要な曲を削除できます。
- Move（ムーブ） — **曲順を変える**
  曲順の入れ換えが自由にできます。
- Divide（ディバイド） — **曲を分ける**
  曲と曲の間をふたつに分けると（Divide）、分けたところに曲番が付きます。
  この機能を使って、曲の途中、例えば好きなフレーズのはじめに曲番を付けると、好きなフレーズの頭出しもできます。
- Combine（コンバイン） — **曲をつなぐ**
  この機能を使うとふたつの曲が1曲につながります。

編集したあとは

MDイジェクトボタンを押してMDを取り出す。
本機前面パネルの表示窓に「TOC」が点灯または点滅し始めます。編集の情報がMDへ書き込まれ、編集が完了します。

次のページにつづく

電源コンセントを抜く前に

MDの編集は編集情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すと行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点灯または点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。編集情報が正しく記録されません。

「Media Bar」ソフトウェアを使って編集する PC

「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」を起動して、ドラッグアンドドロップなどの操作で録音済みのMDを編集します。

1 **録音済みのMDをMDドライブに入れる。**

MDの入れかたについては、100ページの手順3をご覧ください。

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

3 **画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の （MD）をダブルクリックする。**

「Media Bar」ソフトウェアの「MD Player」が起動し、再生が始まります。

5 **編集作業を行う。**

各編集のしかたについて詳しくは、「Media Bar」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

FMラジオを聞く

本機でFMラジオを受信して聞くことができます。FM放送局が文字放送を実施している場合は、音声と同時にディスプレイ画面上または本機前面の表示窓で文字情報を見ることもできます。
FM文字放送について詳しくは136ページをご覧ください。
ここでは、付属の「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」や付属のオーディオ／DVD用リモコンを使ってFMラジオを聞く方法を説明します。

ご注意

- 受信状態の悪いときは、FMアンテナを張り直してください。張りかたについて詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。
- 受信状態が悪いときは、テレビ、電話、蛍光灯などが雑音の原因となることがありますので、それらを本機のFMアンテナからなるべく離してお使いください。それでも受信状態にあまり変化がない場合は、本機のFMアンテナを壁のテレビのアンテナコネクタに接続すると受信状態が良くなることがあります。

地域を指定してFM放送局を選ぶ（スーパーエリアコール）

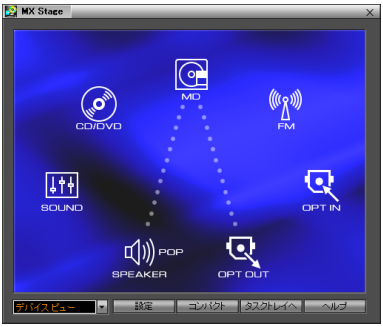
PCモードでは、「MX Stage」から「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」を起動してFMラジオを受信します。あらかじめ記憶されている14の地域の中からお使いになる地域を選び、地域ごとに設定されたFM放送局の中から受信したいFM放送局を選びます（スーパーエリアコール）。
本機で選局できるスーパーエリアコールについては、「スーパーエリアコール周波数一覧」（299ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

1 **本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。



3 **画面左下の をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の (FM) をダブルクリックする。**

「FM Tuner」が起動し、前回受信していたFM放送局が受信されます。

初めて「FM Tuner」ソフトウェアを起動したときは

「プリセットの設定」画面が表示され、初期設定のFM放送局が受信されます（「受信地域：関東1」の「1. 76.1MHz インターFM」）。

お聞きになる地域を「受信地域」リストから選んでクリックし、 決定 をクリックしてください。地域別のプリセットリストが設定されます。

5 **［ファイル］メニューの［選局モード］から［プリセット］をクリックする。**

6 **▼をクリックして表示されるプリセットリストからFM放送局を選ぶ。**

選んだFM放送局が受信されます。

選んだFM放送局がFM文字放送を実施している場合は、「FM Tuner」の［FM DATA］をクリックして番組を選択できます。FM文字放送について詳しくは136ページをご覧ください。

ご注意

- FMラジオやFM文字放送受信時に表示される はチューニング周波数の電波の強さの目安を示します。電波の状況により、実際の受信状況と異なることがあります。
- PCV-MX3GKにはテレビ番組やビデオの録画／再生する「Giga Pocket」ソフトウェアが付属しています。FMラジオの音声とテレビの音声は同時に聞くことはできません。「Giga Pocket」ソフトウェアを使用中に「FM Tuner」ソフトウェアを起動すると、「Giga Pocket」ソフトウェアで再生している音声はミュートされ聞こえなくなります。「Giga Pocket」ソフトウェアで再生している音声を聞くときは「FM Tuner」ソフトウェアの をクリックし、FMラジオの音声をミュートしてください。

ちょっと一言

初期設定では、プリセット局としてあらかじめ地域別のFM放送局が登録されています。これらのプリセット局は、オーディオ／DVD用リモコンの数字ボタンでプリセット番号を押すだけで、受信できます。また、プリセット局は「FM Tuner」で変更、追加、削除することができます。詳しくは、「プリセット局を変更・追加・削除するには」（128ページ）をご覧ください。

スーパーエリアコールにないFM放送局を選ぶには（マニュアル選局）

手動で周波数を調整して受信することができます。

前ページの手順3のあと、「FM Tuner」で［ファイル］メニューの［選局モード］から［マニュアル］をクリックし、聞きたいFM放送局を受信するまで［＋］または［－］ボタンをクリックします。周波数が0.1MHzずつ増減します。

キーボードを使って周波数を直接入力することもできます。

サテライト局を選ぶには

雑音が多く受信状態が悪いときは、サテライト局を探します。サテライト局とは、広い地域に放送しているFM放送局が、本局から離れたところでは別の周波数で放送している場合の中継局のことです。

サテライト局の選びかたについては、「FM Tuner」のヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

プリセット局を変更・追加・削除するには

初期設定であらかじめ登録されているプリセット局を変更したり、よく聞くFM放送局を新たにプリセット局として追加したり、不要なプリセット局を削除することができます。

1 「FM Tuner」の「ファイル」メニューから［プリセットの設定］をクリックする。

「プリセットの設定」画面が表示されます。

2 「受信地域」を確認する。

3 目的に合わせて、プリセット局の一覧から変更・追加・削除したいプリセット局をクリックして選び、追加/変更... または 削除 をクリックする。

追加/変更... をクリックした場合は、「プリセットの追加／変更」画面が表示されます。

削除 をクリックした場合は、プリセット局が一覧から削除されます。

4 変更・追加したいFM放送局の周波数と放送局名を入力して、OK をクリックする。

周波数は［＋］／［－］ボタンで調整することもできます。

ご注意

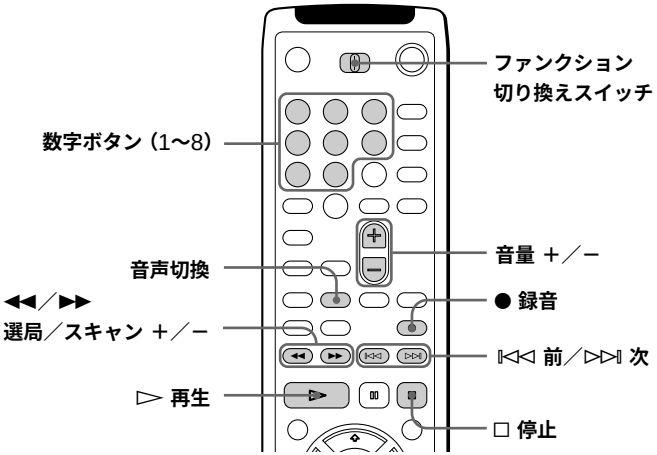
プリセット局を変更・追加・削除したあとに「受信地域」の設定を変更すると、プリセット局は初期設定のリストに戻ります。

オーディオ／DVD用リモコンで操作するには

付属のオーディオ／DVD用リモコンを使ってFMラジオを操作することもできます。

ちょっと一言

PCモードでは、「Media Bar」ソフトウェアの「FM Tuner」が起動していなくても、オーディオ／DVD用リモコンを操作することにより自動的に「FM Tuner」が起動し、FMラジオを聞くことができます。



1 オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

2 目的に合わせて、各ボタンを押して操作する。

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▷ 再生を押す。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1〜8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⏮ 前／⏭ 次を押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	音量 ＋／－ボタンを押す。

次のページにつづく

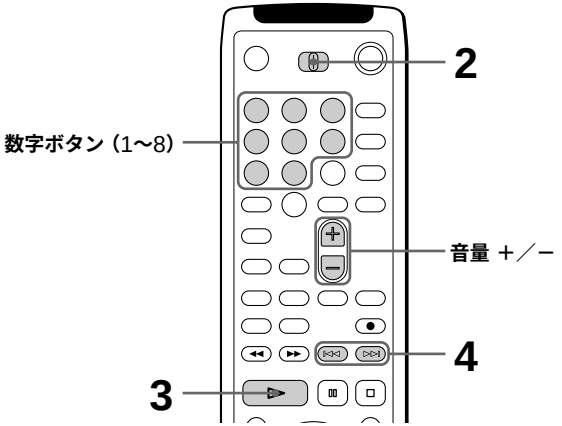
こんなときは	操作のしかた
FMラジオ音声のみを ミュート（消音）する	□ 停止を押す。ミュートを解除するときは、▷ 再生を押す。
スピーカーから聞こえる音声 （ステレオ／モノラル）を 切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	● 録音を押す。

プリセット局を選んで聞く Audio

オーディオモードでは、付属のオーディオ／DVD用リモコンや前面パネルのボタンやつまみを使って、「FM Tuner」で登録されたプリセット局を選んで聞くことができます。

ご注意

オーディオモードでは、プリセット局を選ぶか、マニュアル選局で受信することのみ可能です。プリセット局の変更、追加、削除はできません。プリセット局の変更、追加、削除はPCモードで「FM Tuner」を使って行います（128ページ）。



1 本機がオーディオモードになっているかを確認する（76ページ）。

2 オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

3 オーディオ／DVD用リモコンの ▷ 再生を押す。
前回受信していたFM放送局が受信されます。
最初にオーディオモードでFMラジオを受信したときは、「FM Tuner」でプリセット番号1に登録されているFM放送局が受信されます。

4 聞きたいFM放送局の名前が表示窓に表示されるまで、オーディオ／DVD用リモコンの ⏮ 前／次 ⏭ をくり返し押す。

選ばれたFM放送局が受信されます。

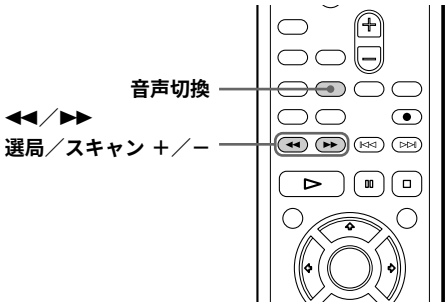
音量を調整するには

オーディオ／DVD用リモコンの音量 ＋／－ボタンを押す。

プリセット局を直接選ぶには

上記の手順4で、聞きたいプリセット局のプリセット番号を、オーディオ／DVD用リモコンの数字ボタン（1～8）で押します。

その他のオーディオ／DVD用リモコンの操作



こんなときは	操作のしかた
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ 選局／スキャン －／▶▶ 選局／スキャン ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ 選局／スキャン －／▶▶ 選局／スキャン ＋を2秒以上押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。

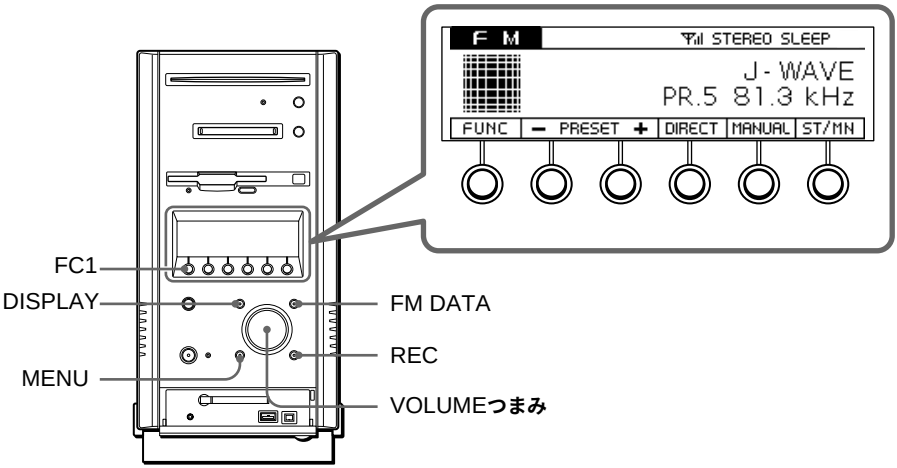
次のページにつづく

前面パネルのボタンを使って操作するには

1 **本機がオーディオモードになっていることを確認する（76ページ）。**

2 **FC1ボタンを前面パネルの画面に** F M **が表示されるまで押す。**

3 **前面パネルのボタンやつまみを使って操作する。**

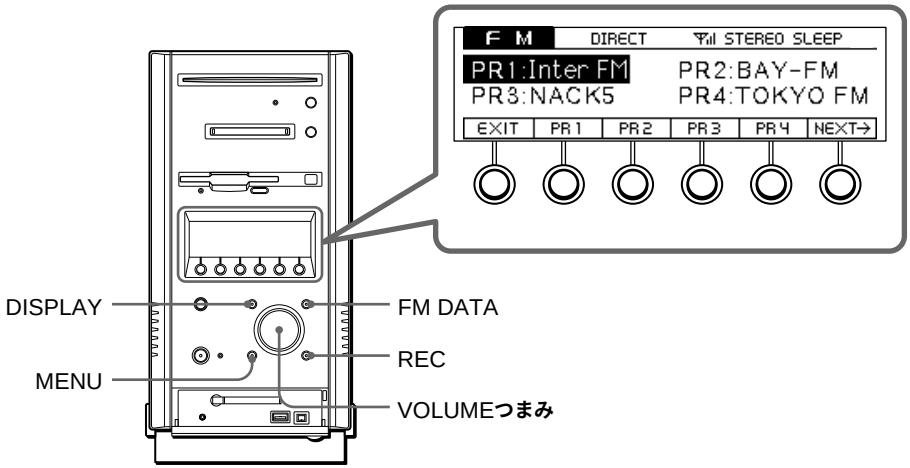


プリセット局を受信するとき

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをMDへ切り換える。
FC2（PRESET –）	前のプリセット局を受信する。
FC3（PRESET +）	次のプリセット局を受信する。
FC4（DIRECT）	プリセット局を直接選択するモードになる（133ページ）。
FC5（MANUAL）	FM放送局の周波数をマニュアルで調整するモードになる（135ページ）。
FC6（ST/MN）	押すごとにスピーカーから聞こえる音声が次のように切り換わります。 STEREO ↔ MONO

ボタン／つまみ	機能
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 プリセット番号、FM放送局名、周波数 ↓ プリセット番号、周波数 ↓ スペクトルアナライザ
MENU	各種設定をするメニューを表示する。（173、260ページ）
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。（121ページ）

プリセット局を直接選択するとき



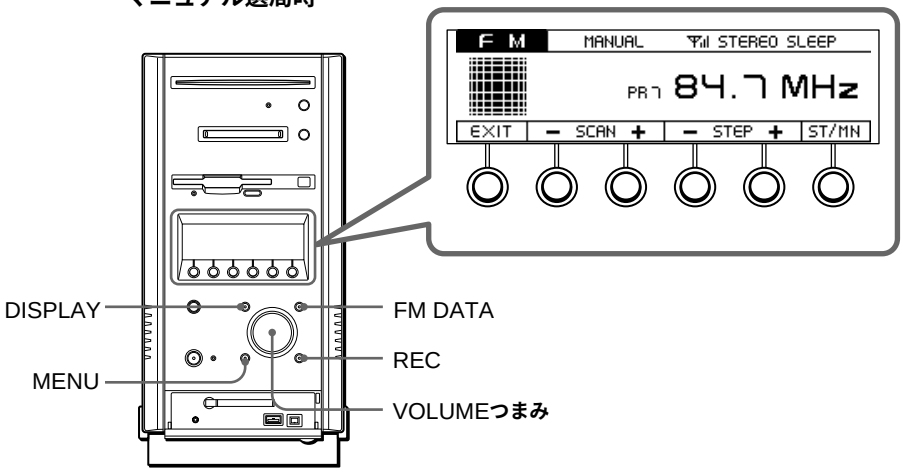
次のページにつづく

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局受信時の状態（130ページ）に戻る。
FC2～F5（PR1～PR8）	押したプリセット局を受信する。
FC6 （NEXT →／TOP →）	「NEXT →」を押すと、表示窓の画面を次ページへ送る。 「TOP →」を押すと、表示窓の画面を前ページへ戻す。
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **プリセット番号とプリセット局名のリスト表示** ↕ **プリセット番号と周波数のリスト表示**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。（173、260ページ）
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。（121ページ）

ちょっと一言

何も操作しないで15秒たつと自動的にプリセット局受信時の状態（130ページ）に戻ります。

マニュアル選局時



ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局受信時の状態（130ページ）にもどる。
FC2（SCAN –）	周波数の低い方向へ受信可能なFM放送局を探す。
FC3（SCAN +）	周波数の高い方向へ受信可能なFM放送局を探す。
FC4（STEP –）	1回押すごとに0.1MHzずつ周波数を減らす。
FC5（STEP +）	1回押すごとに0.1MHzずつ周波数を増やす。
FC6（ST/MN）	押すごとにスピーカーから聞こえる音声が次のように切り換わります。 STEREO ↔ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **周波数↔スペクトルアナライザ**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。 （173、260ページ）

次のページにつづく

ボタン／つまみ	機能
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。（121ページ）

FM文字放送を見る

FM文字放送とは

FM文字放送とは、ラジオ放送の電波と一緒に文字情報を送る放送サービスのことです。国内では、JFN系列（「見えるラジオ」）、J-WAVE（「アラジン」）、FM802（「Watch-me」）、NHK FMなどで実施中で、さまざまな番組情報や生活情報を配信しています。この文字放送は、FM文字放送対応のFMラジオで受信し、見ることができます（従来のラジオでは受信できません）。文字情報は全角文字で15文字（半角文字では31文字）×2行程度の文字を中心としたサービスとなっています。

FM文字放送には大きく分けて次の2種類があります。

番組情報（ライブ）

FMラジオの音声番組に関する情報。番組ごとに変わります。例えば、今流れている曲のタイトルやアーティスト名、リクエストの宛て先などが文字で見られます。

独立情報

音声の番組とは直接関係ない、独立した文字情報。例えば、ニュース、天気予報、交通情報などが文字で見られます。

上記のさまざまな情報を、ディスプレイ画面上で見ることができます。

FM文字放送受信時のご注意

FM文字放送は、受信状態により、音声が受信できても文字情報は受信できないことがあります。建物の中や地下など、電波の弱いところでは、受信できなかったり、すべてのデータを受信するのに時間がかかったりします。

また、FM文字放送を行っていないFM放送局を受信したときも文字放送は表示されません。

「Media Bar」ソフトウェアを使って見る

FM文字放送を実施しているFM放送局を受信すると、番組情報（ライブ）や独立情報を見ることができます。

1 「地域を指定してFM放送局を選ぶ（スーパーエリアコール）」（125ページ）の手順に従って、文字放送を実施しているFM放送局を受信する。

2 「FM Tuner」の FM DATA ▼ をクリックする。

番組メニューが表示されます。

ちょっと一言

FM DATA ▼ をクリックする代わりに、オーディオ／DVD用リモコンのDVD メニューボタンを押して番組メニューを表示させることもできます。

3 番組メニューから見たい番組情報や独立情報を選ぶ。

FMラジオに戻るには

FM DATA ▼ をクリックし、表示されるメニューから［FM DATAの終了］を選びます。

受信を止めるには

画面右上の ✕ ボタンをクリックします。

ちょっと一言

- 番組情報は、放送局側の音声とのタイミングで、その都度新しい情報に変わりますが、本機は最新のものから最大10ページを常に保存しているので、「FM Tuner」のスクロールバーをクリックして、さかのぼって見ることができます。
- FMラジオの音声をオーディオ／DVD用リモコンの □停止ボタンを押してミュートして、「Media Bar」ソフトウェアで音楽CDを聞きながらFM文字放送を見ることができます。
- FM DATA ▼ をクリックし、表示されるメニューから［複数ウィンドウ表示］をクリックすると、別のウィンドウが表示され、同一の放送局の情報を複数同時に見ることができます。
  詳しくは、「FM Tuner」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

表示される文字について

- 放送局から送られてくる文字データに、Windows 2000では表示できない文字が含まれていると、その番組ウィンドウ内ですべての文字が表示しきれないことがあります。
- Windows 2000の仕様上、表示される文字の上下、左右の間隔が番組ウィンドウの大きさによって異なるので、「――」が「－－－」、「[」が「¦」のように表示されることがあります。

番組メニューについて

本文が受信できていない番組メニューやサブメニューの項目はグレー色で表示され、選べません。

独立情報について

- 独立情報は受信できたページから順に表示されます。
- 独立情報は、FM放送局から新しい情報が放送されると、自動的に新しい情報に変わり、「番組が更新されました」と表示されます。この表示が出る直前は情報が混在することがあります。
- うまく受信できずに、情報の全ページが一度にそろわないことがあります。そのときは、受信できたページだけが表示されます。

ご注意

最終ページを受信するまで総ページ数を表示できない番組があります。

前面パネルのボタンを使って見る Audio

オーディオモードでは、本機前面のボタンを使って、番組情報（ライブ）や独立情報を見ることができます。

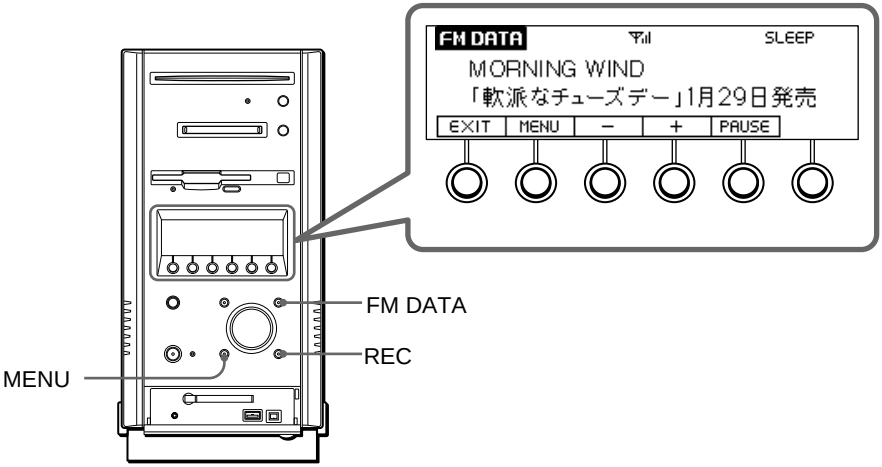
番組情報（ライブ）を見るには

FM文字放送を実施しているFM放送局を受信中に、本機前面のFM DATAボタンを押すと、番組情報が表示窓に表示されます。

ちょっと一言

番組情報は例です。

独立情報を見るには

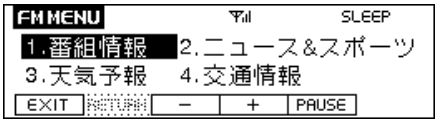


1 **FM文字放送を実施しているFM放送局を受信中に、本機前面のFM DATAボタンを押す。**

番組情報が表示窓に表示されます。

2 **FC2（MENU）ボタンを押す。**

文字放送メニューが表示されます。



3 **FC3（−）またはFC4（+）ボタンを押して見たい情報を選び、FC5（ENTER）を押す。**

選んだ独立情報が表示窓に表示されます。

ご注意

- オーディオモードでFM文字放送を見るとき、FM文字放送を行っていないFMラジオ局を受信しても、本機前面の表示窓に「受信中です。しばらくお待ちください。」と表示されます。
- FM文字放送の内容は、一定時間ごとに更新されます。オーディオモードではFM文字放送を見るとき、FM文字放送の内容が更新された場合は、古い内容をいったん消去するため、ページが飛んだり、新しい内容が本機前面の表示窓に表示されるまでに時間がかかることがあります。

次のページにつづく

前面パネルのボタン操作

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局を受信する（130ページ）。
FC2（MENU／RETURN）	番組情報の受信時は、文字放送メニューを表示する。 独立情報の文字放送メニュー時は、一つ前のメニューに戻る。
FC3（−）	ページを戻す。文字放送メニュー時は、メニュー項目を選ぶときに押す。
FC4（＋）	ページを送る。文字放送メニュー時は、メニュー項目を選ぶときに押す。
FC5（PAUSE／ENTER）	ページの自動送りを一時停止する。もう一度押すと、自動送りを再開する。 文字放送メニュー時は、選んだメニュー項目を決定するときに押す。
FM DATA	押すと、FMラジオ受信状態に戻る。
MENU	各種設定をするメニューを表示する（173、260ページ）。
REC	FMラジオ放送の録音状態になる。

FM文字放送を保存する PC

PCモードでは大切な情報を保存しておいて、あとで見ることができます。
番組単位で番組情報または独立情報を保存できます。
保存した情報は、呼び出して見ることができます。

1 **FM文字放送を受信し、保存したい番組を表示させる。**
文字情報の表示のしかたは、「「Media Bar」ソフトウェアを使って見る」（137ページ）をご覧ください。

2 保存したい番組ウィンドウの［データ保存］をクリックする。

そのウィンドウに表示されていたページが保存され、「保存データ」画面で表示されます。

番組情報（ライブ）を保存する場合は、最新のものからさかのぼって10ページまで保存します。

独立情報を保存する場合は、現在受信しているページを番組ごと保存します。

ちょっと一言

データは100件まで保存できます。

保存した情報を呼び出すには

1 「表示」メニューから［保存データの表示］を選ぶ。

「保存データ」画面が表示されます。

2 履歴リストから見たい情報を選ぶ。

保存した情報が表示されます。

ご注意

FM文字放送番組の文字の中には、Windows 2000では表示できないものが含まれている場合があります。このような番組を保存したときは、正常に文字が表示されないことがあります。

よく見るFM文字放送番組を登録する（ブックマーク） PC

PCモードでは、FM文字放送番組を登録し、名前を付けることができます。名前を選ぶだけで、いつも見る文字放送番組を受信することができます。

ちょっと一言

文字放送番組は20件まで登録することができます。

1 よく見るFM文字放送番組を表示させる。

FM文字放送番組の表示のしかたについて詳しくは、「「Media Bar」ソフトウェアを使って見る」（137ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

2 **「FM Tuner」の［ブックマーク］メニューから［ブックマークの追加］をクリックする。**

「ブックマークの追加」画面が表示されます。

3 **名前を入力し、 OK をクリックする。**

表示しているFM文字放送番組がブックマークに追加されます。

登録したFM文字放送番組を見るには

「FM Tuner」の［ブックマーク］メニューから登録したFM文字放送番組の名前を選びます。

登録したFM文字放送番組の名前を変更する、順番を入れ換える、削除するには

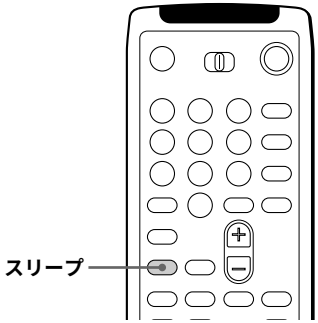
「FM Tuner」の［ブックマーク］メニューから［ブックマークの編集］をクリックし、「ブックマークの編集」画面で行います。詳しくは、「FM Tuner」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- FM放送局の番組改編で登録した文字放送番組自体がなくなっている場合は、文字放送番組は表示されません。また、番組名が変わった場合は、そのまま表示されます。
- 複数のウィンドウを表示しているときは、登録したいFM文字放送番組が表示されているウィンドウの［ブックマーク］メニューから、［ブックマークの追加］をクリックしてください。

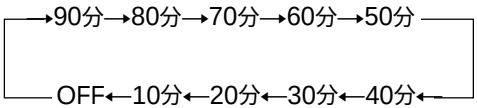
音楽を聞きながら眠る（スリープタイマー）

音楽CDやMD、FMラジオを聞きながら床につき、指定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。



オーディオモードで音楽CDやMDを再生中または、FMラジオを聞いているときに、オーディオ／DVD用リモコンのスリープボタンを押す。

押すたびに時間が下図のように表示窓に表示され、しばらくすると元の表示に戻ります。表示された時間がたつと、本機の電源が切れます。時間は10分単位で設定できます。



残り時間を確認するには

スリープボタンを1回押します。

途中で時間を変えるには

スリープボタンを押して、時間を選び直します。

スリープタイマーを解除するには

スリープボタンをくり返し押して、「OFF」を表示させます。

前面パネルのボタンを使ってスリープタイマーを設定することもできます

本機前面パネルのMENUボタンを押し、「MENU1」を表示させ、FC3（SLEEP）ボタンを押して時間を設定します。

ご注意

MDに録音中はスリープタイマーは動作しません。

目覚ましとして使う（デイリータイマー）PC

毎日指定した時刻に自動的に本機の電源が入り、音楽CDやMD、FMラジオを聞いて、指定の時刻に切れるように設定できます。
設定は、Windows 2000を起動して「MX Stage」で行いますが、デイリータイマーは本機の電源が切れている状態、システムアイドルモード（200ページ）、休止状態（200ページ）のいずれかのときで、タイマーがオンのときのみ有効です。

PCV-MX3GKをお使いのかたへ

タイマーの予約が重なったときは、本機では「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマーが優先されます。デイリータイマーは、「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマー設定状況によっては正しく動作しないことがありますのでご注意ください。

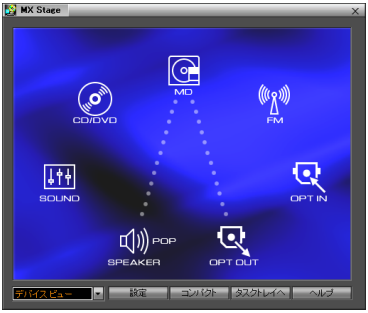
1 本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。

2 音楽CDまたはMDを聞いて目覚める場合は、音楽CDまたはMDをDVD-ROMドライブやMDドライブに入れる。
ディスクやMDの入れかたについて詳しくは、85ページの手順4や100ページの手順3をご覧ください。

ご注意

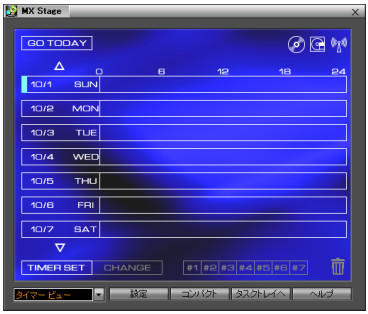
DVDビデオなど、音楽CDやMD以外のディスクを入れた場合は、本機は正しく動作しません。

3 デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。
「MX Stage」が表示されます。



4 画面左下の デバイス ビュー をクリックして、「タイマービュー」を選ぶ。

「タイマービュー」が表示されます。

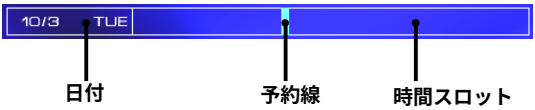


5 △ / ▽（カレンダースクロールボタン）を使ってカレンダーをスクロールし、予約したい日の日付を表示する。

毎日または毎週同じ時刻にタイマーを設定したい場合は、適当な日付を表示させます。

6 タイマーで再生したいデバイス（音楽CD、MD、FMラジオのいずれか）のアイコンを予約したい日付の時間スロットにドラッグアンドドロップする。

時間スロットに、30分の長さの予約線が表示されます。



ちょっと一言

予約は7つまで設定できます。#1 ～ #7 の予約番号にそれぞれ設定した予約が対応しています。予約が設定されている番号は初期設定では白色で表示されます。

7 予約線の位置と長さを調整し、タイマー開始／終了時刻、予約時間を設定する。

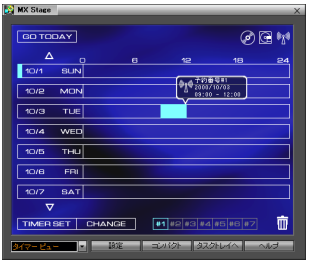
予約線の中央をドラッグして、移動させたい日付の時間スロット上にドロップして予約線を移動します。

ちょっと一言

予約線の幅がせまくてドラッグできないときは、いったん予約線の幅を広げてからドラッグしてください。

次のページにつづく

カーソルが ⇔ になったときは予約線の端を左右にドラッグして、予約線の長さを調整します。



ご注意

希望の時刻に本機が起動して音楽CDやMDの再生が始まったり、FMラジオを受信できるように、タイマー開始時刻は希望の時刻の約2分前に設定してください。

8 毎日または毎週、同じ時刻にタイマーを設定するときは、タイマー時刻と時間を設定したあと、予約線をダブルクリックする。

「タイマー予約設定」画面が表示されます。

9 予約パターンを選び、OK をクリックする。

「毎日」または「毎週」を選びます。

「毎週」を選んだときは予約したい曜日もチェックしてください。

ちょっと一言

「タイマー予約設定」画面では、予約日時や予約時間を変更することもできます。また、メモを記入したり、タイマー実行時の再生ボリュームを指定することもできます。他にも、タイマー設定するデバイスによって、再生モードや再生を開始する曲などの指定、FM放送局指定などの詳細な事項をここで設定することができます。詳しくは、「MX Stage」のヘルプをご覧ください。

10 タスクトレイへ **をクリックして「MX Stage」をタスクトレイへ収納する。**

これでタイマー設定は完了です。

本機の電源が切れているとき、または休止状態のとき、設定した時刻にタイマーが起動して音楽CDやMDの再生、FMラジオの受信が始まります。

音量を調節するには

タイマーを設定して音楽CDやMD、FMラジオを聞いて目覚めたり、FMラジオをMDに録音する場合、音量はオーディオモードで調節したものになります。タイマーの音量を調節するときは、以下の手順に従って操作してください。

1 タイマー設定をしたあと、本機の電源を切るか、本機をスタンバイモードか休止状態にする。

本機前面の表示窓に が表示されます。

2 本機前面のFC6ボタンを押す。

タイマーが解除されます。

3 本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押す。

オーディオモードで本機の電源が入ります。

4 VOLUMEつまみを回してタイマー起動時の音量を調節する。

5 本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押す。

本機の電源が切れ、タイマーが設定されます。

タイマー起動時に、手順4で調節した音量で音楽CDやMDの再生またはFMラジオが始まります。

次のページにつづく

タイマー設定を変更するには

現在選択されているタイマー設定を変更するには、以下のいずれかの操作を行い、「タイマー予約設定」画面を表示させて変更します。

- 変更したい予約線を CHANGE にドラッグアンドドロップする。
- 変更したい予約線をクリックして選び、CHANGE をクリックする。
- 変更したい予約線を右クリックして表示されるメニューから［予約変更］をクリックする。

タイマー設定を解除するには

解除したいタイマー設定の予約線をクリックしてから、以下のいずれかの操作をします。

- キーボードの Delete（デリート）キーを押す。
- （ごみ箱ボタン）上に予約線をドラッグアンドドロップする。
- （ごみ箱ボタン）をクリックする。

予約線を右クリックして表示されるメニューから「取り消し」を選んでもタイマーを解除できます。

ご注意

- タイマー設定の時刻に本機がPCモードまたはオーディオモードで起動している場合や電源を切った状態でもタイマーがオフの場合は、タイマーは働きません。
- タイマーが設定されている状態でPCモードまたはオーディオモードから本機の電源を切るか、PCモードからスタンバイモードまたは休止状態に入ると、自動的にタイマーがオンの状態になります。
- FMラジオ受信のタイマーを設定したあと、FM放送のプリセット局の設定を変更するとタイマーが正しく動作しないことがあります。
- タイマーがオンの状態で本機の電源が切られているときは、オーディオモードで本機の電源を入れることはできません。（表示窓には と表示されています。）この場合は、前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマーをオフにしてから、オーディオモードで本機の電源を入れてください。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能は正常に動作しません。この場合は、いったん本機の電源をPCモードで入れてください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。

FMラジオをMDへタイマー録音する

PC

指定した時刻に自動的に本機の電源が入り、FMラジオのプリセット局をMDに録音して、指定の時刻に切れるように設定できます。
設定は、Windows 2000を起動して「MX Stage」で行いますが、タイマーは本機の電源が切れている状態、システムアイドルモード（200ページ）、休止状態（200ページ）のいずれかのときで、タイマーがオンのときのみ有効です。

PCV-MX3GKをお使いのかたへ

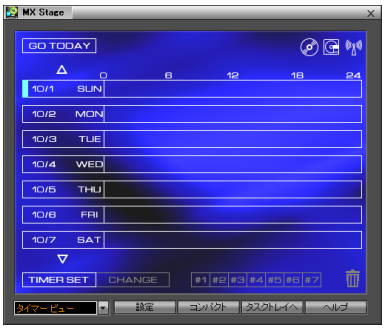
タイマーの予約が重なったときは、本機では「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマーが優先されます。タイマー録音は、「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマー設定状況によっては正しく動作しないことがありますのでご注意ください。

1 **本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。**

2 **録音用のMDをMDドライブに入れる。**
MDの入れかたについて詳しくは100ページの手順3をご覧ください。

3 **デスクトップ画面右下の** **をダブルクリックする。**
「MX Stage」が表示されます。

4 **画面左下の** **をクリックして、「タイマービュー」を選ぶ。**
「タイマービュー」が表示されます。

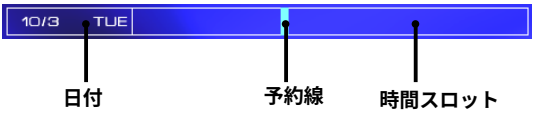


5 **△ / ▽（カレンダースクロールボタン）を使ってカレンダーをスクロールし、予約したい日付を表示する。**
毎日または毎週同じ時刻にタイマーを設定したい場合は、適当な日付を表示させます。

次のページにつづく

6 (FM) を予約したい日付の時間スロットにドラッグアンドドロップする。

時間スロットに、30分の長さの予約線が表示されます。



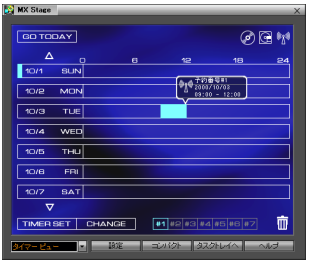
7 予約線の位置と長さを調整し、タイマー開始／終了時刻、予約時間を設定する。

予約線の中央をドラッグして、移動させたい日付の位置にドロップして予約線を移動します。

ちょっと一言

予約線の幅がせまくてドラッグできないときは、いったん予約線の幅を広げてからドラッグしてください。

カーソルが ◀▶ になったときは予約線の端をドラッグして、予約線の長さを調整します。



ご注意

録音済みのトラックが多いMDを使って録音するときは、希望の時刻に本機が起動してFMラジオからMDへの録音が開始できるように、タイマー開始時刻は希望の時刻の約2分前に設定してください。

8 予約線をダブルクリックする。

「タイマー予約設定」画面が表示されます。

9 予約パターンと録音したいプリセット局を選び、［MDへ録音する］をクリックしてチェックをつけ、 OK をクリックする。

予約パターンは、「1回」、「毎日」、「毎週」のいずれかを選びます。「毎週」を選んだときは予約したい曜日もチェックしてください。

ちょっと一言

「タイマー予約設定」画面では、予約日時や予約時間を変更することもできます。また、メモを記入したり、タイマー実行時のボリュームを指定することもできます。詳しくは、「MX Stage」のヘルプをご覧ください。

10 タスクトレイへ をクリックして「MX Stage」をタスクトレイへ収納する。

これでタイマー設定は完了です。

本機の電源が切れているとき、スタンバイモード、休止状態のいずれかのとき、設定した時刻にタイマーが起動してFMラジオのMDへの録音が始まります。

音量を調節するには

147ページをご覧ください。

タイマー設定を変更するには

現在選択されているタイマー設定を変更するには、以下のいずれかの操作を行い、「タイマー予約設定」画面を表示させて変更します。

- 変更したい予約線を CHANGE にドラッグアンドドロップする。
- 変更したい予約線をクリックして選び、 CHANGE をクリックする。
- 変更したい予約線を右クリックして表示されるメニューから［予約変更］をクリックする。

次のページにつづく

タイマー設定を解除するには

解除したいタイマー設定の予約線をクリックしてから、以下のいずれかの操作をします。

- キーボードの Delete（デリート）キーを押す。
- （ごみ箱ボタン）上に予約線をドラッグアンドドロップする。
- （ごみ箱ボタン）をクリックする。

予約線を右クリックして表示されるメニューから「取り消し」を選んでもタイマーを解除できます。

ご注意

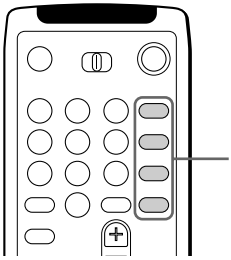
- タイマー設定の時刻に本機がPCモードまたはオーディオモードで起動している場合や電源を切った状態でもタイマーがオフの場合は、タイマーは働きません。
- マニュアル選局したFM放送局をタイマー録音することはできません。
- タイマーが設定されている状態でPCモードまたはオーディオモードから本機の電源を切るか、PCモードからスタンバイモードまたは休止状態に入ると、自動的にタイマーがオンの状態になります。
- タイマーを設定したあと、FM放送のプリセット局の設定を変更するとタイマーが正しく動作しないことがあります。
- タイマーがオンの状態で本機の電源が切られているときは、オーディオモードで本機の電源を入れることはできません。（表示窓には と表示されています。）この場合は、前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマーをオフにしてから、オーディオモードで本機の電源を入れてください。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能は正常に動作しません。この場合は、いったん本機の電源をPCモードで入れてください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。

ちょっと一言

タイマー動作中に再生や録音を中断したいときもFC6（TIMER）ボタンを押すと、タイマーが解除されます。

PPK（プログラマブルパワーキー）とは

PPK（プログラマブルパワーキー）は、1回押すだけで目的のソフトウェアを起動できる便利なキーです。電源ボタンの機能も兼ね備えていますので、本機の電源が切られている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。



本機に付属のオーディオ／DVD用リモコンには4つのPPKがあり、それぞれのボタンに1つずつソフトウェアが初期設定で割り当てられています。
初期設定で割り当てられているソフトウェアについては、「ワンタッチでソフトウェアを起動する」（154ページ）をご覧ください。
また、これらの割り当てられたソフトウェアは、「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使ってよく使うソフトウェアなどへ変更することもできます。
割り当てられたソフトウェアを変更する方法については、「プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる」（154ページ）をご覧ください。

ご注意

- 以下の場合はPPKの機能は使えません。
  ーディスプレイの電源が切れているとき（ディスプレイの電源ランプが消灯）
  ーディスプレイが省電力モードに入っているとき（ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯）
  PPKを使ってソフトウェアを起動するときは、キーボード上のいずれかのキーを押して本機を通常の動作モードに戻してから操作を行ってください。ディスプレイの電源が切れているときは、ディスプレイの電源を入れてください。
- PPKの機能を使うときは、本機の電源が入ったあとに表示される「Windowsのログオン」画面でユーザー名とパスワードを入れなくてもWindows 2000が起動する設定にしておく必要があります。詳しくは、「ユーザー制限の設定を変更する」（204ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

キーボードのショートカットキーでもソフトウェアを起動することができます。詳しくは「キーボードを使う」の「キーボードショートカット」（55ページ）をご覧ください。

ワンタッチでソフトウェアを起動する

付属のオーディオ／DVD用リモコンの各プログラマブルパワーキーに割り当てられたソフトウェアをワンタッチで起動できます。各ボタンには、初期設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

ボタン名	割り当てられたソフトウェア
P1	「Outlook Express」ソフトウェア（電子メール）
P2	「Internet Explorer」ソフトウェア（インターネット）
P3	「MX Stage」ソフトウェア（オーディオ機能）
P4	「PicturGear」ソフトウェア

目的に合わせて、P1～P4ボタンのいずれかを押す。

ボタンに割り当てられたソフトウェアが起動します。

ご注意

- P1およびP2ボタンを使うには、インターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。
- PPKの機能を使うときは、本機の電源が入ったあとに表示される「Windowsのログオン」画面でユーザー名とパスワードを入れなくてもWindows 2000が起動する設定にしておく必要があります。詳しくは、「ユーザー制限の設定を変更する」（204ページ）をご覧ください。

各ボタンに割り当てられたソフトウェアは「VAIO Action Setup」ソフトウェアで変更することができます

手順について詳しくは、下記の「プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる」をご覧ください。

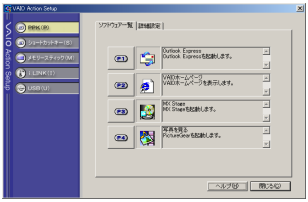
プログラマブルパワーキーに好みのソフトウェアを割り当てる PC

ここでは、プログラマブルパワーキーに初期設定で割り当てられたソフトウェアを、付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、好みのソフトウェアが起動するように変更する方法を説明します。

ここでは、P4ボタンを押すと「オンラインマニュアル」（この取扱説明書の内容）が起動するようにしてみます。

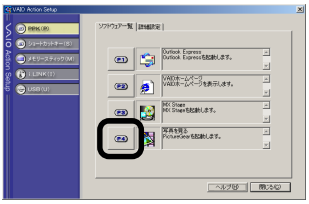
1 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**

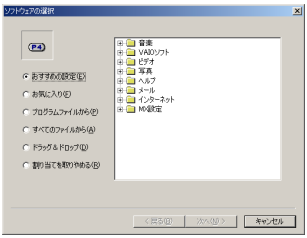
プログラマブルパワーキー（PPK）の「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。



2 **F4 をクリックする。**

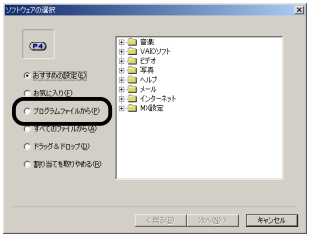
「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

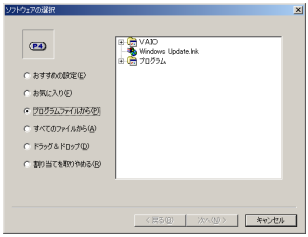




3 **［プログラムファイルから］をクリックする。**

本機に付属しているソフトウェアなどのリストが右側に表示されます。

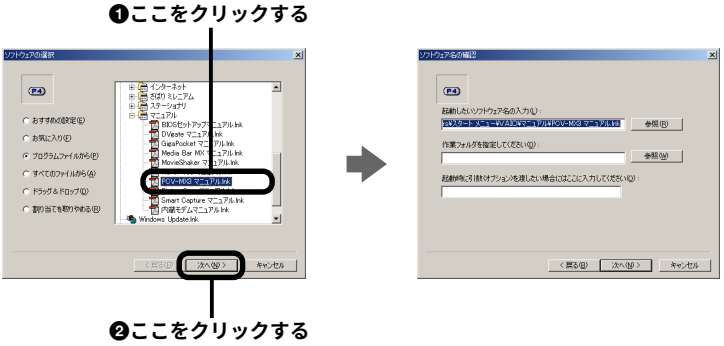




次のページにつづく

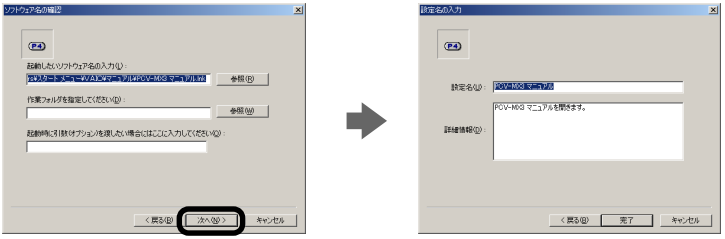
4 [VAIO]、[マニュアル]の順にダブルクリックし、[PCV-MX3 マニュアル.lnk]をクリックしてから 次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。



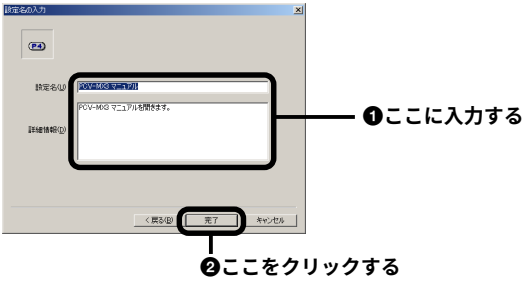
5 次へ(N) > をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。



6 「設定名」と「詳細情報」を入力してから 完了(F) をクリックする。

これで設定は完了です。オーディオ／DVD用リモコンのP4ボタンを押すと「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し「オンラインマニュアル」が表示されます。



「VAIO Action Setup」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

P1～P3ボタンでの設定割り当てについて

P1～P3ボタンに別のソフトウェアを割り当てる場合には、155ページの手順2で「P1」、「P2」または「P3」のいずれかのボタンをクリックして設定してください。

テレビ番組やビデオを録画／再生する

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組やビデオを録画したり、再生できます。

テレビ番組やビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画するとき

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組、ビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画できます。録画しながら過去にさかのぼって再生したり、別の録画済みの動画を再生できます。
以下の流れに沿って録画します。

アンテナやビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーを本機に接続する

アンテナの接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。
ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの接続について詳しくは、「ビデオ機器をつなぐ」（209ページ）をご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Giga Pocket」を使って録画します。
「Giga Pocket」の使いかたについて詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

電源が切れた状態から予約録画するには

ユーザー名やパスワードを入れなくてもWindows 2000が起動する設定にしておく必要があります。詳しくは、「ユーザー制限の設定を変更する」（204ページ）をご覧ください。

録画した動画を再生するとき

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、録画した動画を最初から再生したり、指定した区間を連続して再生することができます。再生のしかたについて詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

ちょっと一言

本機をネットワークに接続すると、ネットワークに接続されている他のコンピュータから、「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能を利用して、録画を予約したり、録画済みの動画を再生したりできます。「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能について詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- PCV-MX3GKは、マクロビジョン社やその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョン社の許諾が必要であり、マクロビジョン社が特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってインターネットから取り込んだ予約データの間違いなどにより損害が生じた場合には、当社の保証対象外となりますのでご注意ください。
- 本機のアンテナ入力またはアナログ入力コネクタから動画を取り込むとき、動画にノイズが出たり、一時途切れたり、取り込みに失敗することがあります。
  これらの現象は、以下のように映像の同期信号が乱れた場合に起こります。
  ー取り込む動画が乱れたとき、または本機に何も入力されていないとき
  ー本機後面のVIDEO 1 INPUTコネクタにつないだケーブルをつなぎかえたとき
  ーテレビ番組を入力中にテレビ局の放送信号が何らかの原因で乱れたとき
  ー入力中のテレビ番組の電波が弱いとき、ノイズが入ったとき、または放送が行われてないとき
  ー外部のビデオデッキから映像入力中に、ビデオデッキのチャンネルや入力を切り換えたとき
  ー外部のビデオデッキや、ビデオカメラレコーダーから映像入力中に、ビデオテープのつなぎ撮りをした部分を再生したとき
  ービデオカメラレコーダーで録画中に振動やゆれを加えて撮ったテープを再生したとき
  ー本機へ映像入力中に再生側のビデオデッキやビデオカメラレコーダーに振動やゆれが加わったとき
- オーディオモードで本機の電源が入っているとき（デイリータイマーとタイマー録音時を除く）は、「Giga Pocket」ソフトウェアの予約録画は実行されません。この場合、本機前面の表示窓に、本機をPCモードで起動するように促すメッセージが表示されます。

Giga Pocket用リモコンを使って「Giga Pocket」ソフトウェアを操作するには

付属のGiga Pocket用リモコンを使って、「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できます。テレビのチャンネルをかえたり、Giga Pocket用リモコンでビデオカプセルを選択して再生できます。

Giga Pocket用リモコンを使っての「Giga Pocket」ソフトウェアの操作について詳しくは、「Giga Pocket用リモコンボタンのモード別機能一覧」（35ページ）および別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

ビデオカプセルとは

「Giga Pocket」ソフトウェアで録画した動画を入れる入れ物のようなものです。動画を記録するためのMPEGファイルと各種の付加情報が結合した、ソニー独自のファイル形式です。

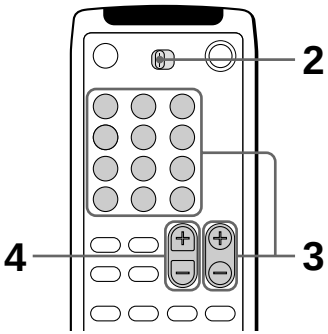
テレビを操作する

付属のGiga Pocket用リモコンを使って、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200やテレビを操作することができます。

ちょっと一言

お買い上げ時の設定では、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200でテレビを見るための操作ができるように設定されています。
Giga Pocket用リモコンで他社のテレビを操作できるように設定することもできます。詳しくは、「Giga Pocket用リモコンで各社のテレビを操作するには」（38ページ）をご覧ください。

テレビを見るには



1 テレビの主電源を入れる。

2 Giga Pocket用リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「テレビ」に切り換える。

3 チャンネル数字ボタンまたはチャンネルボタンを押して、チャンネルを選ぶ。

選んだチャンネルの放送がテレビに映ります。

4 音量ボタンを押して、音量を調節する。

テレビを消すには

Giga Pocket用リモコンの電源／スタンバイボタンを押します。

音を一時的に消すには

Giga Pocket用リモコンの消音ボタンを押します。もう1度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。

入力を切り換えるには

Giga Pocket用リモコンの入力切換ボタンを押します。外部入力された映像に切り換わります。

音声を切り換えるには

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選択することができます。Giga Pocket用リモコンの音声切換ボタンを押すごとに、音声が以下のように切り換わります。

項目	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主音声	主音声	主音声
副音声	副音声	副音声
主＋副音声	主音声	副音声

ご注意

テレビによっては一部のボタンが使えないことがあります。

動画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から動画を取り込み、動画を加工／編集したり、電子メールに添付して送ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の動画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から動画を取り込む
- 動画を加工／編集する
- 動画を電子メールで送る

ちょっと一言

本機を使って、i. LINK対応機器から動画を取り込むには別売りの i. LINKケーブルが必要です。詳しくは「必要な i. LINKケーブル」（219ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

付属の「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込めます。
以下の流れに沿って動画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（214ページ）をご覧ください。

「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。
各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「DVgate」取扱説明書または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

次のページにつづく

ご注意

- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って動画を取り込むときは、他のすべてのソフトウェアをあらかじめ終了してください。
- ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む動画に影響はありません。
  ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（185ページ）をご覧ください。
- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って取り込む動画データは容量が大きいので、本機では、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれており（お買い上げ時）、動画を扱うためのデータのスペースとしてD:ドライブが確保されています。お使いになる状況によって、D:ドライブに割り当てられている容量を変えることができます。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」（274ページ）をご覧ください。

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

ちょっと一言

インターネット上のサービス「ImageStation」を利用すれば、「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ動画を「ImageStation」に置いて保管したり、パスワードをつけて特定の人だけに公開することもできます。
詳しくは、「Smart Capture」のヘルプをご覧ください。なお、このサービスを利用するには、インターネットに接続していることが必要です。インターネットへの接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

動画を加工／編集する

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に取り込んで加工／編集することができます。不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげるといった加工をするときは付属の「DVgate Assemble」ソフトウェアを使います。また、付属の「MovieShaker」ソフトウェアを使うと、動画と動画をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、テキスト文字の挿入などさまざまなビデオ編集ができます。加工／編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（214ページ）をご覧ください。

動画を取り込む

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（161ページ）をご覧ください。

動画の簡単な加工をする

「DVgate Assemble」ソフトウェアを使って動画を加工します。
「DVgate Assemble」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「DVgate」取扱説明書をご覧ください。

動画を編集する

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画を編集します。
「MovieShaker」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「MovieShaker」取扱説明書をご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（161ページ）をご覧ください。

動画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

静止画で楽しむ PC

本機にi.LINK対応機器から静止画を取り込み、静止画を電子メールに添付して送ったり、パノラマ画像や写真入りのラベルを作ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の静止画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から静止画を取り込む
- 静止画を電子メールで送る
- パノラマ画像を作る
- 写真入りのラベルを作る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から静止画を取り込むには別売りの i. LINKケーブルが必要です。詳しくは「必要な i. LINKケーブル」（219ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

付属の「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。以下の流れに沿って静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（214ページ）をご覧ください。

「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。
各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「DVgate」取扱説明書または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

次のページにつづく

ご注意

ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（185ページ）をご覧ください。

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

ちょっと一言

- 付属の「PictureToy」ソフトウェアを使って、取り込んだ静止画の上に重ねてお絵描きをすることができます。詳しくは、「PictureToy」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- インターネット上のサービス「ImageStation」を利用すれば、「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ静止画を「ImageStation」に置いて保管したり、パスワードをつけて特定の人だけに公開することもできます。
  詳しくは、「Smart Capture」のヘルプをご覧ください。なお、このサービスを利用するには、インターネットに接続していることが必要です。インターネットへの接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（165ページ）をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。

「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

ちょっと一言

付属の「PictureToy」ソフトウェアを使ってお絵描きした静止画は「PictureToy」ソフトウェアから電子メールに添付して送れます。
詳しくは、「PictureToy」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機に取り込んだ静止画を何枚かつなげて、パノラマ画像を作ることができます。パノラマ画像を作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

パノラマ画像の作成に必要な静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、パノラマ画像作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（165ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」を使ってパノラマ画像を作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「PictureGear」取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

写真入りのラベルを作る

本機に取り込んだ静止画を使ったラベルを作成し、印刷してMDのケースなどに貼ることができます。写真入りのラベルを作るには、付属の「PictureGear」を使い、以下の流れに沿って行います。

ラベルに入れる静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、ラベル作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（165ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」を使って静止画や文字をレイアウトして、写真入りのラベルを作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「PictureGear」取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

セットアップ編

音声・映像の設定を変更する 170
Windowsの設定を変更する 184

音質の設定を変更する

音楽にあった音を選ぶ（プリセットイコライザ）PC Audio

4種類のプリセットイコライザを、音楽や状況に合わせて選べます。

PCモードでは

1 **本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。**

2 **音楽CDなどを再生中に、デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

3 **画面左下の デバイスビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

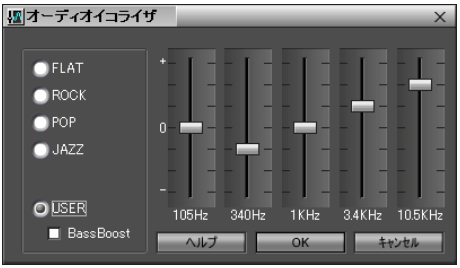
「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の (SPEAKER) または (SOUND) を右クリックし、表示されるメニューから［オーディオイコライザ］をクリックする。**

ちょっと一言

スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックして、さらに［オーディオイコライザ］をダブルクリックして「オーディオイコライザ」画面を表示することもできます。

「オーディオイコライザ」画面が表示されます。



ご注意

- ドルビーヘッドホン方式でDVDビデオを再生中は、「オーディオイコライザ」画面を表示させることはできません。
- 本機がスタンバイモードまたは休止状態に入ったときは、「オーディオイコライザ」画面は設定した音質を保持して自動的に閉じます。

5 音楽に合ったプリセットイコライザをクリックして選ぶ。

FLAT： イコライザを設定しないときに選びます。

ROCK：ロックに適した設定にします。パワフルでクリアな音を再現したいときに選びます。

POP（お買い上げ時の設定）：
ポップスに適した設定にします。明るくて軽快な音を再現したいときに選びます。

JAZZ： ジャズ音楽に適した設定にします。パーカッションなどの音を再現したいときに選びます。

USER：お好みの音質に調整できます。設定のしかたについては、下記の「お好みの音質に調整するには（USER）」をご覧ください。

– BassBoost：現在の音質よりさらに低音を強調します。

ちょっと一言

オーディオ／DVD用リモコンのイコライザボタンをくり返し押しても、プリセットイコライザを選ぶことができます。

ご注意

ドルビーヘッドホン方式でDVDビデオを再生中は、自動的に「FLAT」の設定になりイコライザボタンを押しても設定は変更されません。

6 OK をクリックする。

プリセットイコライザの効果を消すには

「オーディオイコライザ」画面で［FLAT］をクリックし、OK をクリックします。

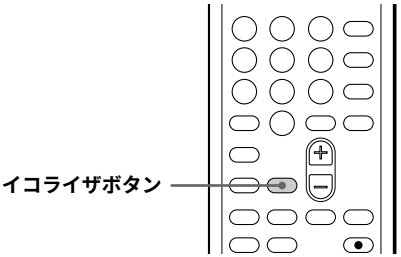
お好みの音質に調整するには（USER）

上記の手順5で「USER」をクリックして選び、画面右側のスライダを上下に動かして各周波数帯域のゲインを調整し、OK をクリックします。「USER」に、調整した音声が保存されます。また、［BassBoost］をクリックすると、さらに低音を強調できます。

次のページにつづく

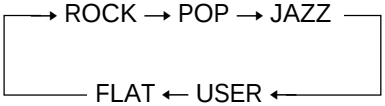
オーディオモードでは

オーディオ／DVD用リモコンで操作するには



オーディオモードで音楽CDなどを再生中にオーディオ／DVD用リモコンのイコライザボタンを押す。

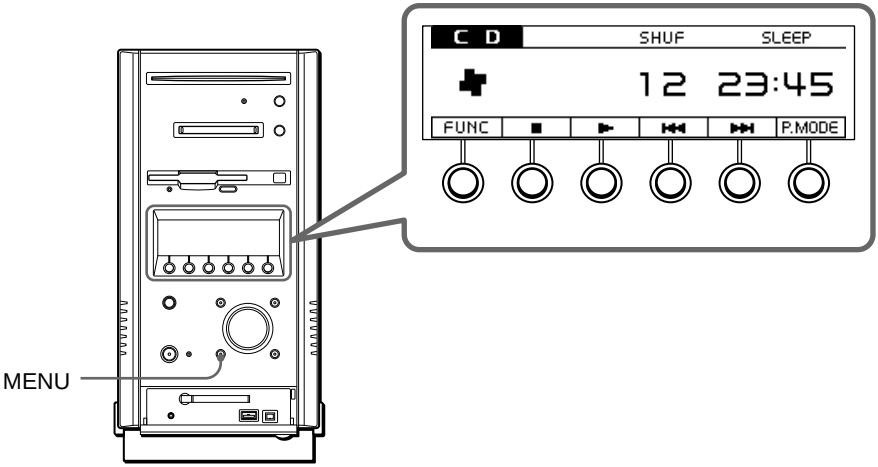
押すたびに、表示窓に表示されるプリセットイコライザ名が次のように変わります。



プリセットイコライザの効果を消すには

イコライザボタンをくり返し押して、表示窓に「FLAT」を表示させる。

前面パネルのボタンで操作するには

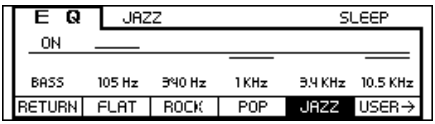


1 オーディオモードで音楽CDなどを再生中に、前面パネルのMENUボタンを押す。

表示窓に「MENU1」画面が表示されます。

2 FC2（EQ）ボタンを押す。

表示窓に「EQ」画面が表示されます。



3 音楽に合ったプリセットイコライザをFC2（FLAT）～FC6（USER →）ボタンを押して選ぶ。

選んだプリセットイコライザが反転表示されます。

表示窓の表示を元に戻すには、FC1（RETURN）ボタンを押してから、もう一度FC1（EXIT）ボタンを押します。

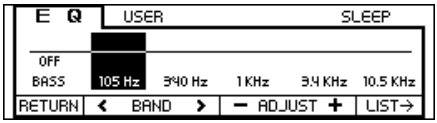
プリセットイコライザの効果を消すには

「EQ」画面でFC2（FLAT）ボタンを押します。

お好みの音質に調整するには（USER）

前ページの手順3でFC6（USER →）ボタンを押します。

下のような画面が表示されます。



FC2（BAND <）またはFC3（BAND >）ボタンを押して調整する周波数帯域を選び、FC4（ADJUST－）またはFC5（ADJUST＋）ボタンを押してゲインを調整します。

BASSを選ぶと、FC4（ADJUST－）またはFC5（ADJUST＋）ボタンを押してBassBoostを入／切できます。

ちょっと一言

- お買い上げ時は「POP」に設定されています。
- イコライザの効果は、MDには録音されません。本機のOPTICAL OUTとLINE OUTコネクタからも出力されません。
- オーディオモード時にオーディオ／DVD用リモコンで「USER」を選ぶと、PCモードまたは上記で設定した音質が反映されます。オーディオ／DVD用リモコンでは「USER」の周波数帯域ゲイン調整はできません。

音楽データやゲームの音質を変更する PC

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 (ヤマハ AC-XG) をダブルクリックする。

「ヤマハ AC-XG」画面が表示されます。

3 お好みのサウンド設定をクリックして選ぶ。

画面を選ぶときは、ここをクリックします。

各画面の設定項目は、以下のとおりです。

概要

バージョンなどの情報が表示される。

シンセ

❑ **シンセサイザーエフェクト**

各種エフェクト効果を入／切する。

リバーブ: ☐ をクリックして ☑ にすると、残響効果が加わる。

コーラス: ☐ をクリックして ☑ にすると、奥行きや厚みといった音響効果が加わる。

バリエーション: ☐ をクリックして ☑ にすると、さまざまな音響効果が加わる。

❑ **発音品質**

ソフトシンセサイザーの音質を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

❑ **[初期値]**: 各種エフェクトやソフトシンセサイザーの音質を初期値に戻す。

エコー

❑ **マイクエコー**

有効：☐ をクリックして ☑ にすると、マイク入力に残響効果が加わる。スライダを左右に動かして遅延時間、帰還ゲインを調整する。

ご注意

マイクエコーが有効になっているときは、録音はできません。

❑ **[初期値]**: マイク入力の残響効果を初期値に戻す。

デジタル出力

❑ **デジタル出力**

デジタル出力のオン／オフを、○ をクリックして ◉ にして選ぶ。

ご注意

オン（デジタルソースのみ）にすると、CD、MD、FMおよびテレビの音声は聞こえなくなります。オフにするとすべての音声が聞こえなくなります。

❑ **[初期値]**: デジタル出力のオン／オフを初期値に戻す。

4 設定が終了したら、[OK] をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

DVDの設定を変更する PC

デジタル出力を切り換える

本機のOPTICAL OUTコネクタとHEADPHONESコネクタから出力する音声信号の方式を切り換えます。

- PCM
  ドルビーデジタル（AC-3）に対応していない機器（アンプなど）を本機につなぐときは「PCM」に設定します。この設定のときは、ドルビーデジタル（AC-3）方式で記録されているDVDを再生すると、音声が2チャンネルにダウンミックスされて出力されます。
- **ドルビーデジタル**
  ドルビーデジタル（AC-3）に対応している機器を本機につなぐときは「ドルビーデジタル」に設定します。この設定のときは、ドルビーデジタル（AC-3）方式で記録されているDVDを再生すると、ドルビーデジタル（AC-3）方式で音声が出力されます。
  Linear PCM方式で記録されているDVDを再生すると、PCM方式で音声が出力されます。
  音楽CDを再生したり、WAVファイルやMIDIファイルを再生すると、音声はPCM方式で出力されます。
- **ドルビーヘッドホン**
  ヘッドホンを本機につないでドルビーヘッドホン方式で音声を出力したいときは「ドルビーヘッドホン」に設定します。この設定のときは、ドルビーデジタル方式（AC-3）で記録されているDVDを再生すると、通常のヘッドホンでも仮想的にドルビーデジタル音声を楽しむことができます。
  ヘッドホンのつなぎかたについて詳しくは、「ヘッドホンをつなぐ」（213ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

ドルビーデジタル（AC-3）方式で音声が出力されている間はスピーカー、ヘッドホンおよびLINE OUTコネクタの出力はオフになりますが、ノイズなどの雑音が出ることがあります。この場合は、オーディオ／DVD用リモコンの消音ボタンを押して音声を消してください。

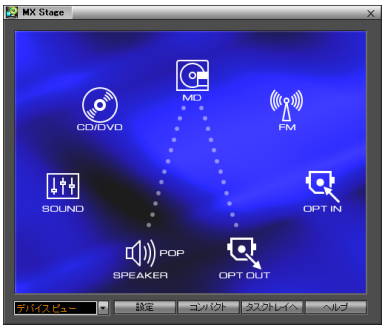
ドルビーデジタル（AC-3）に対応していない機器をつなぐときは、デジタル出力をPCMにしてください。設定を誤ると、DVDビデオなどを再生するときに、突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーが破損したりすることがあります。

1 本機がPCモードになっているかを確認する。（76ページ）

2 「Media Bar」ソフトウェアの「DVD Player」が起動していないことを確認する。

3 デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。



4 画面左下の をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

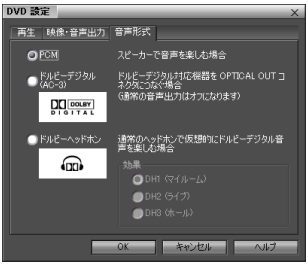
5 「MX Stage」の （CD／DVD）を右クリックし、［DVD設定］をクリックする。

「DVD設定」画面が表示されます。

次のページにつづく

6 **［音声形式］タブをクリックする。**

7 **音声信号の方式を切り換える。**



PCM**方式に設定するには：**

「PCM」をクリックします。

ドルビーデジタル方式に設定するには：

「ドルビーデジタル」をクリックします。

ドルビーヘッドホン方式に設定するには：

「ドルビーヘッドホン」をクリックし、「効果」の中からお好みのものを選びます。

「DH1（マイルーム）」、「DH2（ライブ）」、「DH3（ホール）」と選んでいくに従って、サラウンド効果が高まります。

8 OK **をクリックする。**

映像／音声出力を切り換える（PCV-MX3GKのみ）

PCV-MX3GKに、ディスプレイとテレビの両方を接続しているときは、DVDビデオの映像および音声をディスプレイまたはテレビのどちらに出力するか切り換えてください。以下の手順に従って操作し、「DVD設定」画面で、映像／音声の出力先を選びます。

1 **本機がPCモードになっているかを確認する。****（76ページ）**

2 **「Media Bar」ソフトウェアの「DVD Player」が起動していないことを確認する。**

3 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの** **をダブルクリックする。**

「MX Stage」が表示されます。

4 **画面左下の** デバイスビュー **をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**

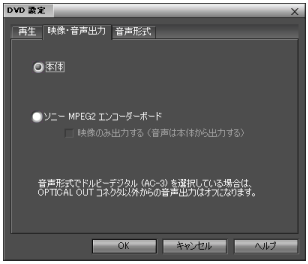
「デバイスビュー」が表示されます。

5 **「MX Stage」の（CD／DVD）を右クリックし、［DVD設定］をクリックする。**

「DVD設定」画面が表示されます。

6 **［映像・音声出力］タブをクリックする。**

7 **映像および音声の出力先を切り換える。**



ディスプレイにDVDビデオの映像を出力するには：

「本体」をクリックします。

テレビにDVDビデオの映像を出力するには：

「ソニー MPEG2 エンコーダーボード」をクリックします。

音声を本機につないだスピーカーから出力するときには、「映像のみ出力する（音声は本体から出力する）」の☐をクリックし、☑にしてください。

8 **OK をクリックする。**

年齢による視聴制限をする

DVDビデオの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。本機には、この視聴制限レベルを設定しておく機能があります。「MX Stage」から「DVD設定」画面を表示して、視聴年齢制限を設定します。

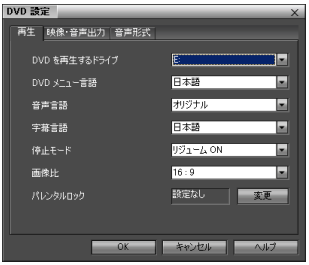
次のページにつづく

1 **本機がPCモードになっているかを確認する。（76ページ）**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。**
「MX Stage」が表示されます。

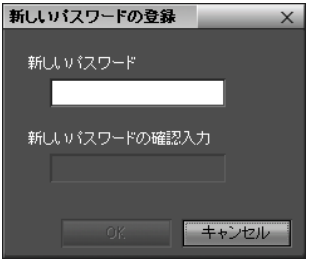
3 **画面左下の デバイスビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。**
「デバイスビュー」が表示されます。

4 **「MX Stage」の （CD／DVD）を右クリックし、［DVD設定］をクリックする。**
「DVD設定」画面が表示されます。



5 **［再生］タブをクリックする。**

6 **［パレンタルロック］の 変更 をクリックする。**
「新しいパスワードの登録」画面が表示されます。



7 **パスワードを入力し、 OK をクリックする。**
確認のため、上下の欄に同じパスワードを入力してください。
「パレンタルロック設定」画面が表示されます。

8 **視聴年齢制限のレベルと使用地域を ▼ をクリックして表示されるリストから選ぶ。**

9 閉じる **をクリックする。**

視聴制限レベルがロックされ、「DVD設定」画面に戻ります。

10 OK **をクリックする。**

ご注意

視聴年齢制限がないDVDビデオは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。

光デジタル出力を切り換える PC

本機の光デジタル出力を、本機のDVD-ROMドライブの音楽CD、MDドライブのMD、FMラジオの音声を直接出力するか、または本機のサウンドチップ・ミキサーの音源を出力するかを切り換えることができます。
「光デジタルサウンド切替」画面を使って、OPTICAL OUTコネクタからの出力と、SPEAKER、LINE OUT L／R、HEADPHONESコネクタからの出力を切り換えることができます。

- **「選択した入力音源を出力する」を選択した場合**
  本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD、MDドライブのMD、FMラジオの音声を直接デジタル出力します。
- **「サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する」を選択した場合**
  本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD、MDドライブのMD、FMラジオの音声、本機のハードディスクドライブ上の音声ファイル、本機の後面のLINE INコネクタに接続した機器からの音声、本機に接続したマイクからの音声などをミキシングしてデジタル出力します。

ご注意

切り換えができるのは本機のOPTICAL OUTコネクタからの出力のみです。本機に接続したMDデッキやCDプレーヤーなどの光デジタル出力を本機からの操作で切り換えることはできません。

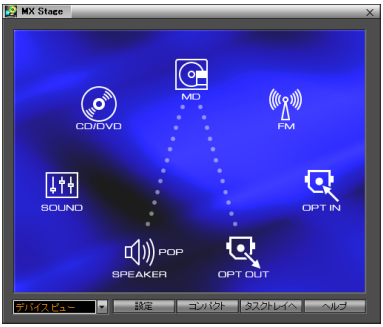
以下の手順に従って、光デジタル出力を切り換えます。

1 本機がPCモードになっているかを確認する（76ページ）。

次のページにつづく

2 デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックする。

「MX Stage」が表示されます。

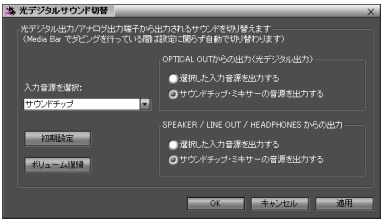


3 画面左下の デバイスビュー をクリックして、「デバイスビュー」を選ぶ。

「デバイスビュー」が表示されます。

4 「MX Stage」の (OPT OUT) をダブルクリックする。

「光デジタルサウンド切替」画面が表示されます。



5 「OPTICAL OUTからの出力 (光デジタル出力)」または「SPEAKER／LINE OUT／HEADPHONESからの出力」の中から「選択した音源を出力する」または「サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する」をクリックする。

「OPTICAL OUTからの出力 (光デジタル出力)」の中から選んだ場合はOPTICAL OUTコネクタからの出力が、「SPEAKER／LINE OUT／HEADPHONESからの出力」の中から選んだ場合はSPEAKER、LINE OUT L／R、HEADPHONESコネクタからの出力がそれぞれ切り換わります。

選択した入力音源を出力する：

本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD、MDドライブに入っているMDまたはFMラジオの音声を直接デジタル出力します。

サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する：
本機のDVD-ROMドライブの音楽CD、MDドライブのMDまたはFMラジオの音声、本機のハードディスクドライブ上の音声ファイル、本機後面のLINE INコネクタに接続した機器からの音声、本機に接続したマイクからの音声などをミキシングしてデジタル出力します。

6 手順5で「選択した入力音源を出力する」を選んだときは「入力音源を選択」の ▼ をクリックして表示されるリストから音源をクリックする。

音楽CD：本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CD
MD：本機のMDドライブに入っているMD
FM：FMラジオ
OPTICAL IN（**光デジタル入力**）：本機後面パネルのOPTICAL INコネクタにつないだ機器から入力した音声
サウンドチップ：本機のハードディスクにある音声ファイル

7 設定が終了したら、OK または 適用 をクリックする。

手順5および6で変更した設定がOPTICAL OUTコネクタまたはSPEAKER、LINE OUT、L／R、HEADPHONESコネクタからのデジタル出力に反映されます。

ちょっと一言

「Media Bar」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CDおよびハードディスクドライブにある音声ファイルを再生しているときは、上記の設定にかかわらず再生中の音源によって出力が自動的に切り換わります。

ご注意

- 「Media Bar」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブに入っている音楽CDおよびハードディスクドライブにある音声ファイルを再生しているときに自動切り換えされるのは、本機のOPTICAL OUTコネクタ出力のみです。「Media Bar」ソフトウェアでコントロールしているCDプレーヤーなどの外部機器については、光デジタル出力を自動的に切り換えることはできません。
- OPTICAL OUTコネクタ出力のサンプリング周波数は、手順4で「選択した入力音源を出力する」を選んだときは44.1kHz、「サウンドチップ・ミキサーの音源を出力する」を選んだときは48kHzです。
  OPTICAL OUTコネクタにMDデッキなどを接続してダビングを行う場合、接続した機器がこれらのサンプリング周波数に対応していないときは録音することができません。

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 2000のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 2000に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、デスクトップ画面左下の

をクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。

設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目の画面を表示させ、設定を変えます。

アイコン	できること
（キーボード）	キーボードの設定を変更できます。
（UI Design Selector）	ソニー製ソフトウェアのデザインを変更できます。（199ページ）
（ヤマハAC-XG）	音質の設定を変更できます。（174ページ）
（サウンドとマルチメディア）	Windows 2000の起動時や終了時の音、警告音などを変更できます。
（日付と時刻）	本機に登録してある日付や時刻を変更できます。
（画面）	解像度を変更したり、画面の背景、スクリーンセーバーを変更できます。（185ページ）
（ユーザーとパスワード）	本機を使えるユーザーを制限したり、ユーザー名やパスワードの設定を変更できます。（204ページ）

ディスプレイの設定を変更する PC

画面の背景、スクリーンセーバー、ウィンドウの枠の色、デスクトップ画面上のアイコンのデザイン、アクティブデスクトップ、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［Web］、［効果］、［設定］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

次のページにつづく

4 **設定が終了したら、** OK **または** 適用(A) **をクリックする。**

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景**（186**ページ**）

画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー**（187**ページ**）

スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

❑ **デザイン**（188**ページ**）

ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ Web（189**ページ**）

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

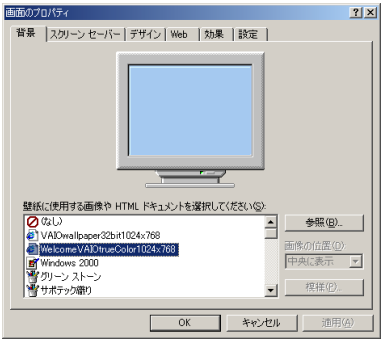
❑ **効果**（190**ページ**）

アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

❑ **設定**（191**ページ**）

解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



❑ **壁紙**

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。選んだ壁紙が上のデスクトップ画面上にプレビュー表示される。

［参照］: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやアクティブデスクトップを使っているときのみインターネットドキュメント（HTMLファイル）を選ぶ画面が表示される。

画像の位置: 壁紙の表示位置を、▼をクリックしてリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙がデスクトップ画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙がデスクトップ画面全体に表示される。

拡大して表示: 壁紙がデスクトップ画面全体に拡大されて表示される。

［模様］: クリックすると、デスクトップ画面に使用する模様を選択する画面が表示される。

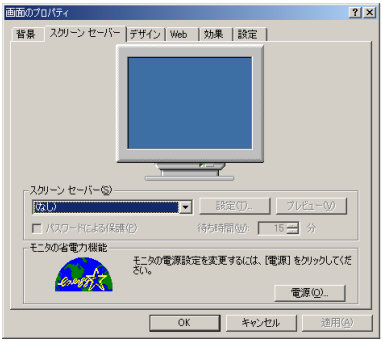
壁紙とは

デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

スクリーンセーバー



❑ **スクリーンセーバー**

（なし）▼: 使用するスクリーンセーバーを▼をクリックしてリストから選ぶ。

［設定］: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定する画面が表示される。

次のページにつづく

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: をクリックして にすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

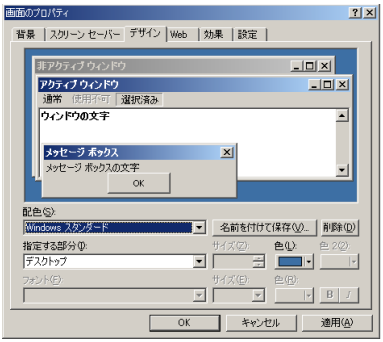
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを をクリックして選ぶ。

❑ モニタの省電力機能

[電源]: クリックすると、ディスプレイやハードディスクドライブの電源を設定する画面が表示される。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



❑ 配色

: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色を をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録する画面が表示される。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ **指定する部分**

デスクトップ: 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを をクリックして選ぶ。

色: 指定する部分の色を をクリックして選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を をクリックして選ぶ。

❑ **フォント**

: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類を をクリックしてリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを をクリックして選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

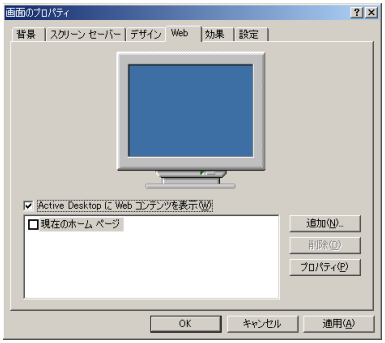
I: クリックすると、文字が斜体になる。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。



次のページにつづく

❑ Active DesktopにWebコンテンツを表示

をクリックして にすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目の をクリックして にすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[追加]: 新しいアクティブデスクトップ項目を追加する。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細が表示される。

効果

❑ **デスクトップアイコン**

変更したいアイコンをクリックして変更する。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧の画面が表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンを初期状態のアイコンに戻す。

❑ 視覚効果

メニューとヒントをアニメーション化する:
☐ をクリックして ☑ にすると、画面やメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーン フォントの縁を滑らかにする: ☐ をクリックして ☑ にすると、複雑な文字が見やすくなる。

大きいアイコンを使う: ☐ をクリックして ☑ にすると、デスクトップ画面に表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: ☐ をクリックして ☑ にすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

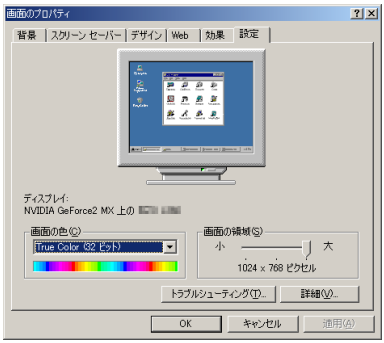
ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する: ☐ をクリックして ☑ にすると、画面をドラッグするときに画面の内容を表示したままドラッグする。

Altキーを押さないときはキーボードのナビゲーション インジケータを表示しない: ☐ をクリックして ☑ にすると、メニューバー内のメニューやファイルをクリックしたときの表示方法が変更される。

設定



❑ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

❑ 色

True Color (32 ビット) ▼: 画面の表示色数を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

ご注意

本機では「True Color（32ビット）」に設定してお使いになることをおすすめします。

❑ 画面の領域

スライダを左右に動かして画面の解像度を設定する。

ご注意

- 本機では1024×768ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。
- DVDビデオを再生しているときは、画面の解像度は変更しないでください。変更すると、DVDビデオが正しく再生されなかったり、画面にノイズが出ることがあります。

❑ Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする

マルチディスプレイのときに有効になる。

マルチディスプレイとは

1台のコンピュータに複数のディスプレイを接続して、それぞれに違う画面を表示する機能です。

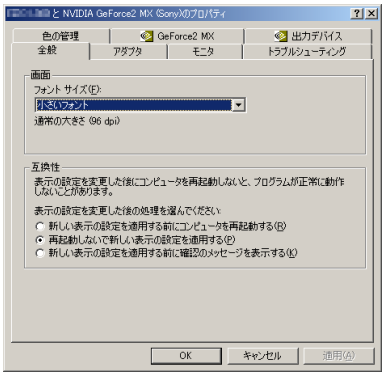
❑ [トラブルシューティング]

クリックすると、Windowsのヘルプが表示される。

❑ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、ディスプレイなどを設定する画面が表示される。[詳細] をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般



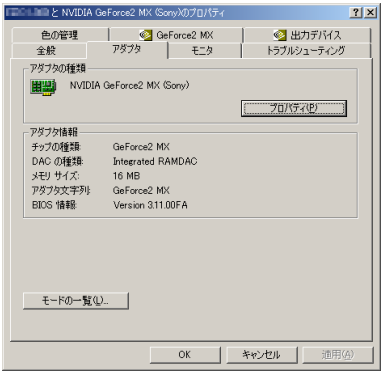
- **画面**

  フォント サイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小を をクリックしてリストから選ぶ。

- **互換性**

  ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションの をクリックして にして選ぶ。

アダプタ



- **アダプタの種類**

  ［プロパティ］をクリックすると、現在使用しているディスプレイアダプタの詳しい情報が表示される。

- **アダプタ情報**

  現在使用しているディスプレイアダプタの情報が表示される。

- **［モードの一覧］**

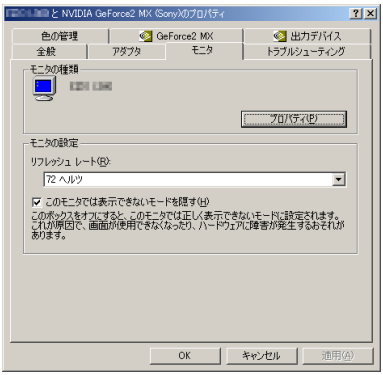
  クリックすると、使用できる解像度、表示色数、リフレッシュレートの一覧が表示される。

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

次のページにつづく

モニタ



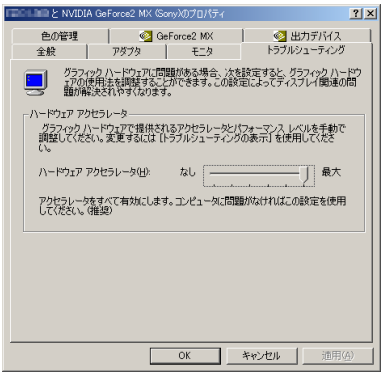
- **モニタの種類**

  ［プロパティ］をクリックすると、現在使用しているディスプレイの詳しい情報が表示される。

- **モニタの設定**

  変更したいリフレッシュレートを をクリックしてリストから選ぶ。

トラブルシューティング



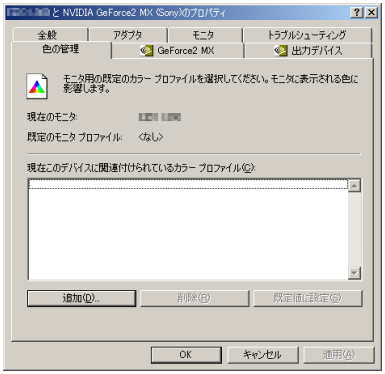
- **ハードウェア アクセラレータ**

  ハードウェア アクセラレータ: スライダを左右に動かして、ハードウェアアクセラレータの機能をどの程度使うか指定する。

ハードウェアアクセラレータとは

コンピュータの画面表示を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。通常は「最大」に設定してください。

色の管理



- **現在のモニタ**

  接続されているディスプレイの名前が表示される。
- **既定のモニタ プロファイル**

  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。
- **現在このデバイスに関連付けられているカラー プロファイル**

  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。使用するプロファイルをクリックして選ぶ。
- **[追加]**

  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択するウィンドウが表示される。
- **[削除]**

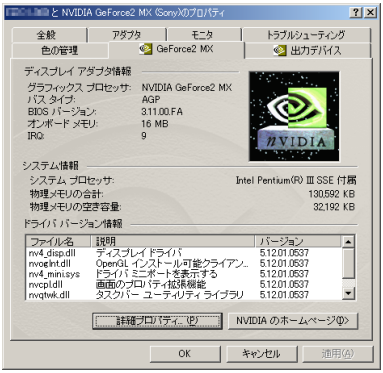
  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。
- **[既定値に設定]**

  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

プロファイルとは

Windows 2000のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

次のページにつづく



❑ディスプレイアダプタ情報

本機に接続しているGeForce2 MXのグラフィックスプロセッサ、バスタイプ、BIOSのバージョン、オンボードメモリ、IRQが表示される。

❑システム情報

本機に接続しているGeForce2 MXのシステムプロセッサ、物理メモリの合計、物理メモリの空き容量が表示される。

❑ドライバ バージョン情報

グラフィックスドライバの各モジュールのバージョン情報が表示される。

❑[詳細プロパティ]

カラー補正、オーバーレイカラーコントロール、その他のオプションを設定する画面が表示される。

❑[NVIDIAのホームページ]

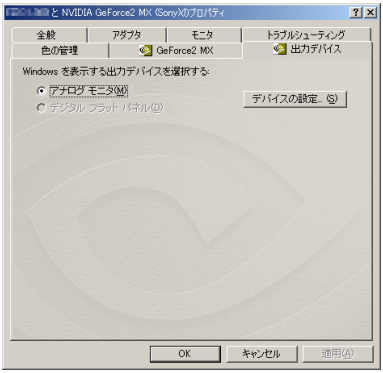
クリックすると、製品情報を見るためのメニューが表示される。

ご注意

製品情報を見るには、インターネットに接続するための設定が完了している必要があります。

出力デバイス

Windowsを表示する出力デバイスの選択を行う画面です。



❑Windowsを表示する出力デバイスを選択する

アナログ モニタ(アナログディスプレイ)、またはデジタル フラット パネル（デジタルディスプレイ）が接続されているかが表示される。

ご注意

- MONITORコネクタにディスプレイをつなぐときはDVIコネクタに15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD2をつながないでください。
- アナログディスプレイとデジタルディスプレイの2台に同時に出力することはできません。

❑［デバイスの設定］

クリックすると、ディスプレイに表示される画面の位置の調整を行う画面が表示される。

アクティブデスクトップをWindows 2000のデスクトップ画面からはずす PC

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。「アクティブデスクトップ」とは、ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップです。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 2000のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 （画面）をダブルクリックする。

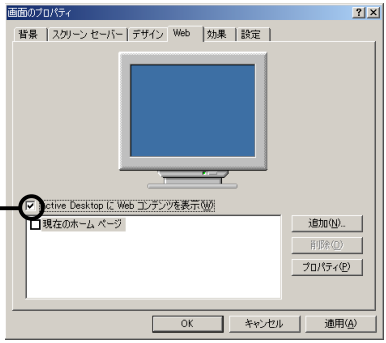
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 [Web] タブをクリックする。

ここをクリックする

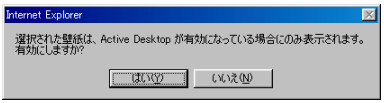
4 [Active DesktopにWebコンテンツを表示] の ☑ をクリックして ☐ にして、チェックをはずす。

ここをクリックして
チェックをはずす



5 OK をクリックする。

下記のメッセージが表示されます。



6 いいえ(N) をクリックする。

Windows 2000のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

ウィンドウのデザインを変更する PC

「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインターフェイスのデザインを好みに合わせて変更することができます。

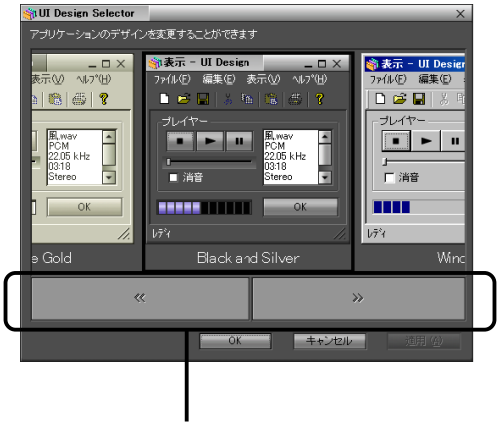
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル]をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 （UI Design Selector）をダブルクリックする。

「UI Design Selector」画面が表示されます。

3 [<<] または [>>] をクリックして、デザインを選ぶ。



ここをクリックしてデザインを選ぶ

4 適用 (A) をクリックする。

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアの画面もこの画面と同じデザインになります。

5 デザインを選び直すときは、[<<] または [>>] をクリックする。

6 OK をクリックする。

ソニー製ソフトウェアの画面のデザインが変更され、「UI Design Selector」画面が閉じます。

省電力機能の設定を変更する

本機には、いくつかの省電力機能が用意されています。各機能ごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

通常モード（本機の電源ランプ：緑色に点灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

＊お使いのディスプレイによっては、ランプの色が異なったり、点滅することがあります。

通常の動作モードですが、ディスプレイの電源を切り、消費電力を節約することができます。

「画面のプロパティ」画面の「スクリーンセーバー」タブの「モニタの省電力機能」で設定します。詳しくは、188ページをご覧ください。

スタンバイモード（本機の電源ランプ：赤色に点灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

＊お使いのディスプレイによっては、ランプの色が異なったり、点滅することがあります。

❑ **システムアイドルモード**

一時的にシステム全体の動作を停止し、消費電力を節約できます。このモードのときは本機内部には電源が供給されており、主電源部のファンはゆっくりと回転しています。

ご注意

スタンバイモードをシステムアイドルモードに設定した場合、スタンバイモードに入ったときにオーディオモードで本機の電源を入れることはできません。

❑ **システムサスペンドモード（Suspend to RAM）（お買い上げ時の設定）**

現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。長時間、本機を使用しないときなど、消費電力を節約するときに便利です。

最低限必要なデバイス以外の電源を切るため、上記のシステムアイドルモードに比べて、より消費電力を節約することができます。

このモードに入ると、本機の主電源が切れ、内部の主電源部のファンは停止します。

休止状態（本機の電源ランプ：消灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

＊お使いのディスプレイによっては、ランプの色が異なったり、点滅することがあります。

現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2～3日、本機を使わないようなときに便利です。

システムスタンバイモード（Suspend to RAM）および休止状態のときは、本機前面パネルのAUDIOボタン、または付属のオーディオ／DVD用リモコンを本機の R（リモコン受光部）に向けオーディオ電源ボタンを押すと、本機の電源をオーディオモードで入れることができます。ただし、タイマー予約した場合（本機前面パネルの表示窓の右上に が表示されているとき）は、タイマーを解除しないとオーディオモードには入れません。

スタンバイモードに入るには

以下の5つの方法があります。

- キーボードの ☾（スタンバイ）キーを押す。
- 本機前面の ⏻（電源）ボタンを押す。
- デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［シャットダウン］をクリックして表示される「Windowsのシャットダウン」画面で、［スタンバイ］をクリックして選び、次に OK をクリックする。
- 付属のGiga Pocket用リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「VAIO」に設定し、電源／スタンバイボタンを押す（PCV-MX3GKのみ）。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアの を右クリックして表示されるメニューから［Windows のスタンバイ］を選ぶ（PCV-MX3GKのみ）。（「予約マネージャー」でシャットダウンモードが「スタンバイ」に設定されている場合、お買い上げ時の設定）

スタンバイモードから通常の動作モードに戻すには

以下の2つの方法があります。

- 本機前面の ⏻（電源）ボタンを押す。
- 付属のGiga Pocket用リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「VAIO」に設定し、電源／スタンバイボタンを押す（PCV-MX3GKのみ）。

休止状態に入るには

- デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［シャットダウン］をクリックして表示される［Windowsのシャットダウン］画面で、［休止状態］をクリックして選び、OK をクリックする。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアの を右クリックして表示されるメニューから［Windows のスタンバイ］を選ぶ（PCV-MX3GKのみ）。（「予約マネージャー」でシャットダウンモードが「休止状態」に設定されている場合）

休止状態から通常の動作モードに戻すには

本機前面の ⏻（電源）ボタンを押すか、Giga Pocket用リモコンの電源／スタンバイボタンを押します。

次のページにつづく

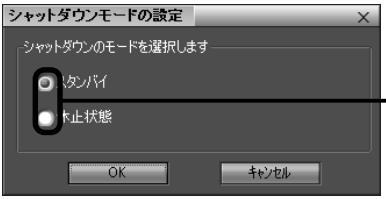
「Giga Pocket」ソフトウェアでシャットダウンモードの設定を変更するには

以下の手順に従って操作してください。

1 デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックし、「設定」メニューの「シャットダウンのモード」をクリックする。

「シャットダウンモードの設定」画面が表示されます。

2 使用するシャットダウンモードを選ぶ。



いずれかをクリックする

3 OK をクリックする。

システムアイドルモードとシステムサスペンドモード（Suspend to RAM）を切り換えるには

スタンバイモードの設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

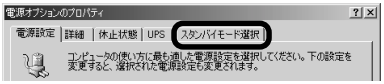
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （電源オプション）をダブルクリックする。

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［スタンバイモード選択］タブをクリックする。



4 使用するスタンバイモードを選ぶ。

いずれかをクリックする

5 OK または 適用(A) をクリックする。

ご注意

- 付属のGiga Pocket用リモコンを使ってスタンバイモードに入る場合、電源／スタンバイボタンを長く押し続けると、本機がスタンバイモードに移行したあと、すぐに通常の動作モードに戻ることがあります。Giga Pocket用リモコンの電源／スタンバイボタンを押すときは、短時間で軽く押してください。
- 付属の「Giga Pocket」ソフトウェアの状態によっては、スタンバイモード／休止状態に入れません。詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。
- PCI規格の拡張ボード、本機に接続する周辺機器、ソフトウェアによっては、システムサスペンドモード（Suspend to RAM）に対応していないものがあります。この場合は、スタンバイモードの設定をシステムアイドルモードに変更してからご使用ください。
- ソフトウェアによってはスタンバイモードに対応していないものがあります。この場合は、使用中のソフトウェアを終了させてからスタンバイモードに入ってください。
- システムサスペンドモード（Suspend to RAM）から本機を通常の動作モードに戻したとき、接続しているUSB機器の数および種類によっては、本機が正しく認識できないことがあります。この場合は、スタンバイモードの設定をシステムアイドルモードに変更してから本機を使用するか、USB機器をいったん取りはずしてからスタンバイモードに入ってください。
- Windows 2000の状態により、本機の動作が不安定な状態でスタンバイモード／休止状態に入ると、本機を正常に通常の動作モードに戻すことができないことがあります。
  以下のことをおすすめします。
  － スタンバイモード／休止状態に入る前に作成中のファイルを保存し、使用中のソフトウェアを終了する。
  － 定期的に本機の電源を切る。本機の電源の切りかたについては、別冊の本機取扱説明書の「電源を切る」をご覧ください。
- スタンバイモードをシステムアイドルモードに設定した場合、スタンバイモードに入ったときにオーディオモードで本機の電源を入れることはできません。本機の電源が切れている状態または休止状態のときは、オーディオモードで本機の電源を入れることができます。

ユーザー制限の設定を変更する

Windows 2000では、本機の電源を入れたあとに「Windowsのログオン」画面が表示され、ユーザー名とパスワードを入力しないとPCモードに入ることができない設定にすることができます。しかし、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って予約録画を行うときなど、本機の電源が切れた状態から自動的にPCモードに入る必要があるときは、あらかじめ以下の手順に従って操作して設定を変更してください。

ちょっと一言

休止状態またはスタンバイモードから本機を通常の動作モードに戻し、予約録画する場合は、以下の設定の変更は必要ありません。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

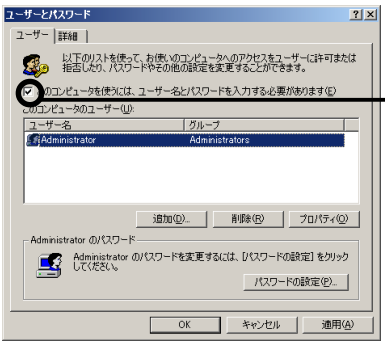
2 （ユーザーとパスワード）をダブルクリックする。

「ユーザーとパスワード」画面が表示されます。

3 ［ユーザー］タブをクリックする。

「ユーザー」画面が表示されます。

4 「このコンピュータのユーザー」の一覧から［Administrator］をクリックし、「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する」のチェックをはずす。

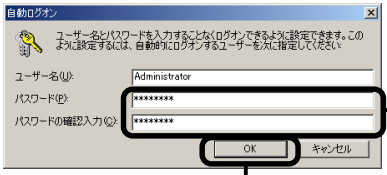


ここのチェックをはずす

5 OK または 適用(A) をクリックする。

「自動ログオン」画面が表示されます。

6 「パスワード」にパスワードを入力し、確認のため「パスワードの確認入力」にも同じパスワードを入力する。



ちょっと一言

管理者権限（Adminisotrators）以外のユーザーの設定を変更したいときは、手順4で設定を変更したいユーザーをクリックして選びます。

ユーザーを追加するには

手順4の「ユーザーとパスワード」画面で 追加(D)... をクリックします。「新しいユーザーの追加」画面が表示されるので、画面の指示に従って、ユーザー名とパスワードを入力し、アクセス権を設定してください。

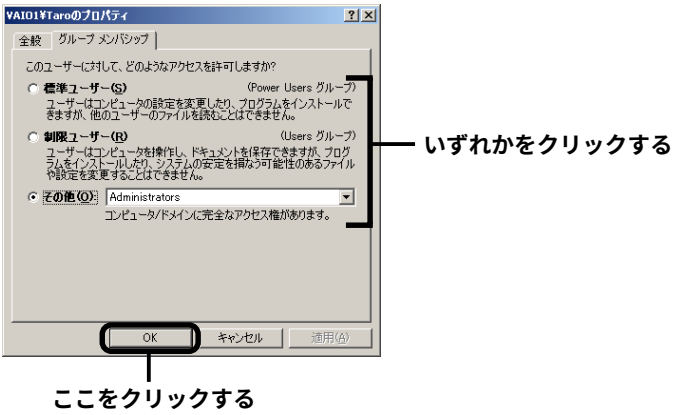
ユーザーを削除するには

手順4の「ユーザーとパスワード」画面で「このコンピュータのユーザー」の一覧から削除したいユーザー名をクリックして選び、削除(R) をクリックします。「削除しますか？」というメッセージが表示されるので、はい(Y) をクリックしてください。

次のページにつづく

ユーザーのアクセス権を変更するには

手順4の「ユーザーとパスワード」画面で「このコンピュータのユーザー」の一覧からアクセス権を変更したいユーザー名をクリックして選び、プロパティ(O) をクリックします。「グループメンバシップ」タブでアクセス権をクリックして選び、OK または 適用(A) をクリックしてください。



パスワードを変更するには

手順4の「ユーザーとパスワード」画面で「このコンピュータのユーザー」の一覧からパスワードを変更したいユーザー名をクリックして選び、パスワードの設定(P)... をクリックします。「パスワードの設定」画面が表示されるので新しいパスワードを入力し、OK をクリックしてください。

拡張編

周辺機器を接続する 208
本体を拡張する 224

AV機器をつなぐ（PCV-MX3GKのみ）

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	このようにつないでください
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」（209ページ）をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」（209ページ）をご覧ください。
ディスプレイで見ている動画をテレビでも見たい	本機とテレビをつなぎます。 接続のしかたについては「テレビをつなぐ」（212ページ）をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの動画を見たり、本機のハードディスクドライブに動画を録画することができます。また、本機で再生した動画を外部のビデオデッキで録画することもできます。

Sビデオ接続ケーブル（4ピン⟷4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。

ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

すでに壁のアンテナコネクタにビデオデッキやテレビがつながっているときは

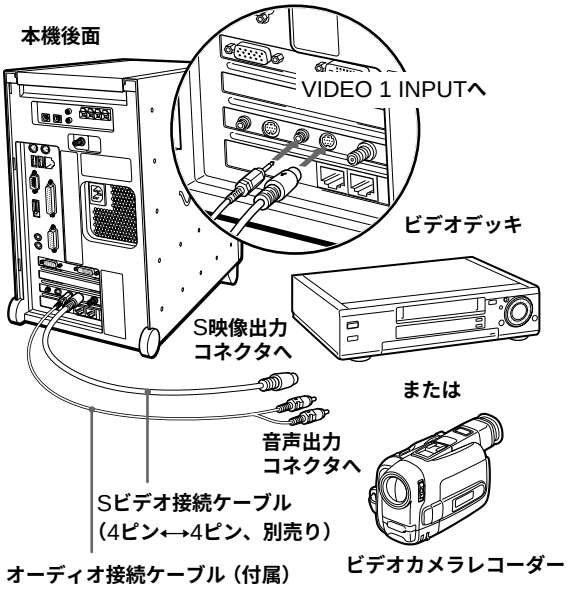
本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

ビデオデッキの映像を見たり録画するには

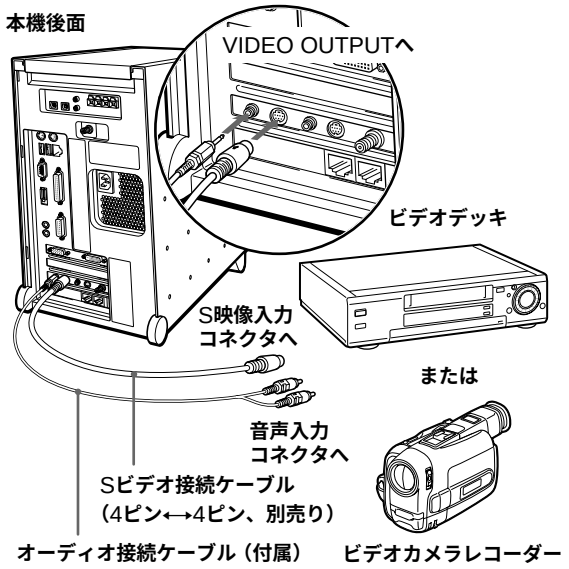
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの映像を「Giga Pocket」ソフトウェアで扱う方法については、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

- **ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき**



- **本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき**

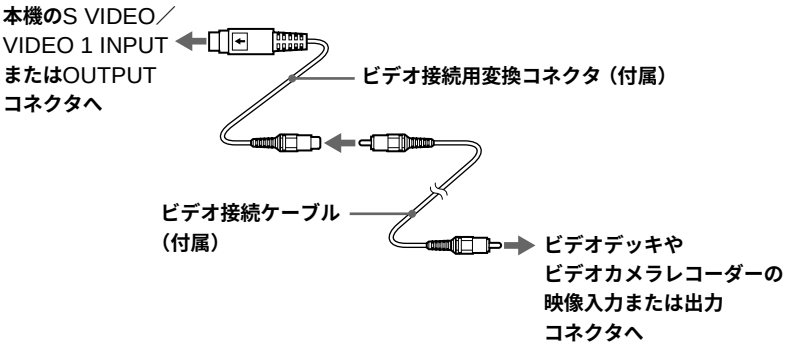


ご注意

本機のVIDEO 1 INPUTコネクタとVIDEO OUTPUTコネクタに同時にビデオデッキやビデオカメラレコーダーを接続して使用すると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



ちょっと一言

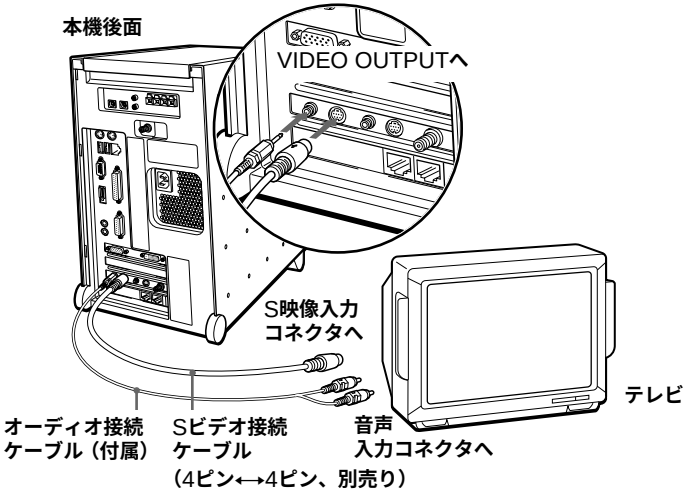
別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

テレビをつなぐ

「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像やDVDビデオの映像をテレビでも見ることができます。
Sビデオ接続ケーブル（4ピン⟷4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機では、ディスプレイとテレビの両方を接続していてもDVDビデオの映像は両方同時に表示できません。
  Giga Pocket用リモコンの入力切換ボタンでディスプレイまたはテレビに映像入力を切り換えてください。



ビデオデッキをつなぐときは

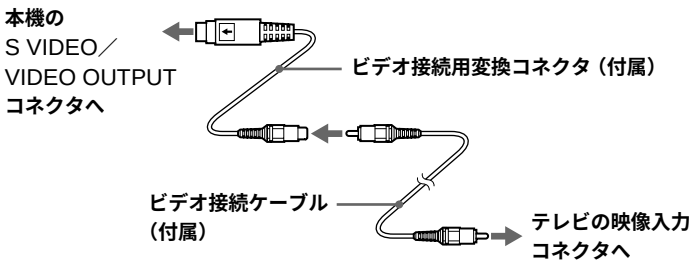
本機のVIDEO OUTPUTコネクタとビデオデッキの映像／音声入力コネクタをつなぎ、ビデオデッキの映像／音声出力コネクタとテレビの映像／音声入力コネクタをつなぎます。

すでに壁のアンテナコネクタにビデオデッキやテレビがつながっているときは

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。

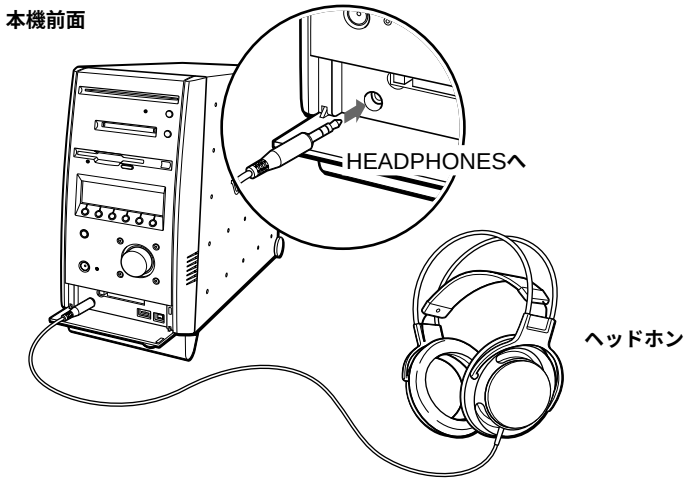


ちょっと一言

別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

ヘッドホンをつなぐ

付属の「MX Stage」ソフトウェアを使って音声出力をドルビーヘッドホン方式（AC-3）に切り換えることにより、ドルビーデジタル方式（AC-3）で記録されているDVDビデオを再生するときに、通常のヘッドホンでも仮想的にドルビーデジタル音声を楽しむことができます。



ドルビーヘッドホンにするには

付属の「MX Stage」ソフトウェアを使います。「DVD設定」画面の「音声形式」タブで「ドルビーヘッドホン」を選択します。詳しくは、「デジタル出力を切り換える」（176ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(219ページ) および「本機と操作できるi.LINK対応機器」(220ページ) をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

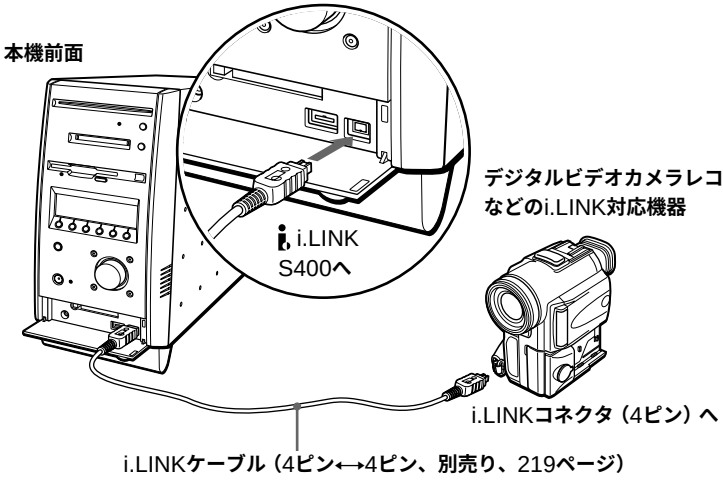
ちょっと一言

i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（別売り、219ページ）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。

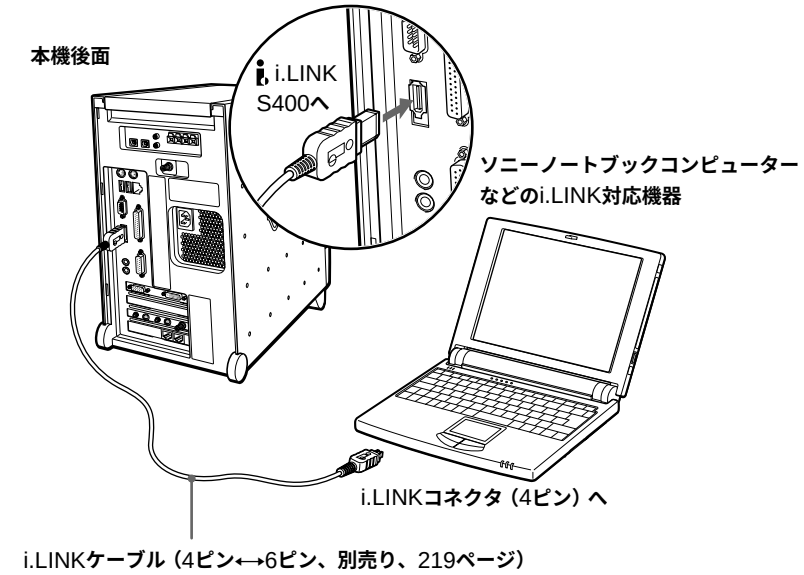
i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（別売り、219ページ）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。

i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を別売りのi.LINKケーブルで接続すると、ファイルのコピー、削除、編集などがお互いにでき、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。また、「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能を利用して、他のVAIOから、録画を予約したり、録画済みの動画を再生したりできます。「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能について詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

なお、本機では「Smart Connect」は初期設定で使えない状態に設定されています。使えるようにするには、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。

使いかたについて詳しくは、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。

ちょっと一言

「Smart Connect」を使ったデータのやりとりの状態は、「Smart Connectモニタ」で確認できます。デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックして確認します。詳しくは、「Smart Connectモニタ」のヘルプをご覧ください。

ご注意

「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate」、「Smart Capture」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

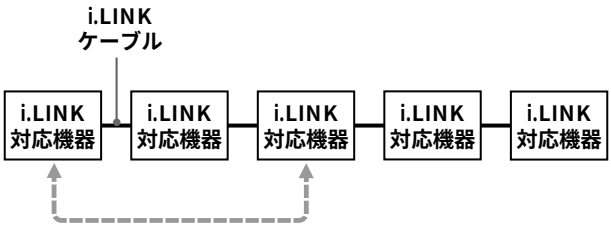
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。

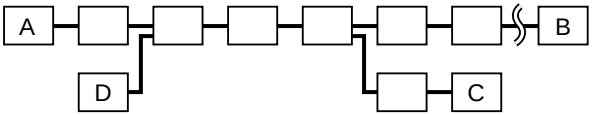


2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

次のページにつづく

途中から分岐してつなぐこともできます

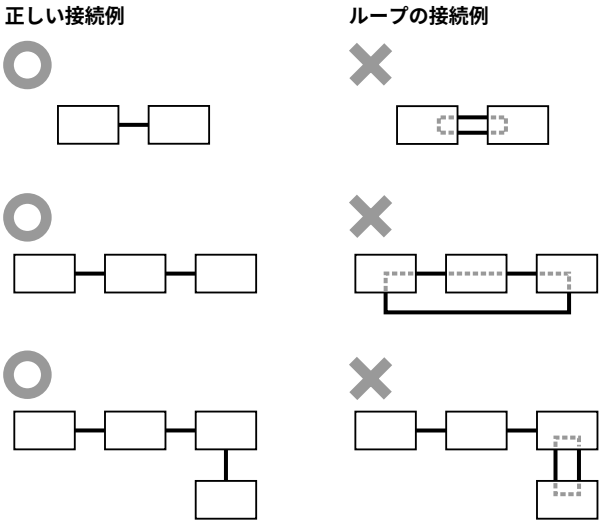
- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。）
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。



A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17台の機器を接続できます（最大16ホップ）。

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。



接続についてのご注意

- コンピュータなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

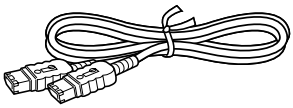
必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

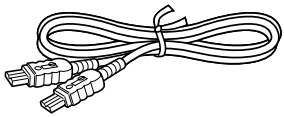
6ピン⟷6ピン

- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）



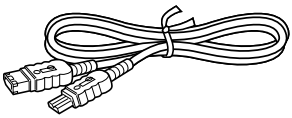
4ピン⟷4ピン

- VMC-IL4408A（80 cm）
- VMC-IL4415A（1.5 m）
- VMC-IL4435A（3.5 m）



4ピン⟷6ピン

- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

次のページにつづく

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年9月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
  取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーが2000年8月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバータおよびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む、ツーリストモデルは除く）
  ただし、ソフトウェアによっては一部のDV機器が動作対象外になる場合があります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書、オンラインマニュアル、ヘルプ、Readmeファイルなどをご覧ください。

- ソニーi.LINK ハードディスクドライブ PCVA-HD04（2000年10月発売予定）
  この機器について詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。VAIOカスタマーリンクのホームページで、本機との接続情報を確認してください。

ご注意

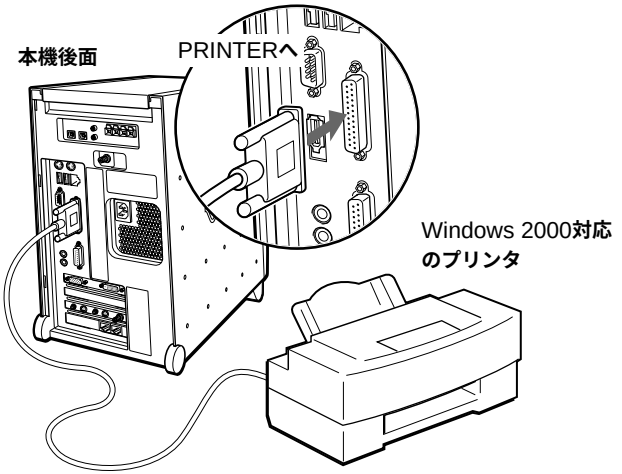
本機はDTLAコピー・プロテクション技術（217ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

プリンタをつなぐ

Windows 2000に対応しているプリンタを本機につないで、「PictureGear」ソフトウェアの「ラベルメーカー」で作成したラベルや、「ワードパッド」ソフトウェアで作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 2000に対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタおよびWindows 2000のヘルプをご覧ください。

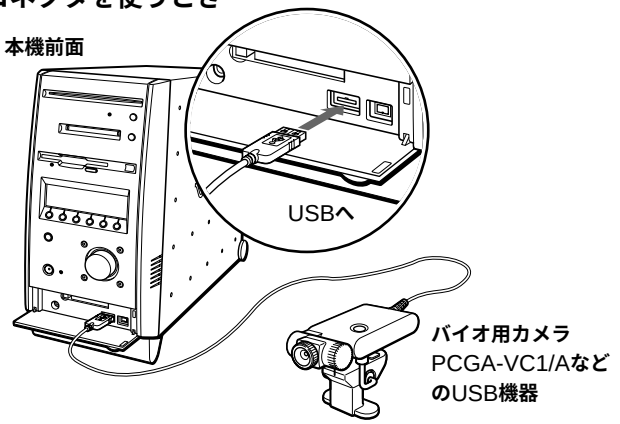
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

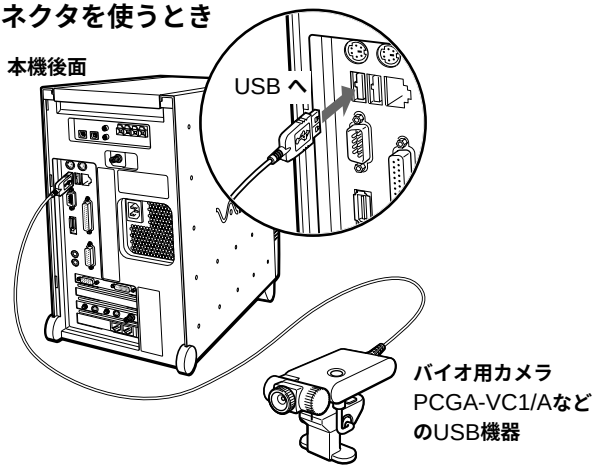
USB機器をつなぐ

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、バイオ用カメラPCGA-VC1/Aなど、Windows 2000に対応しているUSB機器を接続することができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき

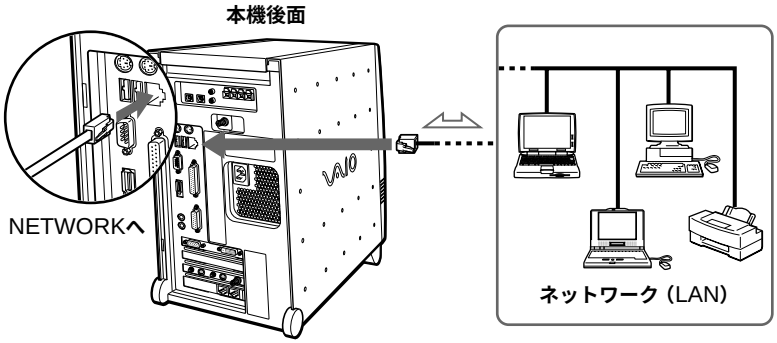


後面パネルのコネクタを使うとき



ネットワーク（LAN）を作る

本機後面のNETWORKコネクタとネットワーク（LAN）を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。



ちょっと一言

本機をネットワーク（LAN）に接続すると、ネットワークに接続されている他のコンピュータから、「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能を利用して、録画を予約したり、録画済みの動画を再生したりできます。「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能について詳しくは、別冊の「Giga Pocket」取扱説明書をご覧ください。

ご注意

NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。お買い上げ時にはNETWORKコネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORKコネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。

拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 2000とPCI規格に対応していることをご確認ください。
PCV-MX3GKでは空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1か所あり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。
PCV-MX3Kでは空きスロットが2か所あり、PCI拡張カードを2枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約220mmまでです。

増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。
VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードは、ボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じた割り込み処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼動するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1 デスクトップ画面左上の（マイ コンピュータ）を右クリックする。
ショートカットメニューが表示されます。

2 ［プロパティ］をクリックする。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［ハードウェア］タブをクリックする。
「ハードウェア」画面が表示されます。

4 デバイス マネージャ(D)... をダブルクリックする。
「デバイス マネージャ」画面が表示されます。

5 画面左上の［表示］をクリックして、表示されるメニューから［リソース（種類別）］または［リソース（接続別）］をクリックする。
現在使用中のリソースが種類別または接続別に表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」（43ページ）をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（227ページ）をご覧ください。

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（42ページ）をご覧ください。

ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されると、メッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が壊れることがあります。

- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前に、本機の金属部分などの金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いて左側面のカバーと後面パネルを取り付けてから電源を入れてください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

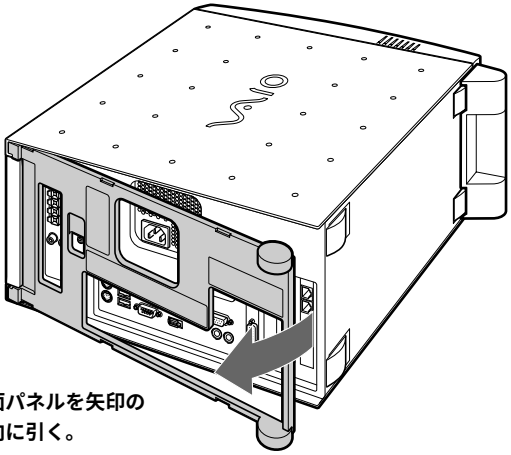
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 本機を横に倒して置く。

本機の右側面を下にして横に置きます。拡張ボードが取り付けやすくなります。

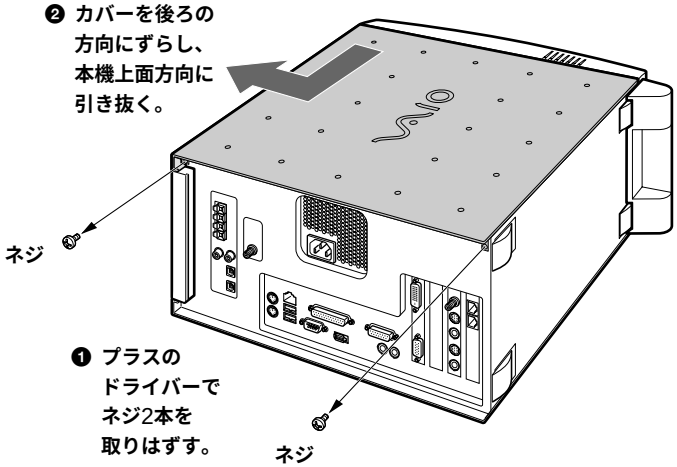
次のページにつづく

3 後面パネルを取りはずす。



後面パネルを矢印の
方向に引く。

4 左側面のカバーを取りはずす。

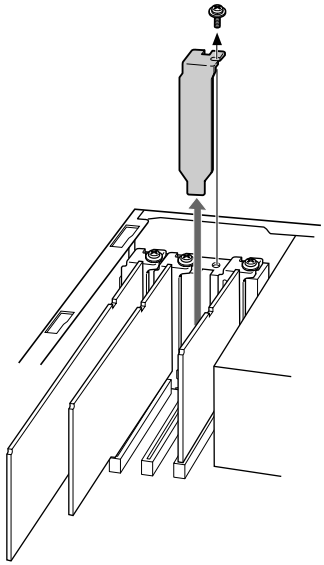


ご注意

取りはずした2本のネジは左側面のカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

5 **拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。**

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。



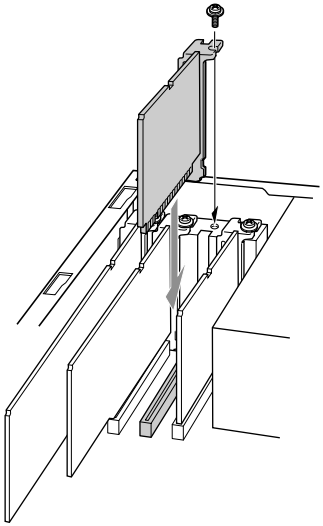
ご注意

- 本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないようにご注意ください。
- 本機内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。
- 本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないようにご注意ください。

次のページにつづく

6 拡張ボードを取り付ける。

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。
詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。

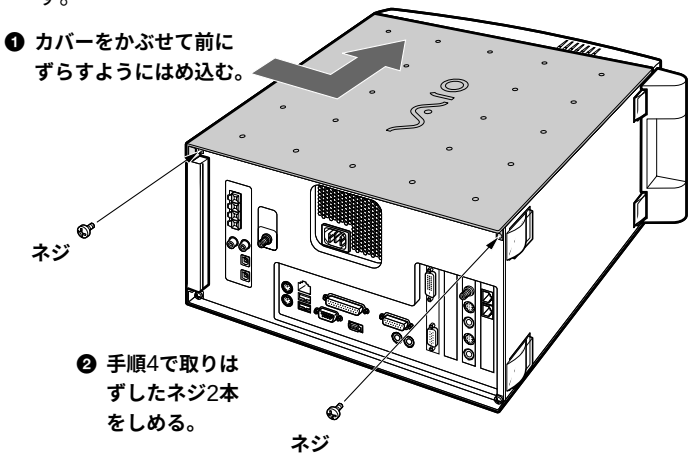


ご注意

- 本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないようにご注意ください。
- 本機内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。
- 本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないようにご注意ください。

7 左側面のカバーを取り付ける。

左側面のカバーをかぶせて前にずらすようにはめ込み、ネジをしめます。

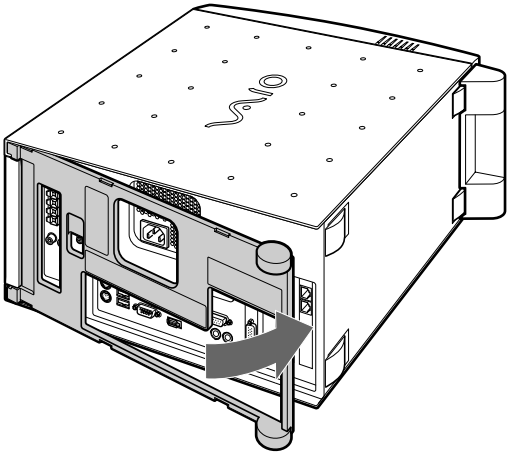


ご注意

カバーで手や指をはさんでけがをしないようにご注意ください。

8 **後面パネルを取り付ける。**

先に後面パネルの上部のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



9 **本機を立てて置く。**

10 **手順1ではずした周辺機器を接続し、周辺機器の電源を入れてから本機前面の ⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。**

Windows 2000が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示と拡張ボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

PCカードを使う

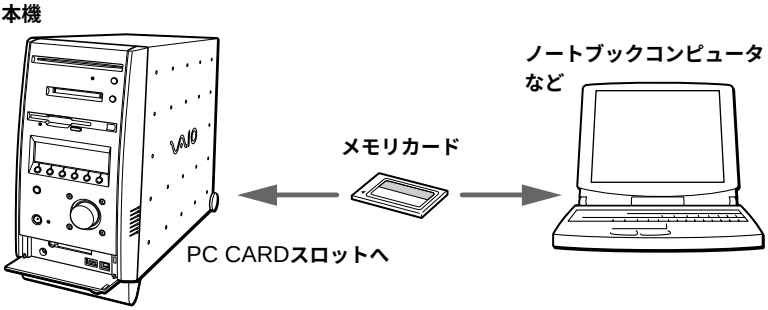
本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張できます。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
PCカードには以下のような種類があります。

メモリカード
データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。
本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

フラッシュメモリとは
電気的にデータを読み書きする、記憶メディアのひとつです。普通、書き込み可能なメモリは、電源を切ると内容が消えてしまいますが、フラッシュメモリは電源を切っても内容が消えないという特徴をもっています。



SCSIカード
MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

MOとは
「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大640Mバイトまでデータを記録することができます。

SCSIとは
「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大7台まで数珠つなぎに接続することができます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

イーサネットとは

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

TA（ターミナルアダプタ）カード

ISDN回線に接続できます。

ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った電話で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

本機には、PC Cardタイプ I とタイプ II に準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busに対応しています。（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ちょっと一言

ソニー製の“メモリースティック”対応PCカードアダプタMSAC-PC2Nを取り付ければ、“メモリースティック”を使って、“メモリースティック”対応機器とデータをやりとりできます。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。

PCカードを取り付ける

本機がPCモードのときに、PCカードを取り付けます。

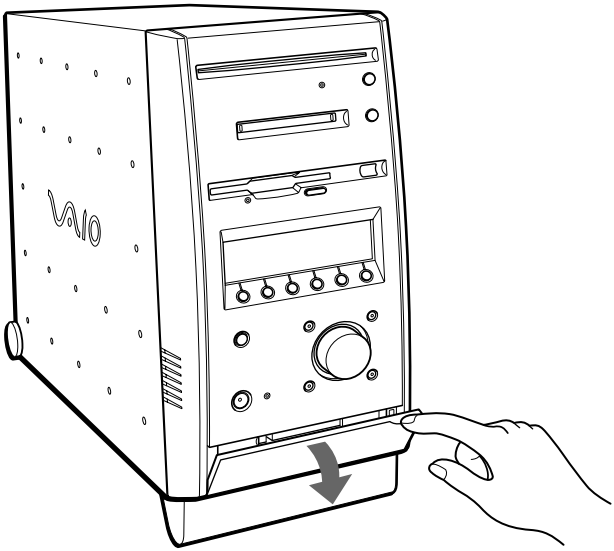
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

ご注意

オーディオモードのときはPCカードを取り付けないでください。

次のページにつづく

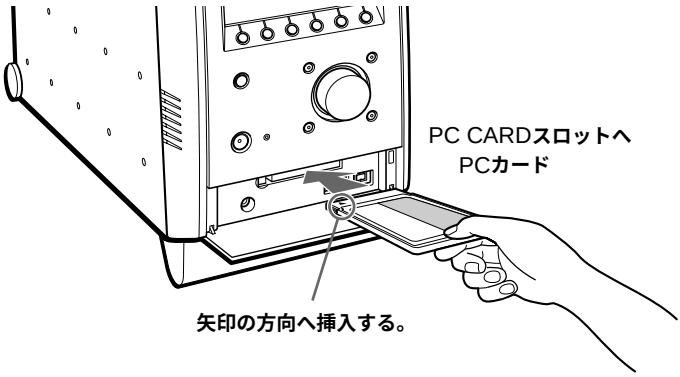
1 **本機前面の下にあるふたを手前に開ける。**



2 **カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。**

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向および表裏を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「コントロールパネル」の中の［システム］をダブルクリックして表示される「システムのプロパティ」の「デバイスマネージャ」タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバを削除し、再度インストールしてください。
- 本機がスタンバイモードのときはPCカードおよびカードデバイスを抜き差ししないでください。

PCカードを取り出すには

ご注意

- カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。
- 本機がオーディオモードのとき、または本機の電源が切れているとき（本機前面の電源ランプが消灯）は、PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押すだけでPCカードを取りだせます。（手順1〜5は不要です。）本機がスタンバイモードのとき（本機前面の電源ランプが赤色に点灯）、または休止状態のときは、本機を通常の動作モードに戻してから手順1〜5を行ってください。本機を通常の動作モードに戻す方法については、44ページをご覧ください。

1 デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックする。

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 リストから取り出したいPCカードをクリックし、 停止(S) をクリックする。

「ハードウェア デバイスの停止」画面が表示されます。

3 取りはずすPCカードを確認し、 OK をクリックする。

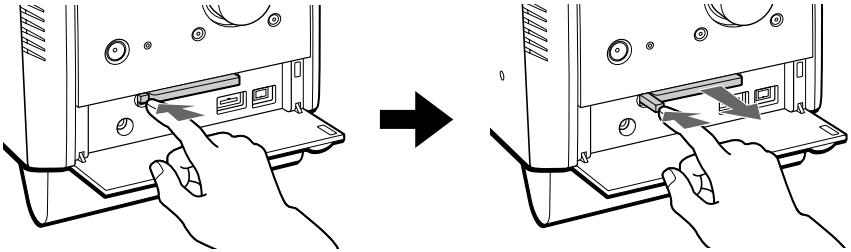
「…は安全に取り外すことができます。」画面が表示されます。

4 OK をクリックする。

5 「ハードウェアの取り外し」画面の 閉じる をクリックする。

6 PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。

一度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう一度押すとPCカードを取り出すことができます。



カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

メモリを増設する

本機の内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

メモリの増設は本機内部の電源部分やケーブル類を取りはずすなどの作業が必要です。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けをご依頼ください。メモリの増設をご自分で行うと、本機が故障したり、手や指をけがする恐れがありますので、絶対に行わないでください。

ソニー製のメモリーモジュールを取り付けるときはVAIOカスタマーリンク修理窓口または販売店にご依頼ください。メモリ増設サービス（有料）をご利用いただけます。
本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあり、PCV-MX3GKでは標準で128Mバイト、PCV-MX3Kでは64Mバイトのメモリモジュールが1枚装着されています。本機に取り付けられるソニー製のメモリーモジュールには、PCVA-MM128S/MM256Sがあり、これらのメモリモジュールを増設したときのメモリの容量は以下のようになります。

メモリモジュール	増設後の容量	
PCVA-MM128S	256Mバイト（PCV-MX3GK）	192Mバイト（PCV-MX3K）
PCVA-MM256S	384Mバイト（PCV-MX3GK）	320Mバイト（PCV-MX3K）

また、標準で装着されているメモリモジュールを取りはずし、PCVA-MM256Sを2枚取り付けることにより、最大512Mバイトまでメモリを増設できます。

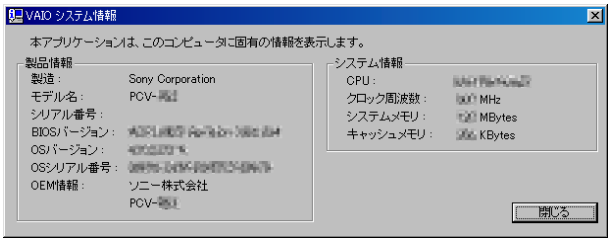
ご注意

メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。

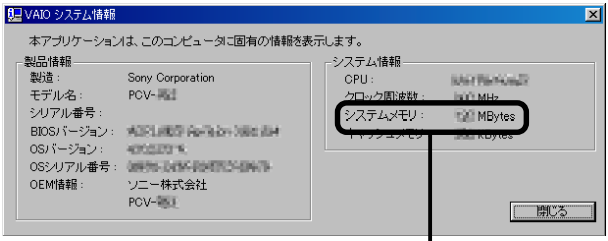
現在のメモリの容量を確認するには

1 **本機がPCモードになっていることを確認する。****（76ページ）**

2 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［VAIO システム情報］をクリックする。**
「VAIO システム情報」画面が表示されます。



3 **「システムメモリ」の項目を確認する。**



ここに表示されているのが現在のメモリ容量です。

困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1「主なトラブルとその解決方法」をチェックする

242ページをご覧になり、お使いのコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。

手順2 取扱説明書やヘルプで調べる

- 本書や別冊の「はじめにお読みください」
- ソフトウェアのオンラインマニュアルやヘルプ
- Windows 2000のヘルプ
  デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[ヘルプ] をクリックして、Windows 2000のヘルプを表示させます。

付属の「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを使うと、上記のマニュアルやVAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）などから自動的にその解決方法を検索できます。
使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

手順3 VAIOカスタマーリンクのホームページを確認する

VAIOカスタマーリンクホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載していますのでご覧ください。
VAIO**カスタマーリンクホームページ**　http://vcl.vaio.sony.co.jp/

手順4 VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる

次ページのお問い合わせ先にご相談ください。

VAIO**カスタマーリンク**

電話番号

（0466）30-3000

受付時間

平日	10時～20時	一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。
土、日、祝日（年末年始は除く）	10時～17時	

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- 付属のソフトウェアについては、別冊の「ご確認ください」をご覧になり、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお電話ください。
- 本機のご購入日から90日間無料。それ以後は、有償でのサポートメニュー「サポートプラス」をご用意しております。

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

①お客様のVAIO**カスタマー**ID
②本機の**型名**：PCV-MX3GK/MX3K
③本機の**製造番号**（保証書などに記載されている7桁の番号です）
④カスタマー登録していただいた時の**電話番号**、または登録予定の**電話番号**

ちょっと一言

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤本機に接続している**周辺機器名**（メーカー名と型名）
⑥表示された**エラーメッセージ**
⑦本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、その**ソフトウェアの名前**とバージョン
⑧トラブルが発生する前または**直前に行った操作**
⑨トラブルがどのくらいの**頻度**で再現するか
⑩その他お気づきの点

修理の場合は

⑪VAIOカルテ（修理をお申込みになる時）
⑫筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動後または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（43ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

PCモード時

トラブルの内容	参照ページ
電源	243ページ
ディスプレイ	245ページ
マウス	246ページ
フロッピーディスク	247ページ
ハードディスク	247ページ
文字入力	248ページ
i.LINK	249ページ
モデム／インターネット	249ページ
Windowsのメッセージ	251ページ

AV機能使用時

トラブルの内容	参照ページ
音	251ページ
タイマー	253ページ
リモコン	253ページ
再生	254ページ
録音・編集	256ページ
FMラジオ	257ページ
録画	258ページ

電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

→ スイッチ付テーブルタップなどに本機の電源コードをつないでいるときは、スイッチが入っているかどうか、また、テーブルタップが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

→ 表示窓に「TIMER」と表示されていないか確認する。表示されていたら、本機はタイマーが設定された状態です。タイマーが設定された状態で本機の電源が切られているときは、オーディオモードで本機の電源を入れることはできません。前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマー設定を解除してから本機の電源を入れてください。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 2000は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（43ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［シャットダウン］を選んでも「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsのシャットダウン」画面を表示させ、「シャットダウン」をクリックして選び、［OK］をクリックしてください。

Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

次のページにつづく

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safeモードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（43ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

本機がスタンバイモードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。
再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出る。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（269ページ）および「パーティションサイズを変更する」（274ページ）をご覧ください。

ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ 本機後面のMONITORコネクタとDVIコネクタの両方にディスプレイをつないでいないか確認する。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

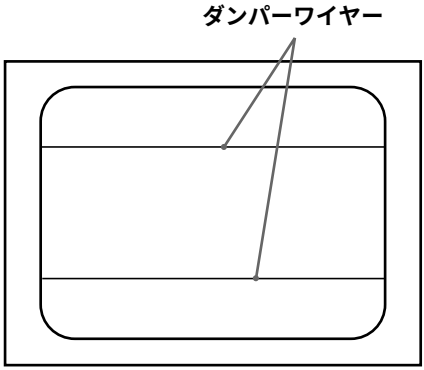
→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイ CPD-E200などのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。



テレビの映像が映らない（PCV-MX3GKのみ）。

→ 本機とアンテナを正しく接続する。別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。（285ページ）

→ 田 キーを押して「スタート」メニューを表示させ、PgUp キーまたは PgDn キーを押して［シャットダウン］を選んで、Enter（エンター）キーを押す。そのあと PgUp キーまたは PgDn キーで［再起動する］を選び、Enter（エンター）キーを押して再起動する。

→ 田 キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ ディスクを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、ディスクを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して、電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 70ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(73ページ)

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(73ページ)

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(269ページ) をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(269ページ) をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ DVD-ROMドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字を入力する」(61ページ) をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで (62ページ)、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまで [ ] (スペース) キーを押すか、[Shift] (シフト) キーを押しながら [^ ～] キーを押します。

URLで使われる半角の「~」(チルダ) が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び (67ページ)、[Shift] (シフト) キーを押しながら [^ ～] キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。(タイトルバー (ウィンドウの上の部分) は薄い色になります。) 文字を入力したいソフトウェアのウィンドウのどこかをクリックするか、[Alt] (オルト) キーと [Tab] (タブ) キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする (タイトルバーが青い色になります)。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字を入力できない場合は、キーボード右上のNum Lockランプが消灯していないか確認してください。消灯している場合は、[NumLk ScrLk] (ナム・ロック) キーを押してランプを点灯させてから入力してください。

→ 1 **「コントロールパネル」ウィンドウの中の (システム) をダブルクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 **[ハードウェア] タブをクリックする。**

3 **[デバイスマネージャ] をクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 **キーボードの項目をクリックする。**

「日本語 PS／2キーボード (106／109キー Ctrl＋英数)」と表示されます。

上記と異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されていない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動中に「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画を繰り返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。（45ページ）

モデム／インターネット

内蔵モデム／インターネット接続のトラブルについて詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」の「困ったときは」をご覧ください。

本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識していない。

→ 本機やターミナルアダプタが電話回線に正しく接続されているか確認する。

→ お使いの電話回線が、PBXなどの交換機や他の通信機器を経由していないか確認する。

→ お使いの内蔵モデムが他のデバイスと競合していないか確認する。

→ 「オンラインカスタマー登録」ソフトウェアの使用時にISDN回線に接続していないか確認する。

→ 本機を電話回線に接続するときは、付属のテレホンコードを使う。

→ 本機側および壁側、ターミナルアダプタなどへテレホンコードがしっかりと奥まで接続されているか確認する。

→ 電話回線のコンセントと本機の間に付属以外の分配器などの機器をつなげない。

本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかけていない。

→ ダイヤル方法（トーン／パルス）が正しく設定されているか確認する。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の電話番号を確認する。

→ 発信音を待ってダイヤルする設定になっている場合は設定を解除する。

次のページにつづく

→ 内蔵モデムやターミナルアダプタが3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかります。3分以上時間をおいてからかけ直してください。

モデムやターミナルアダプタは発信しているが接続できない。

→ 電話回線の状態が良くなかったり、電話回線が混み合っている場合は、時間帯をずらして再度接続してみる。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の回線の状態が良くなかったり、回線が混み合っているか接続先のモデムが不調な場合は、時間帯をずらして再度接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみる。

→ 「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報など他の電話番号に接続できるか試す。

→ お使いのソフトウェアの設定を確認する。

→ 内蔵モデムの通信速度を遅くしてから接続してみる。

ユーザー名やパスワードなどがプロバイダのサーバーによって認証されない。

→ ユーザー名やパスワードが正しく設定されているか確認する。

→ ユーザー名やパスワードを忘れた場合は、プロバイダから郵送されてきた資料を確認するか、プロバイダにお問い合わせください。

→ 別冊の「はじめてのインターネット！」の「チェックシートを作成する」で作成したチェックシートを見て、ダイヤルアップネットワークの設定内容が正しいか確認する。

→ ダイヤルアップ接続アイコンを作り直してから接続してみる。

ウェブブラウザ（「Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見ることができない。

→ ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定が正しいか確認する。

→ ホームページのURLをアドレスバーに入力してホームページを見るとき、URLが正しいか確認する。

電子メールをやりとりできない。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

Windowsのメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする（73ページ）。

電源を入れた後、「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」の「Load Setup Defaults」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）」（19ページ）をご覧ください。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換についてはVAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

音

音が出ない。

→ 音量が最小になっている。本機前面のVOLUMEつまみを右へ回して音量を上げる。

→ ヘッドホン（別売り）を差したままになっている。ヘッドホンをHEADPHONESコネクタから抜く。

次のページにつづく

→ スピーカーコードが付属のスピーカーと本機にしっかり接続されていないか、スピーカーコードのビニール部分がSPEAKERコネクタに食い込んでいる。スピーカーコードを正しく接続し直す。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下のタスクトレイの（スピーカーアイコン）をダブルクリックして表示される画面で音量を上げる。

→ MDを再生しても音が出ない場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。（76ページ）**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［音量コントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

3 **MDの「ミュート」のチェックをはずす。外付けのアンプなどを接続している場合は、Lineの「ミュート」をチェックする。**

4 **画面右上の（閉じるボタン）をクリックする。**

→ MDを再生しても音が出ない場合は、光デジタル出力の設定を確認する。（181ページ）

→ DVDビデオを再生しても音が出ない場合は、「DVD設定」画面で「ドルビーデジタル」が選ばれていないか確認する。（176ページ）

音がおかしい。

→ スピーカーコードの＋／－が正しく接続されていない。スピーカーコードを正しく接続し直す。

→ 左右のスピーカーの高さ、距離が極端に違う。高さ、距離をなるべく対称にする。

→ ひとつのスピーカーコネクタに2台以上のスピーカーをつないでいる。一つのスピーカーコネクタにつなぐのは、スピーカー1台にする。

→ 外付けのアンプなどにLINE IN、LINE OUTコネクタの両方をつないでいる場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。（76ページ）**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［音量コントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

3 **Lineの「ミュート」をチェックする。**

4 **画面右上の（閉じるボタン）をクリックする。**

雑音が多い。

→ テレビやビデオなど、ノイズを出す機器の近くに設置している。離れたところに設置し直す。

→ 冷蔵庫など、ノイズを出す機器と同じ電源コンセントにつないでいる。別の電源コンセントにつなぐか、市販の電源ラインのノイズフィルタを使用する。

→ 外付けのアンプなどを接続している場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。**（76ページ）

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［音量コントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

3 **Lineの「ミュート」をチェックする。**

4 **画面右上の （閉じるボタン）をクリックする。**

プリセットイコライザで設定した音の効果が出ない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、プリセットイコライザがお買い上げ時の設定に戻った。PCモードで本機の電源を入れ、設定し直す。（170ページ）

タイマー

タイマーが設定できない。

→ 時計が設定されていない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、タイマーの設定が解除された。本機を再起動してタイマーを設定し直す。（143ページ）

タイマーが働かない。

→ 電源を切る前にタイマーが働くように設定していなかった。タイマーを設定する。（143ページ）

→ 誤った時間が設定されている。設定内容を確認し、正しい時間を設定する。（145ページ）

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマー予約と重なっている（PCV-MX3GKのみ）。「Giga Pocket」ソフトウェアで設定したタイマー予約が最優先されるので、重ならないようにタイマーを設定する。
デイリータイマーやタイマー録音時は、「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマー設定状況によっては正しく動作しないことがあります。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンと本機の間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと本機の距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が本体の方を向いていない。リモコンを本体に向ける。

→ リモコンの乾電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。乾電池（単3）を交換する。

次のページにつづく

→ 本体の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本体と蛍光灯を離して設置する。

→ リモコンで操作できないソフトウェアを操作しようとしている。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない（PCV-MX3GKのみ）。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない（PCV-MX3GKのみ）。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。（38ページ）

再生

ディスクやMDが出てこない。

→ 92ページまたは103ページをご覧ください。

→ 「ディスクを取り出すには」（92ページ）の操作を行っても12cmディスクがDVD-ROMドライブから出てこない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ 8cmディスクを8cmCDシングルアダプタを取り付けずにDVD-ROMドライブに入れた。本機を正面から見て右側を下にしてゆっくり倒して横にしてから、⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンを押す。それでも取り出せない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ レンタルCDや中古CDなどで、シールなどからのりがはみ出したり、のりが付着したディスクを入れたため、ディスクが内部に貼り付いている、または貼り付いたディスクが内部に落ちて挟まっている。VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ ディスクやMDを入れたまま、本機を移動するなどの振動を与えたため、ディスクやMDが内部に挟まった。VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ 「MDを取り出すには」（103ページ）の操作を行ってもMDが取り出せないときは、いったん本機の電源を切り、再度電源を入れてください。そのあと、⏏（MDイジェクト）ボタンを押してください。それでもMDが取り出せないときは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

MDが入らない。

→ MDの向きが違う。矢印の書いてある面を上にして、矢印の向きに挿入する。

MDの操作を受け付けない。

→ MDが汚れている、または破損している。新しいMDと交換する。

→ TOCを読み込み中である。（本機前面パネルの表示窓に「TOC READING」と表示されます。）「TOC READING」が消灯してから操作し直す。

→ 表示窓にVAIOロゴまたは時刻が表示されているときにMDを入れようとすると、MDは排出され、TOCなどが正しく認識されなくなります。このような状態になったときは、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押して、いったんオーディオモードの電源を切り、再度、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押して、オーディオモードで電源を入れてください。

ディスクやMDの再生が始まらない。

→ ディスクやMDが入っていない。ディスクやMDが入っているか確認する。

→ ディスクやMDの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。汚れを拭き取る（285ページ）。

→ ディスクの傷がひどい。ディスクを交換する。

→ 再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。ディスクを交換する。

→ ディスクが裏返しに入っている。印刷面を上にして、DVD-ROMドライブに入れ直す。

→ 本機内部のレンズ、または入れたディスクやMDが結露している。ディスクは取り出してディスクの水分を拭き取り、MDは本機に入れて、本機の電源を入れたまま数時間待つ。

→ ディスクやMDが再生状態になっていない。「Media Bar」または「MD Player」ソフトウェアで再生ボタンをクリックするか、オーディオ／DVD用リモコンの ▷再生を押し、再生状態にする。

音とびがする。

→ ディスクやMDの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。汚れを拭き取る（285ページ）。

→ ディスクの傷がひどい。ディスクを交換する。

→ 演奏しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。ディスクを交換する。

→ 本機に振動が加わっている。振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。または、スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。

次のページにつづく

→ 本機内部とディスクの温度差がはげしい。MDを本機に入れ、電源を入れたまま10～20分待つ。

音楽CDの再生が1曲目から始まらない。

→ シャッフル再生になっている。
PCモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンの再生モードボタンをくり返し押して、「Media Bar」ソフトウェアの画面の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。または、「Media Bar」ソフトウェアでシャッフル再生を解除する。詳しくは別冊の「Media Bar」取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
オーディオモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンの再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。

MDの再生が1曲目から始まらない。

→ シャッフル再生になっている。
PCモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンの再生モードボタンをくり返し押して、「MD Player」ソフトウェアの画面の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。または「MD Player」ソフトウェアでシャッフル再生を解除する。詳しくは、別冊の「Media Bar」取扱説明書またはヘルプをご覧ください。オーディオモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンの再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。

録音・編集

MDに録音したり編集を行ったのに、その情報が記録されていない。

→ オーディオモードで、MDの録音後、MDを取り出さないで電源コードを抜いた、または停電があった。MDの録音情報は、MDを取り出すときに記録されるため、録音後は必ずMDを取り出してください（109、124ページ）。

録音できない。

→ MDが誤消去防止状態になっている（「PROTECTED」が表示窓に表示されている）。ディスクを取り出し、録音可能状態にする（110、123ページ）。

→ 音源がMDになっている。他の音源に切り換える。

→ 市販の再生専用のMDが入っている。録音用MDと交換する。

→ MDの残り時間が足りない。MD編集のイレース機能を使っていらない曲を消すか、別のMDと交換する。

→ 録音中に停電があった、または電源コードが抜かれた。初めから録音し直す。

FMラジオ

雑音が入る／受信できない。

→ 放送局のバンド、周波数が合っていない。周波数を正しく設定する（127ページ）。

→ アンテナが正しく接続されていない。正しく接続し直す。つなぎかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ FM ANTENNAコネクタに整合器を直接つないでいる。付属のFMアンテナケーブルを使って、整合器とFMフィーダアンテナを本機からできるだけ離す。つなぎかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ FMアンテナが受信状態のよい場所に設置されていない。または電波が弱い。受信状態のよい場所（窓の外など）や方向を探し、設置し直す。設置のしかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

鉄筋、鉄骨造りのマンションなどの場合、付属の簡易アンテナでは充分に受信できない場合があります。窓の外に設置しても受信状態がよくならない場合は、市販の外部アンテナをつなぐことをおすすめします。

→ FMアンテナの一部分を折りたたむ、束ねる、巻き取るなどしている。付属のFMフィーダアンテナは全面で受信しているため、余分に感じる部分もそのまま垂らしておく。また、付属のFMフィーダアンテナの先は、テープなどで壁にとめる。

→ 付属のFMフィーダアンテナのT字部分がさけてしまった。セロファンテープなどでもとの位置まで張り合わせる。

→ 他のコンピュータ、テレビ、電話、蛍光灯などの電気器具の影響を受けている。電気器具の電源を切ってみるか、なるだけアンテナから離す。

→ サテライト局を選んで受信する（127ページ）。

→ 壁のテレビのアンテナコネクタに本機のFMアンテナを接続してみる。

ラジオの音声は聞こえるが、文字放送が表示されない。

→ FM文字放送の受信には、FMラジオ以上の受信電波の強さが要求されます。受信状態のよい場所や方向を探して、より受信状態がよい場所でお使いください。

→ 受信中のFM放送局が文字放送を行っていない。文字放送を行っているFM放送局を確認してください（303ページ）。

次のページにつづく

ステレオにならない。

→ モノラル受信の設定になっている。オーディオ／DVD用リモコンの音声切換ボタンを押し、表示窓に「STEREO」を点灯させる。

→ 受信状態が悪い。症状「雑音が入る／受信できない」を参照し、アンテナの状態を確認する。

MDに録音中、ザーザーという雑音が周期的に入る。

→ アンテナの設置位置が適切でない。雑音が消える位置までアンテナを動かす。

「FM Tuner」ソフトウェアの「プリセット設定」で設定したはずの受信地域などのプリセットが使えない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、プリセットがお買い上げ時の設定に戻った。
PCモードで本機の電源を入れ、設定し直す。（128ページ）

録画

「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェア（PCV-MX3GKのみ）を使って録画が正常にできない。

→ 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。（209、214ページ）

→ 「DVgate」または「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

その他

前面パネルのボタンを使ったその他の操作

ここでは、「AV機能操作編」（75ページ）でご紹介できなかった前面パネルのボタンを使った操作のしかたについて説明します。

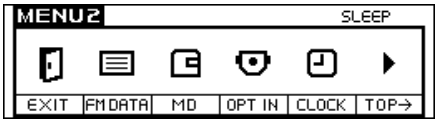
MENU1

イコライザを設定したりタイマー設定を確認したりできます。前面パネルのMENUボタンを押すと表示されます。

ボタン		機能
マルチファンクションボタン		
	FC1（EXIT）	表示窓の画面をメニューに入る前に戻す。
	FC2（EQ）	プリセットイコライザを選択したりイコライザのマニュアル設定をする画面が表示される。（170ページ）
	FC3（SLEEP）	スリープタイマーを設定する画面が表示される。（143ページ）
	FC4（TIMER）	「MX Stage」で設定したタイマーの設定内容を確認する画面が表示される。
	FC5（LCD）	表示窓の明るさやコントラストを設定する画面が表示される。（262ページ）
	FC6（NEXT →）	「MENU2」を表示する。
MENU		メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

MENU2

FM文字放送のページの自動送りの速度やMDのスマートスペースを設定したり、OPTICAL INコネクタを設定したりできます。前面パネルのMENUボタンを押し、「MENU1」を表示させたあと、FC6（NEXT→）ボタンを押すと表示されます。



ボタン		機能
マルチファンクションボタン		
	FC1（EXIT）	表示窓の画面をメニューに入る前に戻す。
	FC2（FM DATA）	FM文字放送受信時に表示窓に表示される文字放送番組の情報のページが自動送りされる速度を調整する画面が表示される。（262ページ）
	FC3（MD）	MD録音時のスマートスペース機能を設定する画面が表示される。（263ページ）
	FC4（OPT IN）	OPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器を設定する画面が表示される。（263ページ）
	FC5（CLOCK）	表示窓に表示する時刻の表示のしかたを設定する画面が表示される。（265ページ）
	FC6（TOP →）	「MENU1」を表示する。
MENU		メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

次のページにつづく

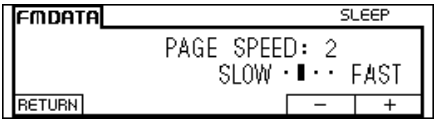
LCD設定

表示窓の表示の明るさやコントラストを調整します。

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU1」に戻る。
FC3（☼ －）	押すごとに、表示窓の明るさが暗くなる。
FC4（☼ ＋）	押すごとに、表示窓の明るさが明るくなる。
FC5（◑ －）	押すごとに、表示窓のコントラストが弱くなる。
FC6（◑ ＋）	押すごとに、表示窓のコントラストが強くなる。
MENU	メニューから抜けてメニューに入る前の画面へ戻る。

FM DATA設定

FM文字放送受信時に表示窓に表示される文字放送番組の情報のページが自動送りされる速度を調整します。



ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU2」に戻る。
FC5（－）	押すごとに、ページ送りが遅くなる。
FC6（＋）	押すごとに、ページ送りが速くなる。

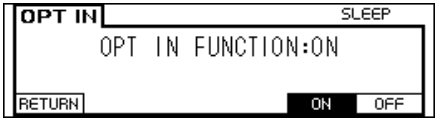
MD設定

MD録音中のスマートスペース機能の設定を行います。
スマートスペース機能をONに設定すると、MDへの録音中に無音状態が続いたあとで音声が再び入力された場合、曲間を録音状態のまま約3秒に短縮します。ただし、無音状態が30秒以上続いた場合は、曲間を約3秒に短縮してから録音が停止します。この場合、実際の表示と録音時間がずれることがあります。

ボタン		機能
マルチファンクションボタン		
	FC1（RETURN）	「MENU2」に戻る。
	FC5（ON）	スマートスペース機能を設定する。
	FC6（OFF）	スマートスペース機能の設定を解除する。
MENU		メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

OPT IN設定

本機後面のOPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器について設定します。



ボタン		機能
マルチファンクションボタン		
	FC1（RETURN）	「MENU2」に戻る。
	FC5（ON）	OPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器を使えるように設定する。
	FC6（OFF）	設定を解除する。
MENU		メニューから抜けて、メニューに入る前の画面に戻る。

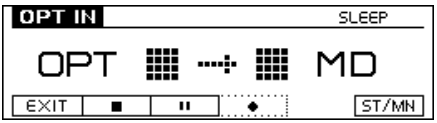
次のページにつづく

OPT IN（再生時）

ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションを「CD」へ切り換える。
REC	デジタル機器から入力する音声をMDへ録音する画面が表示される。（下記）

OPT IN（録音時）

本機のOPTICAL INコネクタにつないだデジタル機器から入力される音声を本機のMDに録音します。

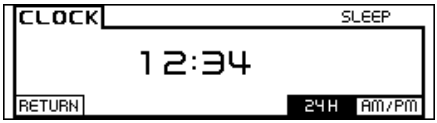


ボタン	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	表示窓の画面を一つ前に戻す。
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音中に押すと録音を一時停止する。
FC4（●）	録音待機状態にする。
FC6（ST／MN）	録音する音声のステレオ／モノラルを切り換える。

DISPLAY	押すたびに、以下のように表示が切り換わります。 **録音中、録音一時停止中** **アニメーション画面** ↓ **MDの曲番とMDの残り時間** ↓ **スペクトルアナライザ** **停止中** **アニメーション画面** ↕ **MD全曲数とMDの残り時間**

CLOCK設定

表示窓に表示される時刻の表示のしかたを設定します。



ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（RETURN）	「MENU1」に戻る。
FC5（24H）	時刻を24時間表示にする。
FC6（AM/PM）	時刻を12時間表示にする。
MENU	メニューから抜けてメニューに入る前の画面へ戻る。

ご注意

この画面では時刻の設定はできません。時刻の設定を変更するときは、以下の手順に従ってください。

1 本機の⏻（電源）ボタンを押して、PCモードに入る。

2 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 ［日付と時刻］をダブルクリックして表示される画面で設定を変更する。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

本機には、コンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
また、本機のお買い上げ時の設定では、システムを自動監視する「VShield」が働かないよう設定されています。この機能をご利用になるには、次ページの手順に従って操作してください。
また、本機能をご利用になる場合は、268ページの注意事項もあわせてご覧ください。
なお、「VirusScan」、「VShield」について詳しくは「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
日本ネットワークアソシエイツ株式会社 テクニカルサポート
電話番号：(03) 5428-1101

ご注意

次ページの手順を行うには、管理者権限（Administrators）のユーザーでログオンしている必要があります。

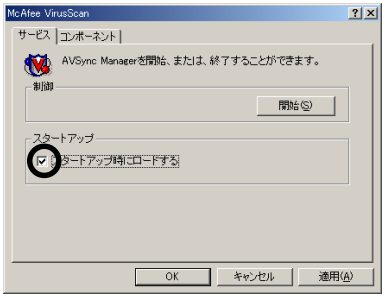
1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロール パネル］をクリックする。**

「コントロール パネル」画面が表示されます。

2 **(VirusScan) をダブルクリックする。**

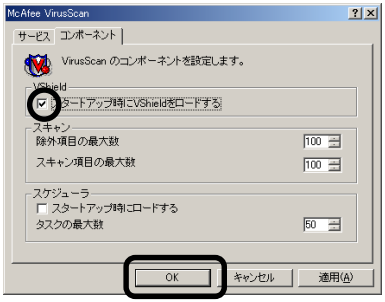
「McAfee VirusScan」画面が表示されます。

3 **［スタートアップ時にロードする］をクリックしてチェックする。**



4 **［コンポーネント］タブをクリックする。**

5 **［スタートアップ時にVShield をロードする］をクリックしてチェックし、OK をクリックする。**



次のページにつづく

「VShield」ソフトウェアをご使用になる際のご注意

- 「VShield」を有効にすることにより、Windowsの起動時間が長くなる場合があります。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧ください。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って本機を再セットアップすることで、ハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する（お買い上げ時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
  詳しくは「パーティションサイズを変更する」（274ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 2000だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って行ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を標準設定にしてから再セットアップしてください。

次のページにつづく

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。

バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップする」の手順4で「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

「再セットアップする」の手順4で「パーティションサイズを変更してリカバリ」または「出荷時状態へリカバリ」を選んだ場合は、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更したり、お買い上げ時の状態に戻す前に、大切なデータはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- すべての周辺機器を取りはずしてください。再セットアップが終わったあとに周辺機器を再び接続してください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。
- 本機がPCモードで起動しているか。オーディオモードになっているときは、いったん電源を切り（77ページ）、本機前面の ⏻（電源）ボタンを押してPCモードで起動し直してください。

Windows 2000が完全に起動できない場合などに本機を再セットアップするときは、「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（272ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」（274ページ）をご覧ください。

ご注意

再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 本機の電源がPCモードで入っている状態で、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」をDVD-ROMドライブに入れる。

自動的に「VAIO System Recovery Utility」が起動し、「はじめに」画面が表示されます。

CD-ROMの入れかたについて詳しくは、85ページの手順4をご覧ください。

2 内容をよく読み、次へ(N) > をクリックする。

3 引きつづき内容をよく読んでから［同意する］をクリックし、次へ(N) > をクリックする。

「メニュー選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

［同意しない］をクリックすると、再セットアップ作業を続けることはできません。

4 再セットアップの方法を選んで、○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

次の中から再セットアップの方法を選びます。

「フォーマットしてリカバリ」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「出荷時状態へリカバリ」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

次のページにつづく

5 **画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の ☐ をクリックして ☑ にし、 完了 をクリックする。**

自動的に本機が再起動し、再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、 キャンセル をクリックします。

6 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ** CD-ROM Vol.2 of 2**」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

7 **「システム リカバリ** CD-ROM**」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ** CD-ROM**」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

8 **別冊の「はじめにお読みください」の「**Windows 2000**を準備する」の手順に従って、**Windows 2000**をセットアップする。**

9 Windows 2000**のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ** CD-ROM**」をDVD-ROMドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、 OK をクリックしてください。

Windows 2000**が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには**

1 **付属の「システム リカバリ** CD-ROM Vol.1 of 2**」をDVD-ROMドライブに入れる。**

CD-ROMの入れかたについて詳しくは、85ページの手順4をご覧ください。

2 Windows 2000**が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。**

Windows 2000の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（43ページ）をご覧ください。

3 **30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。**
しばらくするとDVD-ROMドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

4 **「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。**
メニュー画面が表示されます。

5 **再セットアップの方法を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。
「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。
「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。
「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。
「4.システム リカバリ CD-ROMを終了する...」：再セットアップを中止します。

6 **画面の指示に従って操作する。**
操作を続けるかどうか聞かれたときは、Y/ん キーを押して Enter（エンター）キーを押してください。

7 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ** CD-ROM Vol.2 of 2**」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**
再セットアップの続きが始まります。

8 **「システム リカバリ** CD-ROM**」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ** CD-ROM**」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

9 **別冊の「はじめにお読みください」の「**Windows 2000**を準備する」の手順に従って、**Windows 2000**をセットアップする。**

次のページにつづく

10 Windows 2000**のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ** CD-ROM**」を**DVD-ROM**ドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK] をクリックしてください。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」の「Load Setup Defaults」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」は本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）」（19ページ）をご覧ください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェア（PCV-MX3GKのみ）などで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのためデータスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。

パーティションを区切ると、Windows 2000はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するには非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 「再セットアップする」（271ページ）の手順1〜3を行う。

2 再セットアップの方法の中から、「パーティションサイズを変更してリカバリ」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」画面が表示されます。

詳細情報 をクリックすると、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 一覧からパーティションサイズを選び、次へ(N) > をクリックする。

4 画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の □ をクリックして ☑ にし、完了 をクリックする。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、キャンセル をクリックします。

次のページにつづく

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ** CD-ROM Vol.2 of 2**」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 **「システム リカバリ** CD-ROM**」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ** CD-ROM**」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

7 **別冊の「はじめにお読みください」の「**Windows 2000**を準備する」の手順に従って、**Windows 2000**をセットアップする。**

8 Windows 2000**のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ** CD-ROM**」をDVD-ROMドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

Windows 2000**が完全に起動しない状態で本機のパーティションサイズを変更するには**

1 **「**Windows 2000**が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」(**272**ページ) の手順**1**～**3**を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「**2.**パーティションサイズの変更...」を選び、Enter (エンター) キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。

Esc (エスケープ) キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enter (エンター) キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してから Enter (エンター) キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうかを聞かれたときは Y キーを押し、Enter（エンター）キーを押してください。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2**」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 「システム リカバリ CD-ROM**」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ** CD-ROM**」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

7 別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000**を準備する」の手順に従って、**Windows 2000**をセットアップする。**

8 Windows 2000**のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ** CD-ROM**」をDVD-ROMドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するもの（健康器具、玩具など）を置くと、相互作用でテレビ画面に色むらが起こりやすくなります。設置場所にご注意ください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

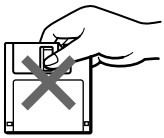
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをお読みください。

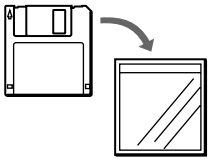
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、次ページの「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピュータウイルスは他プログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

次のページにつづく

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
- 本機にはコンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。
  コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
  また、本機のお買い上げ時の設定では、システムを自動監視する「VShield」が働かないよう設定されています。
  この機能をご利用になるには、「コンピュータウイルスについて」(266ページ) の手順に従って操作してください。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。
  フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。
  インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」および「VShield」ソフトウェアについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧ください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

DVD-ROMドライブの地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のDVD-ROMドライブの地域番号は「2」（日本）に設定されています。Windows 2000および一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 2000用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーをテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

FM文字放送について

- 本機のFMラジオは日本国内用です。海外では放送方式が異なりますので、FM文字放送を受信することができません。
- 本機はVICS（交通情報サービス）に対応していないため、受信することはできません。
- FM文字放送の内容について、当社では責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 情報の内容について、個人として楽しむなどのほかは、権利者に無断で使用できません。

次のページにつづく

FMラジオ放送が受信できても、FM文字放送が受信できない場合があります。

- FMラジオ放送と受信方式が異なるので、FMラジオ放送がある程度受信できても電波の強さによりFM文字放送が受信できない場合があります。またはFM放送局が文字放送を行っていない場合もあります。
- 付属のFMアンテナの位置を少し動かすだけで良好に受信できることがあります。より受信条件の良い場所を探してください。

音量を調節するときは

ディスクはレコードとくらべ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

演奏をはじめる前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

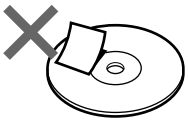
ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。

特に、夜は小さめな音でも周囲には良く通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

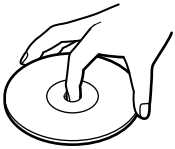
ディスクの取り扱いについて

ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



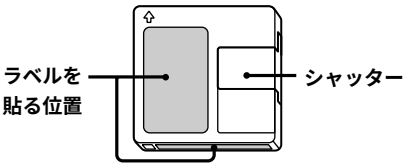
- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面には触れないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

MDの取り扱いについて

- シャッターを無理に開けようとすると、壊れることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに直接触れずに、すぐ閉めてください。
- ディスクに付属のラベルはシャッターの周りなど所定以外の場所には貼らないでください。必ずラベル用のくぼみに貼ってください。くぼみの形はディスクによって異なります。



- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。

MDのシステム上の制約

MDではいくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音時間に達していなくても、表示窓に「DISC FULL」が表示される

255曲録音されると、それ以上の録音はできません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音するか、別のMDを使ってください。

曲数（最大255曲まで）にも録音時間にも余裕があるのに「DISC FULL」が表示される

曲中にエンファシス情報などの入り切りが多く行われたり、録音や編集をくり返し行うと、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「DISC FULL」が表示されます。

曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない

ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても、録音できる残り時間が増えないことがあります。

曲をつなげない

つなごうとする曲の長さが8秒以下のとき、その曲の曲番を消して曲をつなぐことはできません。また、編集を行ってできた曲はつなぐことができない場合があります。

次のページにつづく

ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間と一致しない

通常、録音は約2秒を最小単位としてディスクに記録します。2秒に満たない場合でも、実際には2秒分のスペースを使います。このため、実際に録音できる時間は少なくなります。また、MDに傷があるとその部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

編集した曲を再生しながら早送り、巻戻しすると音が途切れる

再生しながら早送り、巻戻しするときは通常より高速で再生します。このため、短い曲がディスクの上に分散していると探すのに時間がかかり、音が途切れることがあります。

曲番が曲の頭に付かない

レベルシンクロ録音中でも、次のときは曲番が曲の頭に付かないことがあります。

- 曲の間が短くて一定レベル以下になるのが2秒未満のとき
- 曲の途中でも2秒以上一定レベル以下になるとき

デジタルオーディオをコピーするときのルール ― シリアルコピーマネージメントシステム

デジタルオーディオでは、音声信号をデジタルでやりとりします。コンパクトディスク（CD）、ミニディスク（MD）、デジタルオーディオテープ（DAT）、衛星デジタル音楽放送などがこれに当たります。これらは音楽を手軽に、劣化の少ない状態でコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。それが「シリアルコピーマネージメントシステム」です。本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

デジタル信号同士のコピー*は1世代まで

原則1

市販のデジタル音楽ソフトのコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

原則2

市販のアナログ音楽ソフト（アナログレコードやカセットテープなど）や公共放送をデジタル録音したもののコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

* コピーとは「デジタル信号をデジタル信号のまま録音したもの」を指します。本機では、本機のCDプレーヤーからMDデッキへの録音で、コピーを作れます。

ご注意

- アナログ入出力端子同士をつないで録音した場合は、この原則に当たりません。
- 本機はMDのサンプリング周波数（44.1kHz）と異なるDATや衛星デジタル音楽放送のサンプリング周波数（32kHz、48kHz）に対応するMDデッキを備えています。衛星デジタル音楽放送を録音する場合は、デジタル信号同士のコピーは2世代までできます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

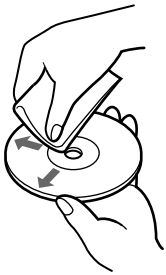
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

ディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外側へ軽く拭きます。



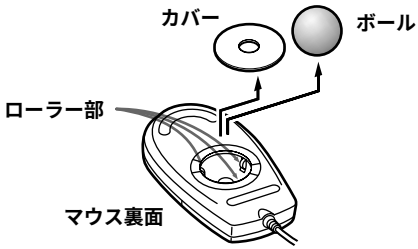
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

MDのお手入れ

定期的にカートリッジ表面についたほこりやゴミを乾いた布で拭きとってください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

次のページにつづく

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。

当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

次のページにつづく

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCV-MX3GK/MX3K
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

モード別オーディオ／DVD用リモコン操作一覧

ここでは、PCモード別およびオーディオモード別でのオーディオ／DVD用リモコンの操作について説明しています。オーディオ／DVD用リモコンをお手にとりながら本機のオーディオ機能などを操作できます。「各部の名称と働き」（24ページ）もあわせてご覧ください。

PCモード

ディスクを再生する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

音楽CD／DVDビデオ共通

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または▷ 再生を押す。
再生中にチャプター[1] や映像、曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に画面を見ながら（音を聞きながら）探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量 ＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。

[1] DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（99ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

音楽CDのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、 または が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）	再生モードボタンを、「SHUF」が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
再生するトラック[2)] を選ぶ	数字ボタンで再生したいトラックの番号を押す。10トラック目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す。（99トラックまで） 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
時間表示を切り換える	表示ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り換わります。 →コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間 パッケージ残り時間 ←パッケージ経過時間←

[2)] 音楽CDに記録されている曲の区切り（1曲分）のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（99ページ）をご覧ください。

DVDビデオのみ

こんなときは	操作のしかた
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、タイトル または チャプター が「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示されるまで押す。
字幕を表示する	再生中、字幕ボタンを、好みの字幕が表示されるまで押す。
音声を切り換える	音声切換ボタンを好みの音声が選択されるまで押す。
アングルを切り換える	再生中、アングルボタンを、好みのアングルが表示されるまで押す。
タイトル[3] メニューで好きなタイトルを選ぶ	1 タイトルボタンを押してタイトルメニューを表示させる。 2 再生したいタイトルを⇦／⇧／⇩／⇨ボタンで選び、決定ボタンを押す。
DVDメニューで好きな項目を選ぶ	1 DVDメニューボタンを押してDVDメニューを表示させる。 2 再生したい項目を⇦／⇧／⇩／⇨ボタンで選び、決定ボタンを押す。
時間表示を切り換える	表示ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り換わります。 **タイトル経過時間** ↕ **タイトル残り時間**

[3] DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位のことです。詳しくは、「ディスクに関する用語の説明」（99ページ）をご覧ください。

ご注意

再生するDVDビデオによっては動作しない機能があります。

次のページにつづく

MDを再生する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「MD」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を聞きたいところまで押し続ける。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、決定ボタンを押す。 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
時間表示を切り換える	表示ボタンを押すごとに「Media Bar」ソフトウェアの画面に表示される内容が以下のように切り換わります。 **→コンテンツ経過時間 →コンテンツ残り時間** **パッケージ残り時間 ←パッケージ経過時間←**

音楽CDをMDに録音する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
「Media Bar」ソフトウェアで再生指定中の音楽CDのすべての曲をMDに録音する	全局ダビングボタンを押し、⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
「Media Bar」ソフトウェアで再生指定中の音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ 前または⏭ 次ボタンで録音したい曲を選んでから1曲ダビングボタンを押し、⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。

FMラジオをMDに録音する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
録音する	● 録音を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。

次のページにつづく

FMラジオを聞く

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▷ 再生を押す。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1～8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⏮ 前／▷▷⏭ 次を押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
FMラジオ音声のみをミュート（消音）する	□ 停止を押す。ミュートを解除するときは、▷ 再生を押す。
音声（ステレオ／モノラル）を切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	● 録音を押す。

オーディオモード

音楽CDを再生する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
再生中に曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
再生中に曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン −または ▶▶ 選局／スキャン ＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量＋／−ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す。（99曲まで） 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、🔁 または🔁1が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	再生モードボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

次のページにつづく

MDを再生する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「MD」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を聞きたいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、決定ボタンを押す。選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、🔁 または🔁1が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	再生モードボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

音楽CDをMDに録音する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
音楽CDすべての曲をMDに録音する	● 録音または全曲ダビングボタンを押し、⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ 前または⏭ 次ボタンで録音したい曲を選んでから1曲ダビングボタンを押し、⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。

FMラジオをMDに録音する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
録音する	● 録音を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。
録音を一時停止する	⏸ 一時停止を押す。
一時停止したあと、録音を再開する	⏸ 一時停止または ▷ 再生を押す。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。

次のページにつづく

FMラジオを聞く

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▷ 再生を押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1～8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⏮ 前または▷▷⏭ 次を押す。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	●録音を押す。

スリープタイマーを設定する

音楽CDやMDの再生中、FMラジオの受信中に、オーディオ／DVD用リモコンのスリープボタンを希望の時間が表示されるまでくり返し押す。

スーパーエリアコール周波数一覧

1 北海道（北海道）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		AIR-G' (FM 北海道)	FM NORTH WAVE	NHK FM					
周波数	S1	80.4	82.5	85.2	–	–	–	–	–
	S2	76.4	77.2	81.6	–	–	–	–	–
	S3	78.5	79.4	84.3	–	–	–	–	–
	S4	79.2	79.5	84.5	–	–	–	–	–
	S5	81.9	79.8	85.8	–	–	–	–	–
	S6	83.1	80.7	86.0	–	–	–	–	–
	S7	86.4	82.1	87.0	–	–	–	–	–
	S8	87.8	–	87.5	–	–	–	–	–
	S9	88.8	–	88.0	–	–	–	–	–
	S10	89.4	–	88.2	–	–	–	–	–
	S11	–	–	88.5	–	–	–	–	–

2 東北 1（青森 秋田 岩手）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 岩手	FM 青森	FM 秋田	NHK FM				
周波数	S1	76.1	80.0	82.8	86.0	–	–	–	–
	S2	77.0	78.4	77.1	81.8	–	–	–	–
	S3	79.2	81.3	77.7	82.7	–	–	–	–
	S4	79.7	84.3	78.0	83.1	–	–	–	–
	S5	80.3	–	78.9	83.4	–	–	–	–
	S6	80.7	–	89.2	83.6	–	–	–	–
	S7	82.2	–	89.7	83.8	–	–	–	–
	S8	85.9	–	–	84.9	–	–	–	–
	S9	89.3	–	–	86.7	–	–	–	–
	S10	–	–	–	88.3	–	–	–	–

3 東北 2（宮城 山形 福島）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		Date fm (FM 仙台)	FM 山形	ふくしま FM	NHK FM				
周波数	S1	77.1	80.4	81.8	82.5	–	–	–	–
	S2	81.3	76.9	78.6	82.1	–	–	–	–
	S3	81.4	77.3	79.8	83.3	–	–	–	–
	S4	84.1	78.2	82.8	83.6	–	–	–	–
	S5	–	–	–	84.2	–	–	–	–
	S6	–	–	–	84.3	–	–	–	–
	S7	–	–	–	84.6	–	–	–	–
	S8	–	–	–	85.3	–	–	–	–
	S9	–	–	–	85.9	–	–	–	–
	S10	–	–	–	86.0	–	–	–	–
	S11	–	–	–	86.1	–	–	–	–
	S12	–	–	–	88.3	–	–	–	–

4 関東 1 （千葉 埼玉 東京 神奈川）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		Inter FM	BAY-FM (FM サウンド千葉)	NACK5 (FM 埼玉)	TOKYO FM (FM 東京)	J-WAVE (FM ジャパン)	NHK FM	FM ヨコハマ	放送大学
周波数	S1	76.1	78.0	79.5	80.0	81.3	82.5	84.7	77.1
	S2	76.5	77.7	77.5	76.7	–	80.7	80.4	78.8
	S3	–	79.3	–	84.3	–	81.9	–	–
	S4	–	79.7	–	–	–	83.5	–	–
	S5	–	87.4	–	–	–	83.7	–	–
	S6	–	–	–	–	–	83.9	–	–
	S7	–	–	–	–	–	85.1	–	–

5 関東 2 （茨城 群馬 栃木）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		RADIO BERRY (FM 栃木)	放送大学	NHK FM	FM ぐんま				
周波数	S1	76.4	78.8	83.2	86.3	–	–	–	–
	S2	78.3	77.1	80.3	76.7	–	–	–	–
	S3	78.5	–	81.6	77.8	–	–	–	–
	S4	79.1	–	82.9	79.4	–	–	–	–
	S5	84.4	–	83.4	82.0	–	–	–	–
	S6	–	–	83.7	82.2	–	–	–	–
	S7	–	–	84.2	–	–	–	–	–

6 中部 （山梨 静岡 長野）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		K-MIX (FM 静岡)	FM 長野	FM-FUJI	NHK FM				
周波数	S1	79.2	79.7	83.0	88.8	–	–	–	–
	S2	78.4	78.1	78.6	77.4	–	–	–	–
	S3	78.6	80.3	80.5	82.1	–	–	–	–
	S4	80.3	81.8	–	83.0	–	–	–	–
	S5	80.5	83.3	–	83.8	–	–	–	–
	S6	81.6	86.4	–	84.0	–	–	–	–
	S7	83.0	88.3	–	84.2	–	–	–	–
	S8	85.8	–	–	84.8	–	–	–	–
	S9	85.9	–	–	84.9	–	–	–	–
	S10	86.6	–	–	85.3	–	–	–	–
	S11	–	–	–	85.6	–	–	–	–
	S12	–	–	–	85.7	–	–	–	–
	S13	–	–	–	86.0	–	–	–	–

7 東海 （愛知 岐阜 三重）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		ZIP-FM (FM 名古屋)	FM 三重	FM AICHI (FM 愛知)	NHK FM				
周波数	S1	77.8	78.9	80.7	82.5	–	–	–	–
	S2	77.1	78.1	81.3	81.8	–	–	–	–
	S3	–	80.4	–	82.8	–	–	–	–
	S4	–	83.2	–	83.6	–	–	–	–
	S5	–	84.9	–	84.4	–	–	–	–
	S6	–	85.5	–	84.5	–	–	–	–
	S7	–	85.7	–	84.8	–	–	–	–
	S8	–	–	–	85.3	–	–	–	–
	S9	–	–	–	85.8	–	–	–	–
	S10	–	–	–	86.1	–	–	–	–

8 北陸 （新潟 富山 石川 福井）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 福井	FM 新潟	FM 石川	NHK FM	FM とやま			
周波数	S1	76.1	77.5	80.5	82.3	82.7	–	–	–
	S2	80.3	80.4	78.4	81.5	84.6	–	–	–
	S3	82.0	84.7	81.9	82.2	85.8	–	–	–
	S4	82.5	86.5	85.5	83.4	–	–	–	–
	S5	84.7	–	89.9	83.5	–	–	–	–
	S6	86.4	–	–	84.4	–	–	–	–
	S7	–	–	–	84.9	–	–	–	–
	S8	–	–	–	86.0	–	–	–	–

9 近畿 1 （大阪 京都 兵庫）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM COCOLO (関西インターメディア)	FM802	fm osaka (FM 大阪)	NHK FM	α-STATION (FM 京都)	Kiss-FM (FM 兵庫)		
周波数	S1	76.5	80.2	85.1	88.1	89.4	89.9	–	–
	S2	–	78.3	77.4	82.8	79.8	77.6	–	–
	S3	–	–	–	82.9	81.3	78.3	–	–
	S4	–	–	–	83.9	85.4	78.4	–	–
	S5	–	–	–	84.2	87.2	79.9	–	–
	S6	–	–	–	84.8	–	87.1	–	–
	S7	–	–	–	86.5	–	87.9	–	–
	S8	–	–	–	88.6	–	–	–	–

10 近畿 2 （滋賀 奈良 和歌山）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		E-Radio (FM 滋賀)	FM802	NHK FM	fm osaka	α-STATION (FM 京都)			
周波数	S1	77.0	80.2	84.0	85.1	89.4	–	–	–
	S2	–	78.3	81.8	77.4	79.8	–	–	–
	S3	–	–	82.8	–	81.3	–	–	–
	S4	–	–	83.2	–	85.4	–	–	–
	S5	–	–	83.7	–	87.2	–	–	–
	S6	–	–	83.8	–	–	–	–	–
	S7	–	–	83.9	–	–	–	–	–
	S8	–	–	84.7	–	–	–	–	–
	S9	–	–	87.4	–	–	–	–	–
	S10	–	–	88.1	–	–	–	–	–

11 中国 （鳥取 島根 岡山 広島 山口）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 岡山	FM 山陰	広島 FM 放送	FM 山口	NHK FM			
周波数	S1	76.8	77.4	78.2	79.2	88.3	–	–	–
	S2	80.4	77.2	76.4	77.7	80.1	–	–	–
	S3	84.1	78.8	77.1	77.9	83.1	–	–	–
	S4	81.3	82.1	77.8	78.6	83.3	–	–	–
	S5	82.9	83.4	80.4	81.6	83.7	–	–	–
	S6	83.8	86.6	81.3	82.1	84.0	–	–	–
	S7	84.3	–	81.4	88.6	84.3	–	–	–
	S8	–	–	81.7	–	84.5	–	–	–
	S9	–	–	82.1	–	84.8	–	–	–
	S10	–	–	82.3	–	85.3	–	–	–
	S11	–	–	83.5	–	85.5	–	–	–
	S12	–	–	85.5	–	85.7	–	–	–
	S13	–	–	86.3	–	85.8	–	–	–
	S14	–	–	–	–	85.9	–	–	–
	S15	–	–	–	–	88.7	–	–	–

12 四国 （徳島 香川 愛媛 高知）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 香川	FM 愛媛	FM 徳島	FM 高知	NHK FM			
周波数	S1	78.6	79.7	80.7	81.6	86.0	–	–	–
	S2	–	77.6	77.7	78.5	83.4	–	–	–
	S3	–	78.8	78.4	80.6	84.4	–	–	–
	S4	–	80.0	82.3	81.3	84.8	–	–	–
	S5	–	82.1	–	82.7	86.5	–	–	–
	S6	–	89.2	–	–	87.0	–	–	–
	S7	–	–	–	–	87.5	–	–	–
	S8	–	–	–	–	87.7	–	–	–

13 九州 1 （福岡 佐賀 長崎 大分）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		Love FM (九州国際 FM)	FM 佐賀	CROSS-FM (FM 九州)	SMILE-FM (FM 長崎)	FM 福岡	NHK FM	FM 大分	
周波数	S1	76.1	77.9	78.7	79.5	80.7	84.8	88.0	–
	S2	82.7	79.9	77.0	77.8	80.0	81.6	80.7	–
	S3	–	–	86.5	78.9	81.3	82.2	81.8	–
	S4	–	–	87.2	79.2	81.8	82.8	84.9	–
	S5	–	–	87.8	80.3	82.1	82.9	85.1	–
	S6	–	–	–	89.3	87.0	83.0	89.3	–
	S7	–	–	–	–	–	83.4	–	–
	S8	–	–	–	–	–	83.6	–	–
	S9	–	–	–	–	–	83.8	–	–
	S10	–	–	–	–	–	84.2	–	–
	S11	–	–	–	–	–	84.5	–	–
	S12	–	–	–	–	–	85.7	–	–
	S13	–	–	–	–	–	85.8	–	–
	S14	–	–	–	–	–	86.0	–	–
	S15	–	–	–	–	–	86.2	–	–
	S16	–	–	–	–	–	88.9	–	–

14 九州 2 （熊本 宮崎 鹿児島 沖縄）

（単位：MHz）

プリセット番号		1	2	3	4	5	6	7	8
放送局		FM 中九州	FM 鹿児島	FM 宮崎	NHK FM	FM 沖縄 (旧 FEN)	AFN		
周波数	S1	77.4	79.8	83.2	86.2	87.3	89.1	–	–
	S2	76.8	76.6	80.7	82.2	83.7	–	–	–
	S3	78.4	79.0	84.9	82.5	–	–	–	–
	S4	80.4	80.5	89.5	82.8	–	–	–	–
	S5	81.3	–	–	83.7	–	–	–	–
	S6	82.0	–	–	84.1	–	–	–	–
	S7	–	–	–	84.7	–	–	–	–
	S8	–	–	–	84.8	–	–	–	–
	S9	–	–	–	85.4	–	–	–	–
	S10	–	–	–	85.6	–	–	–	–
	S11	–	–	–	87.0	–	–	–	–
	S12	–	–	–	88.1	–	–	–	–

FM文字放送局一覧

FM文字放送は、以下の放送局で実施されています。（1997年12月現在）
周波数については、「スーパーエリアコール周波数一覧」（299ページ）でご確認ください。

JFN（全国FM放送協議会）系「見えるラジオ」

AIR-G'（北海道）	FM三重	FM愛媛
FM岩手	FM-AICHI	FM徳島
エフエム青森	FM福井	FM高知
FM秋田	FM新潟	FMK（中九州）
FM仙台	FM石川	FM佐賀
FM山形	FMとやま	FM長崎
ふくしまFM	fm osaka	FM福岡
TOKYO FM	エフエム滋賀	FM大分
エフエム栃木	FM山陰	FM鹿児島
FM群馬	広島FM	FM宮崎
K－MIX（静岡）	FM山口	FM沖縄
FM長野	FM香川	

JFL（ジャパンFMリーグ）系

J-WAVE「アラジン」
FM802「Watch-me」

NHK FM主要局

東京、横浜、浦和、千葉、名古屋、京都、神戸、大阪

独立局

Kiss-FM KOBE

文字情報は15文字×2行程度の文字を中心としたサービスとなっています。

表示窓メッセージ一覧

本機を使用中、状況によって英語のメッセージが本機前面の表示窓に表示されます。意味は以下の通りです。

音楽CD

メッセージ	原因／対策
CD EJECT	→ 音楽CDを排出中。
DISC ERR	→ オーディオモードのときにDVDビデオなど、オーディオモードでは再生できないディスクを入れた。
NO DISC	→ ディスクが挿入されていない。
TOC READING	→ 音楽CDの情報を読み取っている。表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。

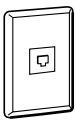
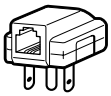
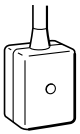
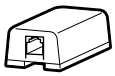
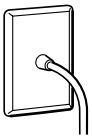
MD

メッセージ	原因／対策
AUTO CUT	→ 録音中、無音状態が30秒以上続いたため、オートカット機能が働き、無音部分（曲間）を約3秒に短縮したあと、録音一時停止状態になった。録音を始めたいところでオーディオ／DVD用リモコンの▷再生または▯▯一時停止を押し、録音を再開する。 曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除して録音し直す（263ページ）。
BLANK MD	→ 挿入されたMDには何も録音されていない、またはMD編集のErase（イレース）機能を使って録音内容がすべて削除されている。

メッセージ	原因／対策
CAN'T COPY	→ CD-ROMなどのフォーマットのディスクをMDに録音しようとしている。ディスクを取り出し、電源を入れなおす。 → 録音しようとした音源が市販の音楽ソフトのコピーになっている。またはCD-Rを録音しようとしている。シリアルコピーマネージメントシステムにより、コピーできない（284ページ）。また、CD-Rは録音できない。
DISC FULL	→ 録音可能時間が残り少なく、録音できない。新しいMDと交換する。
MD＜CD	→ 音楽CDをMDに録音するとき、MDの残りの時間が音楽CDの録音時間より短い。音楽CDを録音するのに充分な空きがあるMDと交換する。
MD EJECT	→ MDを排出中。
NO MD	→ MDが挿入されていない。
NO TRACK	→ MDのディスク名は入っているが、曲が入っていない。曲を入れる。
PROTECTED	→ MDが誤消去防止状態になっている。MDを取り出し、録音可能状態にする（110ページ）。
SMART SPACE	→ 録音中、3秒以上、30秒未満の無音状態が続いたため、スマートスペース機能が働き、無音部分が約3秒に短縮された。曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除する。（263ページ）
TOC READING	→ MDの情報を読み取っている。表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。
UNLOCKED	→ 本機後面のOPTICAL INコネクタにつないだMDデッキなどのデジタル機器から音楽データが入ってこない。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラ型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラアダプタTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラジャックコンセントTL-31

[1)] 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

[2)] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

動画系ソフトウェア入出力データ相関表

PCV-MX3GKには動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。どのソフトウェアを使うとどのような種類のデータを本機に入力できるのか、入力データをどのような種類のデータに変換できるのか、およびどのような種類のデータを本機から出力できるのかという関係を308ページの表で示します。

この相関表をお使いいただくと、動画データを活用する目的によってどのソフトウェアを使えばよいかが簡単に分かります。

ご注意

「Giga Pocket」ソフトウェアでMPEG1またはMPEG2ファイルを作るには、「ビデオカプセル」を書き出す必要があります。「ビデオカプセル」は、MPEGの動画データと各種の付加情報を統合したソニー独自のファイル形式です。

「Giga Pocket」ソフトウェアでMPEG1またはMPEG2ファイルを再生するには、「ビデオエクスプローラ」で読み込みをする必要があります。

次のページにつづく

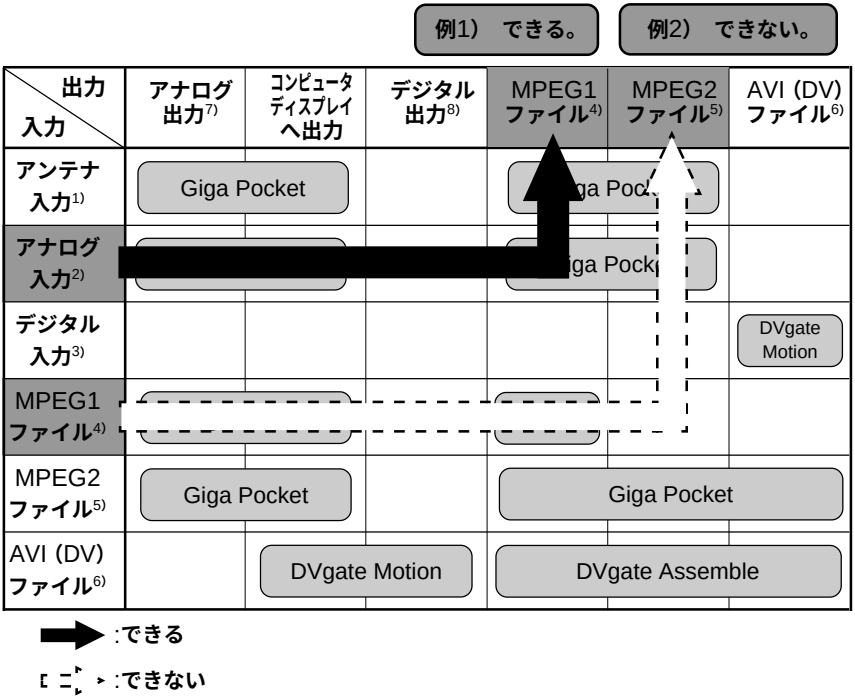
表の見かた

例1）

動画を「Giga Pocket」ソフトウェアを使って本機にアナログ入力し、MPEG1ファイルに変換して出力することができる。

例2）

MPEG1ファイルを「Giga Pocket」ソフトウェアを使って本機に入力することはできるが、MPEG2ファイルに変換して出力することはできない。



<table>
<tr><th>出力
入力</th><th>アナログ出力[7)]</th><th>コンピュータディスプレイへ出力</th><th>デジタル出力[8)]</th><th>MPEG1ファイル[4)]</th><th>MPEG2ファイル[5)]</th><th>AVI（DV）ファイル[6)]</th></tr>
<tr><td>アンテナ入力[1)]</td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td></tr>
<tr><td>アナログ入力[2)]</td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td></tr>
<tr><td>デジタル入力[3)]</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>DVgate Motion</td></tr>
<tr><td>MPEG1ファイル[4)]</td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td><td>Giga Pocket</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>MPEG2ファイル[5)]</td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td><td colspan="3">Giga Pocket</td></tr>
<tr><td>AVI（DV）ファイル[6)]</td><td></td><td colspan="2">DVgate Motion</td><td colspan="3">DVgate Assemble</td></tr>
</table>

1) アンテナ入力：テレビチューナーなどからの映像入力です。
2) アナログ入力：ビデオデッキなどからのアナログ映像入力です。
3) デジタル入力：デジタルビデオカメラレコーダーなど、i.LINK対応機器からのデジタル映像入力です。
4) MPEG1ファイル：ビデオCDなどに使われている動画データの圧縮方式です。「Giga Pocket」ソフトウェアで扱えるのはビデオCD互換のフォーマットのみです。
5) MPEG2ファイル：MPEG1より高画質の動画データの圧縮方式です。
6) AVI（DV）ファイル：Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。「DVgate Motion」ソフトウェアでは、DV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。
7) アナログ出力：ビデオデッキなどへのアナログ映像出力です。
8) デジタル出力：デジタルビデオカメラレコーダーなど、i.LINK対応機器へのデジタル映像出力です。

索引

五十音順

ア

アクティブデスクトップ ..... 187、190、198
アクティブなウィンドウ 54
アングル 91
アンテナ ..... 118、125
イーサネット 233
オーディオ電源ボタン ..... 31、77
オーディオモード 76
オーディオ／DVD用リモコン ..... 31、77
オートスクロール 50
音楽CD
　入れる 85
　お手入れ 285
　再生する 84
　使用できるディスク 97
　前面パネルのボタンで再生する 93
　取り扱いについて 282
　取り出す 92
　リモコンで再生する ..... 88、93
　録音モードを切り換える 116
　1曲だけ録音する ..... 113、116
　MDに録音する 110
オンラインマニュアル 19

カ

拡張ボード
　拡張スロット ..... 224、229
　種類 224
　増設する 224
　取り付ける 227
　取りはずす 231
　プラグアンドプレイ 224
　メモリ 225
　リソース 225
　I／Oポート 225
　IRQ 225
　PCI拡張ボード 224
壁紙 187
キーボード
　キーボードショートカット 55
　キーボードを掃除する 286
　キーボードを使う 51
休止状態 200
クリック
　クリック 47
　ダブルクリック 47
　右クリック 49
結露 278
誤消去防止つまみ 110
コンピュータウイルス ..... 266、279
コネクタ
　DVI 29
　HEADPHONES ..... 181、213
　i.LINK 214
　LINE IN 181
　LINE OUT L/R 181
　OPTICAL IN 183
　OPTICAL OUT 181
　PRINTER 221
　USB 222
　VIDEO 1 INPUT 210
　VIDEO OUTPUT 210

サ

再起動する 45
再セットアップする 270
再生する
　ディスク 84
　MD 100
　8cmディスク 87
システムアイドルモード 200
システムサスペンドモード 200
字幕 ..... 91、291
写真入りラベル 168
ショートカットキー 55
省電力機能 200
初期化 72
スーパーエリアコール 125
スーパーエリアコール周波数一覧 299
ズーム 50
スクロール
　オートスクロール 50
　スクロール 49

スタンバイモード 200
スマートスペース機能 263
スリープタイマー ..... 143、260
静止画
写真入りラベルを作る 168
電子メールに添付する 166
取り込む 165
パノラマ画像を作る 167
接続
デジタルビデオカメラレコーダー ... 214
テレビ 212
プリンタ 221
ヘッドホン 213
i.LINK対応機器 214
USB機器 222
前面パネルボタン
DISPLAY
..... 26、96、108、116、122、133
FM DATA
..... 26、122、133、136、138、140
REC ..... 26、96、115、121
MENU ..... 26、173、260
操作環境の変更
アクティブデスクトップの変更 198
ウィンドウのデザインの変更 199
音質の設定変更 170
ディスプレイの設定変更 185
ユーザー制限の設定変更 204
DVDの設定変更 176
ソフトウェア
不正コピー禁止について 280
ワードパッド 61
DVgate Assemble 163
DVgate Motion ..... 161、163
DVgate Still 165
FM Tuner ..... 117、125
Giga Pocket 35
Media Bar ..... 84、100、110、117
MovieShaker 163
MX Stage 78
PictureGear ..... 167、168
PictureToy 166
Smart Capture ..... 161、164、166
Smart Connect 216
VAIO Action Setup ..... 56、153
VirusScan ..... 266、280

タ

タイトル ..... 91、99
タイマー
音楽を聞きながら眠る 143
スリープタイマー ..... 143、260
デイリータイマー 144
目覚ましとして使う 144
FMラジオをMDへ録音する 149
タイマービュー 79
ターミナルアダプタカード 233
タスクトレイ 63
ダブルクリック 47
断片化 275
チャプター 99
チルダ 68
デイリータイマー 144
ディスプレイ
お手入れ 285
省電力機能 188
ディスプレイの設定変更 185
ディスプレイの設定
効果 190
出力デバイス 197
スクリーンセーバー 187
設定 191
デザイン 188
背景 186
Web 189
データ
書き込み禁止にする 73
バックアップをとる .....2、279、281
やりとりする 216
データズーム 50
デジタル出力の切り換え 176
デジタルビデオカメラレコーダー
..... 161、165、215
デスクトップ画面 19
デバイスビュー 79
デフラグ（最適化） 275
テレビ 212
電源
オーディオモードの電源を入れる ... 77
オーディオモードの電源を切る 77
再起動する 45
PCモードで電源を入れる 42

次のページにつづく

PCモードで電源を切る 43
電子メール
静止画を添付する 166
動画を添付する 164
電話回線
コンセントの種類 306
動画
加工／編集する 163
電子メールに添付する 164
取り込む 161
動作モード
オーディオモード 76
PCモード 76
独立情報 136
ドライバ ..... 221、226、233
ドラッグする 48
ドラッグアンドドロップ 48
取り付ける
PCカード 233
拡張ボード 227
メモリ 236
ドルビーヘッドホン 176
ドルビーデジタル 176

ナ

入力する
英字 67
カタカナ 66
かな入力 63
かな入力とローマ字入力の切り換え 63
漢字 64
ひらがな 65
ローマ字入力 63
「゛」（チルダ） 68
「〜」 68
ネットワークカード 233

ハ

パーティション ..... 162、274
ハードウェアアクセラレータ 194
ハードディスク
取り扱いについて 278
バックアップをとる ..... 2、279、281
バックアップをとる ..... 2、279、281
パノラマ画像 167
パン 50
番組情報 136
光デジタル出力の切り換え 181
ビデオカメラレコーダー ..... 161、165、215
表示窓 ..... 30、260、304
フォーマット 72
プラグアンドプレイ 224
フラッシュメモリ 232
プリセットイコライザ 170
プリセット局 130
プリンタ 221
プログラマブルパワーキー 153
フロッピーディスク
入れる 69
使用できるフロッピーディスク 74
初期化する 72
データを書き込み禁止にする 73
取り扱いについて 279
取り出す 70
フロッピーディスクイジェクトボタン ... 70
フロッピーディスクドライブアクセスランプ 69
プロファイル 195
ヘッドホン ..... 176、181、213
ヘルプ 21
ホイールボタン
オートスクロール 50
スクロール 49
ズーム／データズーム 50
パン 50
ポインタ 46
ポイントする 47

マ

マウス
ホイールボタン 49
マウスを掃除する 285
マウスを使う 46
マルチディスプレイ 192
マルチファンクションボタン ..... 25、30
右クリック 49
メモリ ..... 225、236
メモリカード 232
メモリースティック 233

メモリモジュール
増設する 236
容量を確認する 237
文字入力
英字 67
カタカナ 66
かな入力 63
かな入力とローマ字入力の切り換え 63
漢字 64
ひらがな 65
ローマ字入力 63
「゛」(チルダ) 68
「〜」 68

ラ

ライブ 136
リカバリ CD 269
リソース 225
リフレッシュレート ..... 162、166、193
リモコン
ファンクション切り換えスイッチ ... 32
イコライザ ..... 32、170
オーディオ電源 ..... 33、77
音声切換 ..... 32、90、118、131
再生モード ..... 32、90、91
消音 32
スリープ ..... 32、143
全曲ダビング ..... 32、114
タイトル ..... 33、91
録音
音楽CD 110
録音モードを切り換える 116
1曲だけ録音する ..... 114、116
FMラジオ 117
FMラジオをタイマー録音する 149

ワ

ワードパッド 61

アルファベット順

C

CD-Extra 97
CD-R 97
CD-ROM 97
CD-RW 97
CD TEXT 97

D

DVD-ROMイジェクトボタン 92
DVD-ROMドライブ 85
DVD-ROMドライブアクセスランプ ..... 85、92
DVDビデオ
アングルを切り換える ..... 91、291
入れる 85
音声を切り換える ..... 91、291
再生する 84
使用できるディスク 97
字幕を表示する ..... 91、291
設定 176
タイトル ..... 91、99
チャプター 99
テレビで見る 212
取り扱いについて 282
年齢視聴制限をする 179
リージョンコード 98
リモコンで再生する 88
DVDのマーク 98
DVgate
DVgate Assemble 163
DVgate Motion ..... 161、163
DVgate Still 165

F

FM文字放送
独立情報 136
番組情報 136
番組を登録する 141
表示を保存する 140
FM文字放送局一覧 303
見る ..... 137、138
FMラジオ
聞く 125
スーパーエリアコール 125
スーパーエリアコール周波数一覧 ... 299
前面パネルのボタンで聞く 132
タイマー録音する 149
プリセット局 ..... 128、130

次のページにつづく

目覚ましとして使う 144
リモコンで聞く ..... 129、130
MDに録音する 117

G

Giga Pocket 157
Giga Pocket用リモコン 34

I

i.LINK対応機器
静止画を取り込む 165
接続 217
操作できるi.LINK対応機器 220
データをやりとりする 216
動画を取り込む 161
i.LINKとは 216
ImageStation ..... 162、166
I／Oポート 225
IRQ 225

L

LAN 223

M

MD
入れる 100
誤消去防止つまみ 110
再生する 100
システム上の制約 283
スマートスペース機能の設定 263
前面パネルのボタンで再生する 106
取り扱いについて 283
編集する 123
リモコンで再生する ..... 102、104
録音する ..... 110、113、117、149
MDイジェクトボタン 103
MDドライブ 100
Media Bar ..... 84、100、110、117
MX Stage 78

P

PCカード
使う 232
データをやりとりする 232
取り出す 235
取り付ける 233
ネットワークカード 233
メモリカード 232
PCカードとは 232
SCSIカード 232
TAカード 233
PCモード 76
PCI拡張ボード 224
PCM 176
PictureGear ..... 167、168
Picture Toy ..... 166、167
PPK
ソフトウェアの割り当て 154
ソフトウェアを起動する 154
PPKとは 153

S

SCSIカード 232
Smart Capture ... 161、164、165、166
Smart Connect 216

T

TAカード 233
TOC 109

U

USB機器 222

V

VAIO Action Setup ..... 56、154
VirusScan ..... 266、280

W

Windows 2000 ..... 76、184

記号

「゛」（チルダ）の入力 68
「〜」の入力 68

この説明書は再生紙を使用しています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（お問い合わせ先 （社）私的録音補償金管理協会 Tel. 03-5353-0336）

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。お買い上げ時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" "は商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- 本機はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、ProLogic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
  非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。
- Adobe®およびAdobe Acrobat® ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- VirusScanは日本ネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

Sony online http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

Printed in Japan